1990～'91年度

インターアクト年次大会報告
海外研修報告

国際ロータリー第266地区インターアクト

ホストクラブ　浪速高等学校インターアクトクラブ

提　　唱　大阪住吉ロータリークラブ

1990~'91年度
国際ロータリー第266地区

インターアクト年次大会報告

自然保護ー花と緑と我らの未来ー

Protect Nature!
Save animals and plants for our future.

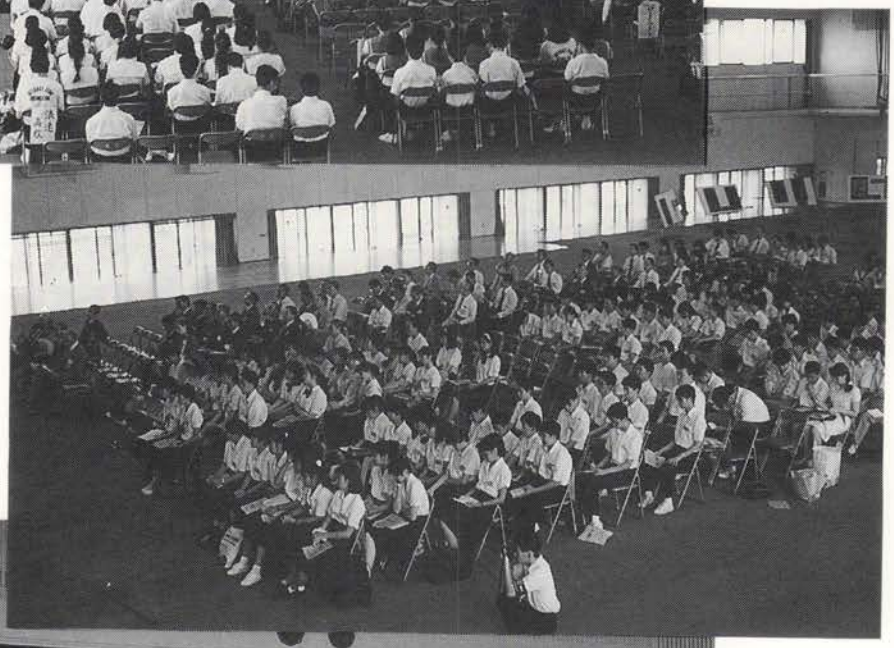
日時　1990年7月29日(日)　AM10:00開会

会場　浪速中学・高等学校　体育館

ホストクラブ　浪速高等学校インターアクトクラブ

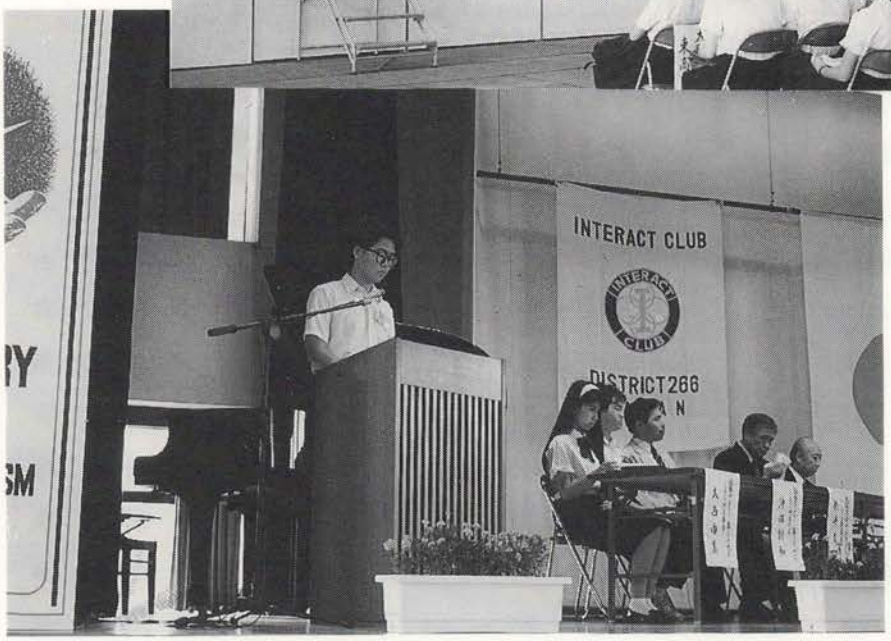
提　唱　大阪住吉ロータリークラブ

インターアクト年次大会



インターアクト年次大会
INTERACT CLUB
INTERACT CLUB
HONOR ROTARY
WITH
FAITH AND DIVERSION

1990-91年度 国際ロータリー 第266地区
インターアクト年次大会
INTERACT CLUB
DISTRICT266
JAPAN
INTERACT CLUB
NANIWA
HIGH SCHOOL
JAPAN


INTERACT CLUB
INTERACT
CLUB
DISTRICT266

FUJICOLOR 66

1990～'91年度R. I. 266地区インターアクト

年次大会プログラム

1990～'91年度ターゲット

自然保護　ー花と緑と我らの未来ー

Protect Nature!

Save animals and plants
for our future.

年次大会プログラム

日　時　　1990年7月29日(日)

9：30　受付・登録

10：00　—開　会　式—

総　合　司　会	浪速高等学校ＩＡＣ	藤　村　慎　介
点鐘・開会宣言	RI266地区代表	沖　田　訓　和
国歌斉唱・IACの歌	ソングリーダー	椿　　和　人
ターゲットの発表と説明	浪速高校ＩＡＣ	長　野　範　人
開会のことば	RI266地区インターアクト委員長	飯　原　弘　章
歓迎のことば	浪速高校ＩＡＣ副会長	阪　口　哲　雄
	浪速中・高校校長	一ノ瀬　　博
	大阪住吉ＲＣ会長	小　浦　　務
来　賓　紹　介 （来賓並びに参加ロータリアン紹介）	RI266地区インターアクト委員長	飯　原　弘　章
参加クラブ紹介並びに顧問紹介	RI266地区ＩＡＣ顧問代表	本　間　靖　彦
来　賓　祝　辞	ガ　バ　ナ　ー	廣　瀬　勘一郎
	青少年部門諮問委員パストガバナー	戸　田　　孝
	大　阪　市　長	西　尾　正　也
祝　電　披　露	浪速高校ＩＡＣ顧問	春　田　義　幸
各クラブ活動報告	各ＩＡＣ代表	９　校

11：00　—スピーチ—

ゲストスピーカー　　シンシア・ハレル

題「アメリカにおける青年達の自然保護への意識と行動」

12：00
13：00　昼　食

花　壇　製　作

15：00　―閉　会　式―

花壇製作審査結果発表・表彰 講　評	RI266地区インターアクト委員長	飯　原　弘　章
閉会のことば	浪速高校ＩＡＣ副会長	阪　口　哲　雄
点　鐘	RI266ＩＡＣ地区代表	沖　田　訓　和

午後の部　花壇製作について

大会テーマに基づき、各クラブが各校に合った花壇を製作、展示する。

1. 場　所　中庭（雨天のときは規模を縮少してピロティで実施）
2. 製作時間　2時間
3. 製作面積　1クラブ6.6㎡（2坪）以内とし、形は問わない。
4. 提供する花苗及び資材等

花苗；サルビア30株、マリーゴルド50株、ベゴニア50株

資材；10㎝ブロック30個、赤レンガ60個

自由選択資材；寒水石、テストピース、ヒューム管を用意する。

その他1クラブ1種類に限り花苗・資材を持ち込んでも良い。

（例　フェンス、観葉植物、置物等）

5. 作業について

ア．服装は、上着はインターアクトTシャツを着用し、下は自由。

イ．主催者で用意する物　大スコップ、移植ゴテ、一輪車

ウ．手袋は各校用意して下さい。

6. 審査について（大阪学校園協会役員）

審査員　大阪学校園協会役員　間　寛　氏

266地区IAC委員長　飯　原　弘　章　氏

審査方法　色合い、バランス、形、作業時間（早いのが良いとは限らない）

協力度等、全体的な出来上がりを見る。

※1. 花苗の種類については、変更する場合もある。

※2. 花苗、資材等は各校毎に終了後お持ち帰り下さい。

来賓				地区インターアクト委員会	
大阪市助役	二宮　敏明様	パストガバナー	武尾 敬之助様	委員長	飯原　弘章
ガバナー	廣瀬 勘一郎様	地区青少年活動委員長	白井　治義様	委員	得田　栄蔵
ガバナーノミニー	菅生　浩三様	地区幹事	江原　雄二様	〃	和田　健
パストガバナー	種田　憲次様	大阪住吉RC会長	小浦　務様	〃	岡部　州雅
パストガバナー	戸田　孝様	浪速高等学校校長	一ノ瀬　博様	〃	小西　欣一
パストガバナー	中西　正二様	ゲストスピーカー	シンシアハレル様	〃	中島　孝夫

RI266地区インターアクトクラブ 1990～'91年度ターゲット

自然保護　ー花と緑と我らの未来ー

Protect Nature!

Save animals and plants for our future.

浪速高校ＩＡＣ　長　野　範　人

人類は、その誕生の時から今日まで、自然とともに歩んできました。

自然の営みの中で呼吸をし、食物を得、そして自然によって心を慰められてきたのです。しかし、その一方、人類は時に苛酷な自然と闘わねばならなかったのです。そのために、自然を征服することが、文明であると考えたこともありました。だが、いま私達は、自然を犠牲にする文明に大きな過ちがあることを気づきはじめています。

確実に進行する自然破壊、絶滅の危機に瀕する多くの動・植物、さらに最近では地球の温暖化の問題など、これらはすべて私達が自らひきおこした事象なのです。

1990～'91年度のターゲット「自然保護 ― 花と緑と我らの未来 ― 」は、このような状況における私達の切実な課題として設定されました。

すばらしい文明を築きあげた人類は、地球上のあらゆる生物が運命共同体であるという認識のもとに、いまこそかけがえのない自然を守るために立ちあがらなければなりません。

『国際花と緑の博覧会』をきっかけとして、緑の絶えた「赤い地球」にしないように、私達は努力していくことが必要ではないでしょうか。

〈花壇作成の目的〉

本年度ターゲット「自然保護 ― 花と緑と我らの未来 ― 」にもとづき、私達が忘れかけている緑と生活の調和を計り、自然を大切にする心を育てるためには、まず、花や緑に触れることが必要ではないかと思います。

既に、学校によっては緑や花を取り入れるための工夫がなされているとは思いますが、今一度私達インターアクターがそのイニシャティブをとっていかねばならないと思います。

その第一歩として本日の午後の部においては、それぞれの校風に合わせた花壇作成に努力して下さい。

また、本日展示後も各校に持ち帰り、校庭の一隅を明るくしていただき、本大会の目的が果たせられることを念願します。

開会のことば

RI第266地区インターアクト委員会
飯原弘章

本日ここに国際ロータリー第266地区インターアクト年次大会を開催いたしましたところ大阪市より二宮助役様、地区より廣瀬ガバナーはじめご来賓の皆様、地区内21RCのロータリアン多数ご参加いただきました。猛暑の折柄のご出席感謝に耐えません。

さて、本年のインターアクト地区テーマを「自然保護 ― 花と緑と我らの未来 ― Protect Nature!」として現在開催されています「花と緑の博覧会Expo'90」に合せて期初早々に年次大会を催しました。今期このテーマをもとに各インターアクトクラブがどの様に活動するかは、提唱RCと顧問の先生方に校風と地域に見合う奉仕のご指導をお願いしております。

本年度国際ロータリーのパウロ．コスタ会長は「ロータリーを高めよ」のテーマと共にもう一つのテーマ「我等の天体、地球の保全」を推進する様、世界中のロータリアンに呼びかけています。私たちロータリアンもインターアクトの諸君と同じ目標をRI会長から与えられました。

インターアクトの諸君は先ず身近な自然を守り生活環境を良くする「プロテクト　ネイチュアー」を実践し、学校内外はもとより諸君の地域社会をどうすれば良くなるかを考えていただきたいと思います。

本年度のテーマで各クラブに於ていかに活動出来たかについては年度末の5月に加盟9校と提唱RC、地区IA委員会とか総括の会合に於て発表していただく様、計画しておりますのでインターアクター諸君の活発な奉仕活動を期待しています。

ご参加の皆様には本日のガーデンコンクールが終了いたしますまで何卒よろしくおつきあい下さいます様お願い申上げます。

ありがとうございました。

歓　迎　の　こ　と　ば

浪速高校ＩＡＣ副会長

阪　口　哲　雄

本日はお暑い中、1990～91年度、国際ロータリー第266地区インターアクトクラブ・年次大会にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。本年度のテーマ、《自然保護 ― 花と緑と我らの未来 ― 》は、先程の説明でもありましたように今日の世界的問題である「自然破壊」について、我々は現状をより深く認識し、自然保護に取り組んでいくものとして提案されました。

ところで、なぜ自然保護をしなければならないのでしょう。

そもそも自然界の生活というのは、お互いに作用しあって営むのが原則であり、我々が手を加えるものではありません。しかし、時代が進むにつれて、人口が増加し、それにともなって物資の大量供給が必要となりました。そのため、熱帯雨林の樹木が大量に伐採され、多くの動物が死滅しました。そのほか経済的要因、社会的要因などによって自然の乱開発が進み、現在でも多くの動植物が絶滅の危機にさらされています。本日は、それらの現状をより多くの人に知っていただくため、会場後方におきましてＷＷＦ（世界自然保護基金）日本委員会のご協力により、世界の自然破壊の現状をパネル展示しております。これらは人間が自然界の法則にすべて反して行っているものであり、今ここに自然保護を訴えるわけであります。

「地球にも寿命がある」という言葉は本当なのかもしれません！

本日午後に予定されております《花壇製作》は、これまでに例を見ない初めての試みであり、我々が普段手にすることがなくなった土や草花を実際に手にして、自然界の一つとして植物の美しさ、大切さを理解していただき、かつ、自然との親しみの場として楽しんでいただければ幸いです。

なお、最後になりましたが、本日の年次大会を開催するに当たり、ロータリアンの方々を初めとして、各インターアクトクラブの顧問の先生方には、いろいろご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。

以上、歓迎のあいさつとします。

浪速中学・高等学校長

一ノ瀬　　博

本日は暑い中ようこそいらっしゃいました。ガバナーはじめロータリアンの皆様、インターアクターの諸君、心より歓迎申し上げます。

「社会奉仕と国際理解」を主目的としたインターアクトクラブの年次大会が、『国際花と緑の博覧会』が開かれている記念すべき年に本校でこのように盛大に開催されますことは、誠に喜ばしいことと存じます。

さて、先程も紹介がありましたように、この講堂兼体育館の緞帳は、竣工に際して生徒

達が小遣いを出し合い「記念に残る立派なものを」と募金してくれたものが基本となって完成されたものです。緞帳の縦糸・横糸の一本一本が若者の熱意と友情で結ばれているのです。また、織り込まれた絵柄は、２１人の若者が２１世紀の大海原へ勢いよく御輿を担ぎ出していく姿を表しています。

若者は常に何事にも挑戦する姿勢がなければいけません。しかし、ただがむしゃらに立ち向かうのではなく、日頃培った様々な知識を基礎に努力し行動することが大切です。縦の力と横の力を自らで育み、一歩一歩広大な世界の荒波に立ち向ってこそ、真の若者だと言えるでしょう。本日ここにお集りの皆さん一人ひとりが、まさにその主人公ではないかと思います。

どうか今日一日を有意義に活動し、新たな前進の礎としていただけることを希望して、歓迎の挨拶と致します。

大阪住吉ＲＣ会長

小　浦　　務

酷暑の日々ですがインターアクトの皆様お元気で学業に又スポーツに青春を燃やしておられることとお慶び申し上げます。

本日、地区インターアクトクラブの年次大会が浪速高等学校インターアクトクラブがホストとして、浪速高等学校体育館で開催されましたことは、スポンサーの大阪住吉ロータリークラブとして光栄に存じます。

本日ご多忙中にも拘わりませず、広瀬ガバナーを始めパストガバナーの諸先生、ロータリアンの皆様方のご参加を賜り、多くのインターアクト会員の方々のご出席をいただき厚く御礼申し上げます。

今や世界は新しい時代になりました。若人の新しいエネルギーが世界を平和と繁栄に導く原動力であると思います。今日御集まりの皆様方が「奉仕と国際理解」をより一層高め、よりクリーンな大会であって欲しいものだと念じております。

最後になりましたが、皆様方のお力添えをお願いし歓迎の言葉と致します。

ＲＩ２６６地区ガバナー

廣　瀬　勘一郎

焼けつくような真夏の太陽は、一年を通じ自然の中で最も躍動する時で、皆さんの若いエネルギーの象徴であります。

その自然を保護し、花と緑と我らの未来と言うテーマで、国際ロータリー第266地区インターアクト大会をかくも盛大に開催されまし

たことは、誠にご同慶に堪えない次第であります。本日は厳しい暑さの中を大阪市二宮助役を始め、ご来賓パストガバナー、地区委員長、関係ロータリアン、また学校関係からは一ノ瀬浪速中・高校々長他各担当の先生がたを始めインターアクトの皆さんに大勢参加いただきましたことを心より厚く御礼申し上げます。

私は国際ロータリー第266地区を担当しておりますガバナーとして２１世紀に向かって、地域社会、日本、世界を背負って立つ大切な青少年の皆さんに、よき人生のスタートを切って、幸せな道を歩み、立派な市民として成長していただく為、ロータリーの人間としての奉仕の心を推奨し、真の民主主義の精神を涵養していただく上において、色々な貴重な体験の機会をつかんでいただきたいと思っています。

今日はインターアクトの全員がチームワークを組み、お互いの友情を更に深め、広めあいながら地区大会の意義を大いに吸収し、エンジョイしていただくことを希望します。

本年のＲＩテーマは「ロータリーを高めよ」であり、サブテーマは「われらの天体、地球の保全」であります。

インターアクトの本年度テーマと正しく一致するところであり、おおいにそのテーマに挑戦して下さい。

我々や我々の子孫を地球の汚染や破壊から守るために、どんな簡単、容易なことでも結構です。草の根の運動として皆さんも自分の身の廻り、家庭、学校、地域で取り組んで下さい。

終わりに平素提唱ロータリークラブの絶大なご理解とご協力、また、加盟校顧問先生達の暖かいご指導、第266地区ロータリアン及びインターアクターの積極的な奉仕活動に心から感謝申し上げますとともに、第266地区インターアクトの益々のご発展をお祈り申し上げます。

「万物みな我が師」

青少年部門担当パストガバナー
戸　田　　孝

ＩＡＣの年次大会おめでとうございます。ロータリーが青少年問題と取組んだのは1920年からで、その歴史は長く且つ深いのです。その基本的構想は、よりよき世界をつくる為に、人類の将来を担う青少年に、ただ頭で理解するだけでなく人類　的な社会性や国際性などを、真に骨身につけて、なかば本能的なものにして貰いたいという願いをもっているのです。特にＩＡＣの皆さんには純粋な感受性の強い時期に、多くの友人と共に同じ目標をかかげて自己を高め、人のために尽す崇高

な活動を行うことで若い感動を得て、将来の生きる方向と、よき社会人となる人柄を築いて頂きたいと熱望しているのです。

人間は、つい安易にながれ、欲望のままに行動しがちになるものです。とくに自分だけの孤独な生活の中ではそのようになりがちであります。多くの友人とともに明るく積極的で人のお役にたつ修練を楽しみながら長期間積み上げた人と、無関心で自己中心の生活を続けた人との間には、人間形成の上で大きい差がでてくるのは当然といえるでしょう。

「過去の善行によって現在の繁栄があり、
現在の善行によって未来の輝きがある」

と先達が教えているように、日々の努力の積み重ねが、いろいろの形となって実を結ぶことをＩＡＣで学んで頂きたいと思います。

イギリス１８世紀、ギボン先生は「人間は２つの教育をもっている。第１は…人から受ける教育、第２は…自分が自分に与える教育である」と教えています。皆さんは恵まれた先生、父母、友人などから受ける教えを充分に吸収されるとともに、自分が自分に与える教育、即ち自分の多くの体験と思慮をもって自分自身を高められることが大切だと思います。それにはＩＡＣのすばらしい友人との共通の奉仕活動の中から多くを把みとることがいかに役立つかを身をもって知って頂きたいのです。「学ぶ心さえあれば　万物みな我が師」といわれるように、あらゆるものから学ぶ心を養うことで、すべてのものが皆さんの師となることを心に留めて頂きたいものです。

○高齢者の皆さんに手づくりのプレゼントをして温かい心の交いあいと感動を得たこと。

○海外のＩＡＣの人々との文通で国際的な友情交換を続けていること。

○地域清掃で住民の皆さんから感謝されながら長く奉仕を続けていること。

○自然保護ー花と緑と我らの未来ーをターゲットに全員で熱心に取組んでゆく努力……

各ＩＡＣの自主的構想に基づき行われている多くの奉仕の実践は目をみはるものがあります。力を合せて“他に役立つ無償の行為”から得られる人間としての充足感・満足感が、若いアクターに喜びと感動を与え、自己形成に大きい役割を果していること、またこのような“無償の行為”は、多くの人々に奉仕に取組む動機づけとなり、勇気づけとなって連鎖的な善行への足がかりとなることと思いあわせて特に意義深いものであると確信しています。世界に拡がる「奉仕の理想」に結ばれた25,000RC、110万人のロータリーが続くかぎり、「青少年と共に」を標榜する青少年への奉仕は限りなく続くものであります。将来の世界平和への最も大切な青少年活動に対して顧問先生の温かいご指導と、提唱ＲＣのご協力をよろしくお願い申し上げます。

大阪市長　西　尾　正　也

大阪市助役・二宮敏明 代読

国際ロータリー第266地区のインターアクト年次大会が、盛大に開催されましたことを心からおよろこび申しあげます。

皆様方のインターアクトクラブが、提唱ロータリークラブとともに、地域社会への奉仕と国際理解を深めることを目的として、数々の活動を繰り広げておられますことに、深く敬意を表します。特に、中学、高校生という若い世代のころから奉仕活動を経験されることは、ふれあいとぬくもりのある人間主体の都市をめざしております大阪市にとりまして誠に心強い限りであり、深く感謝いたしております。

現在、人間と自然の共生をめざした「国際花と緑の博覧会」がこの大阪で開催されておりますが、この博覧会にあわせて、「自然保護－花と緑と我等の未来」という年間テーマのもと、本日、皆様方がこうした地区年次大会を開催され、さらに、参加9クラブによります花壇製作が行われますことは、「花の万博」と同様、青少年に花と緑を愛する心を育むうえで、誠に意義深いことと存じます。

さて、鶴見緑地で開催されております「花の万博」は、お蔭さまで、入場者1千300万人を突破し、開催地元市として誠にうれしい限りであります。また、皆様方には、「花の万博」の期間中、会場の清掃奉仕をしていただき、厚くお礼を申しあげます。私どもは、この博覧会をぜひとも成功させ、大阪を花と緑の美しい水の都、文化の香りと魅力あふれる国際都市として、さらに飛躍させたいと存じます。また、21世紀に向けて人間主体のまち、世界に貢献するまちを目標に市政を積極的に進めてまいりますので、皆様方のいっそうのお力添えをお願い申しあげます。

国際ロータリー第266地区のインターアクトクラブのますますの御発展と、皆様方の御健勝、御多幸を心からお祈り申しあげましてお祝いのことばといたします。

祝　電　披　露

RI 264地区 前IAC委員長
楠　　公　延

年次大会およろこび申し上げます。
今後の貴地区インターアクトのますますの活躍をおいのりいたします。

財団法人国際花と緑の博覧会協会
事務次長　塩　谷　　薫

ご盛会おめでとうございます。自然保護をテーマに開かれたこの大会の意義は、大きいものです。今後のご活躍をいのります。

RI 264地区インターアクトクラブ
熊　井　章　人
修徳インターアクトクラブ一同

第266地区年次大会開催のご盛会をおいわい申し上げます。今後のご活躍とご発展をおいのりします。

高　野　山　高　校
インターアクトクラブ員一同

年次大会の盛会をいのり、今後のご活躍を期待するとともに、インターアクトの活動に共に努力しましょう。

活　動　報　告

大阪市立東高等学校

私達、東高校インターアクトクラブでは、毎週木曜日の放課後に、ＬＬ教室でアメリカやイギリスなどの国から来られている外国人の先生をおむかえして、英語でお互いの文化を紹介しあっています。今までにお琴の演奏をしたり、実際に和紙の紙すきに挑戦したりして、それに習字を実際に書いてみたりという、日本文化の代表的なものを紹介してきました。そのようなことを進めていく中で、国際理解というには自分達の国のことをよく理解しておく必要があり、自分達が自分達の国の文化について、いかに知らないかがよくわかりました。だから早めにそれらについて、部員達で調べあい、少しでも外国人の先生によろこんでいただけるよう考えてやっています。次は剣道や柔道などの日本的なスポーツに挑戦してみようかと考えています。また、水曜日の昼休みにはクラブの計画をたてたり、基本的な英会話で発音やアクセントなどを中心にして勉強しています。勉強といっても堅苦しいものではなく、和気あいあいと楽しくやっています。夏の海外研修では、去年、先輩方がハワイに行かれ、ホームスティや現地の高校生との交流会などがあり、とても良い経験になったと聞きました。今回は香港へ行くことになり、この機会に一つでも多くの思い出をつくってこようと思っています。

秋の文化祭では、インターアクトクラブの活動をよりいっそうみんなに知ってもらうため海外研修の報告をする一方、チャリティーバザーを中心としたユニセフの募金活動に力を入れてやっています。

冬にはクリスマスパーティーを開いて、部員同士の友情が深まり、クラブが１つにまとまるよう楽しく過ごしています。

また、今年からの新しい活動としては、東高校とオーストラリアの学校とで文通をはじめることになっており、そのため、先月には東高校の学校案内を自分達で英語版になおして送りました。このようなことはもちろん初めての体験なので、今後どのようになるのかとても楽しみです。

これからも、これからの国際化社会に役立つよう、英語の知識はもちろん、日本の事の知識もたくさん増やして、しっかりやっていこうと思います。

清　風　学　園

僕達、清風学園ＩＡＣは、高・中学生合わせて３０名の部員で構成されています。毎週土曜日に１・２年生を中心としてミーティングを開き、月曜日と水曜日は英会話を習うためイングリッシュアクティビィティセンターに出席しています。

校内の美化運動としては、校門前の清掃、花の水やりを行い、今年の夏休みを使って、かん木で花壇と椅子を作る計画を立てていま

す。個々の活動としては海外との文通や社会福祉関係の高津学園のお手伝いをしています。

又、文化祭では「南インドに井戸を」のキャンペーンや、「献血」の運動を学友会の力を借りて行っています。8年前に先輩方が率先して行われたこの２つの活動が、今や学校全体の行事として今日まで続けられてきたことを誇りに思います。去年から始めた「ポリオ募金」と、今年予定している「牛乳パックから再生紙を」もそうなることを願います。

夏には合宿を行い、相互協力の精神、奉仕の心を養うと共に先輩・後輩の親睦を深めています。冬には高津学園の方々と一緒に「もちつき大会」を行っています。

その他、学校行事である「富士登山」、学校から高野山まで歩く「100㎞歩行」などにサポート隊として参加しています。

今年から新しく加わった活動の一つに「Stamp Card」があります。これは古切手をカードにはりつけたもので、海外の方々へのおみやげなどにいいと思い作り始めました。学園の留学生や海外研修先で現地の方々に「おみやげ」として手渡すつもりです。花壇作りと共に、他の学校にも広まればうれしく思います。

以上で清風学園ＩＡＣ活動報告を終ります。

大阪桐蔭高等学校

大阪桐蔭高等学校インターアクトクラブの活動報告をさせて頂きます。僕達インターアクトクラブは大東ロータリークラブの提唱のもとに1979年に設立され、現在部員数は７５名です。今年も意欲ある一年生がたくさん入部してきました。

今年も８月３日に毎年行っている生駒ハイキングコースのクリーンハイキングを行いました。野崎観音から大東市野外活動センターまで約３㎞の道のりをゴミを拾いながら登りました。昨年より多くの空き缶や弁当箱などが落ちており、ゴミに対するいいかげんさを再認識させられました。どうしたら、ハイカーがゴミを捨てず持って帰ってくれるか考えていきたいと思います。また、今回は４班に分かれ、カレーライスや焼きそば、焼き肉などを作りました。御飯が焦げたりもしましたがなかなかおいしかったです。もう一つの目的である１・２年生の交流も、先輩・後輩を超えた仲間意識が広まり大成功でした。

５月１３日の花の万博清掃活動には、インターアクター全員が参加できました。清掃活動をしている前で、パンフレットやたばこを捨てる人がいて、とても腹が立ちまた、日本人のマナーの悪さを痛感しました。あれだけ多くのゴミ箱があるのにどうして辺り平気で捨てるのかと不思議に思いました。

６月１５日には、ロータリーの先生方を招いて“第１回大例会”を行いました。ロータリアンの先生方から、貴重なお話を聞くこと

ができ、今後の活動の参考になり、よい勉強になりました。今年は、昨年よりロータリアンの先生方を招いての例会を増やすことを決め、意気込んでいます。

これまで報告してきましたように、本校の活動も年々充実してきました　昨年は「インターアクトクラブとは」ということを考え、勉強会を行いましたが、今年も１・２年生一緒に考えていきたいと思います。

しかし、他校と比べ、まだまだ奉仕活動、福祉活動の面で不十分なところがあると思います。今後は、老人ホームの慰問や学校周辺の清掃、また募金活動など、新しい活動を積極的に取り入れていく予定です。これからも１・２年生が一層力を合わせて頑張っていきたいと思います。

以上、大阪桐蔭高校インターアクトクラブの活動報告を終ります。

大教大附属高等学校
平　野　校　舎

さて我が校の活動報告ということですが、一つずつ順番を追って報告いたします。

まず、我が校のインターアクトクラブにおける、根本方針として、様々な人達との出会い、というものがあります。これには国際交流も含まれるわけですが、これから、いやもうすでに始まっているであろう、国際化社会に向けての出発点として、大変重要なターゲットとなるのです。例えば、外国人講師との座談会。これは、我が校に来ていただいております、イギリス出身の先生との話し合いというわけですが、もちろん先生は英語を用いられます。しかし、これからの社会に向けて、我々は逃げずに真正面からぶつかって行き、とても有意義なものとなって、我々に戻って来ました。

次に、生駒学園の生徒との交流会ですが、この生駒学園というのはいわゆる孤児の方々のための施設なのですが、孤児というハンディを背負われている生徒のなんと強く、明るく生きてることでしょう。交流会を通じて感じた我々の感想でもありました。そして附属養護学校の先生方との会談、養護学校の卒業式に出席したこともありました。それは我々に一つの感動を与えたのです。それは、養護学校に通われている人々の素直なまなざし、素直な心でした。生徒すべてを素晴しく感じたのを覚えています。

さて、次に、国際交流とは少しはなれますが、福祉活動について報告させていただきます。

我々は毎年生駒山へ、ゴミ捨いに行っています。山道を登りながら、ゴミを集めるわけですが、このゴミがまたなんと多いことか。一人一人の注意でいとも易く解決してしまうことなのですが、その注意を怠った為に、行った活動なのです。自然を大切にしなければならないという心を失なうことはかくも悲しいことなのかと思いました。

次に、先日行なわれました花博の清掃活動は、勿論参加させていただきました。しかし、会場の美しさに、我々の出る幕はほとんどな

く、感心させられました。しかし、これが普通なのでは、と思う僕ですが、どうでしょう。美しい物を見て目をそむける人は少ないと思います。やはり我々一個人からの、努力が必要なのです。ほんのささいな気持ちだけで、すべてが美しく変わってゆくのです。人の心も例外ではありません。

次に、募金活動についてですが、この活動はインドに井戸を掘ろうという目標の下に、数年前から行なわれてきたものですが、今年ついに井戸を掘るだけの基金が集まり、寄付させていただきました。

以上、主な活動を報告させていただきましたが、これからももっとたくさんの活動をして行こうと思います。

さて、これは先のことになりますが、我々も、香港への海外研修に参加させていただきます。他文化を肌で感じるよき機会を与えて下さいましてどうもありがとうございました。

最後になりましたが、今まで御支援して下さいました諸先生方、ロータリアンの皆様、どうもありがとうございました。これからも様々な活動をしますので、またよろしくお願いします。

四 天 王 寺 学 園

四天王寺学園インターアクトクラブは、大阪阪南ロータリークラブの提唱のもと昭和58年に設立され、現在中学から高校まで49名の部員で、福祉と奉仕活動を中心に行っています。

おもな活動として、まず第一は社会奉仕を目的とした週2回の校外清掃と週一回の四恩学園の訪問です。四恩学園は何らかの理由で親と一緒に暮らすことができない子供達を養育している施設で、私達はそこで園児達と遊んだり、衣服のつくろいなどをします。

第二には、老人福祉を目的とした老人ホームの慰問を年に2回（お盆前とお正月前）に行い、ホーム内の施設の掃除や、お年寄りの方々と談話をしながら交流を深めているのです。

また、夏休みには私達の顧問の先生のお宅で、ロータリアンの先生方やOBを御招待し、「ユカタ会」を開きます。これは恒例となっていて、1泊2日でパーティーや花火などをして、社会見学もします。

学校の文化祭では、みんなで模擬店を出したり、全生徒に呼びかけ、古着を集めたり、夏と冬には障害をもつ方々が手や足で描いた作品などの購入に協力をお願いし、これらの総額は毎年数十万円にものぼります。

さらに交換留学生を出したり、海外から招いたりして国際交流に努めていますが、これも大阪阪南ロータリーの方々の援助によるもので感謝しています。今後も恵まれた状況にある私達に可能な限り、インターアクトクラブの精神に則した活動を続け、奉仕活動と福祉活動を発展させていこうと思っています。

金光八尾高等学校

本校のインターアクトクラブは、「人のお役に立つ人間になる」という本校の建学の精神に基づいて活動しています。

本クラブの主な活動は、大きく分けて、夏期奉仕活動・障害者施設の訪問・海外研修・文化祭・冬期奉仕活動と５つあります。

夏期奉仕活動は、日頃お世話になり、またご迷惑をおかけしている学校周辺の方々に感謝の気持ちをこめて清掃活動をさせていただきます。学校の前を流れている玉串川や近鉄高安駅までの通学路、グランド裏の道路などを中学、高校の１年生を中心に７月２１日から２８日にかけて行いました。今年は、１年生のクラス数が１学級少なく、清掃分担場所の決定に苦労しました。この清掃活動も回を重ね、清掃内容も充実し、清掃用具も増えてきました。特に足の付け根まである長靴は、玉串川の清掃でなくてはならないものです。このような道具の管理や日程の検討、清掃の指導を本クラブが企画し、各クラスの美化委員との協力で本校の夏の大きな行事となっています。

障害者施設の訪問は、昨年から「ひばり障害者作業所」へ訪問し、今年も７月１６日から２１日の６日間に訪問させていただきました。この期間は、「サマーボランティア」として一般に高校生や大学生のボランティアを募集しています。今年も昨年同様、朝の９時から４時までみんなで楽しく作業することによって仲間が増え、たいへん有意義な活動となりました。

文化祭は、本クラブの理解を深めていただくために各活動のパネル展示とひばり障害者作業所でつくった小物の販売を予定しています。

冬期奉仕活動は、本校の受験者に対してよりきれいなところで受験してもらおうという考えから、２月中旬に日頃清掃のゆきとどかない場所の清掃、特に食堂やトイレなどをクラブ員で行なう予定です。

海外研修は、本校からも参加させていただきますが、インターアクトクラブの行事として、またとない機会ですので、インターアクトクラブ員として恥ずかしくない態度で参加させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上のことを中心に活動していく予定ですが、１つ１つの活動を成功させる為の話し合いやさらに有意義な活動となるように反省点を述べ合う「例会」の場を活用し、より積極的な活動を目指しています。

大谷中・高等学校

私たちの大谷中・高インターアクトクラブはやっと３年目に入ったばかりで、まだまだしっかりしたクラブには成長しきっていませんが、毎週土曜日の平野特別養護老人ホームへの訪問を柱とした活動がだんだん定着してきました。老人ホームへの訪問は、ホームの掃除をしながら、おじいちゃんやおばあちゃんとの交流を深めていこうというものであり、

始めたころはあいさつもろくにできなかった私たちでした。でも、今となってはあいさつはもちろんのこと、できるだけ話し相手になってあげれるようにと、はりきっています。そして次の週の火曜日にみんなであつまってホームでの反省会をできるだけやっていけるようにしています。また、その老人ホームの人々にと去年のクリスマスの時に、手さげバックときんちゃくぶくろ、クリスマスカードを自分たちでつくり、プレゼントしました。その時には大変よろこばれ、私たちもとても感動しました。そして今年の3月にはおじいちゃんやおばあちゃんたちがよろこばれるというのでお好み焼きやホットケーキなどをつくっておやつの会を開きました。

5月ごろからは、花博の掃除なども始まり、7月の下旬は、大阪市社協の講演や身体の不自由な子供たちをつれて花博を見学するという予定も入っています。また、夏休みなどの長期間の休みに入りますと、おもちゃ図書館という長居の身体障害者スポーツセンターで行われている体の不自由な子供たちが遊んでいるのをお手伝いしたりするのもあります。そして、新学期になりますと、文化祭がありますので、昨年は阿倍野地区に住んでいらっしゃる一人ぐらしの老人に、私たちの学校を少しでも知っていただこうと思い約150名を文化祭に招待しました。ですから、今年も新しい企画を考えて、喜んでいただけるものにしたいと思っています。

その他では、私たちのクラブの中で点字をしたいという意見があり、それを実現させようとがんばっているのですが、あまり時間の余裕がなく、思うようにはかどっていません。しかし、もう少し時間を上手に利用して、点字もできるようになるよう努力しています。

明浄学院高等学校

私共、明浄学院高等学校インターアクトクラブも結成されて早や1年と半年を迎えました。当初は、何をしたらよいものかと部員一同、頭を悩ませてはいましたが、自分達を信じて今日まで活動を行って参りました。ここで簡単に去年の年次大会以降今日までの活動報告をさせて頂きます。

まず、昨年のクリスマスの日、そして今年の子供の日にちなみまして天王寺区にあります高津学園と言う施設を訪問して参りました。昨年のクリスマスの日に初めて訪問した時などは、初対面ということもあって幼児達も私達もあまり溶け込めず、後になって悔やんでしまいましたが、今年の子供の日に訪問した時などは、2回目ということもあって、幼児等も私達のことを「お姉ちゃん」と呼び、十分に慣れ親しんでくれました。一緒に遊んでいる時の幼児の楽しそうな笑顔を見た時、私達は「私達にできることがあれば……できるかぎりあなた達に笑っていてほしい。そして、いつまでもその笑顔を絶やさないでほしい。」という願いも込めまして、子供の日とクリスマスの日の年2回訪問することを明浄学院高等学校インターアクトクラブの恒例の行事と決めました。1年にたった2回ですけれども、

しっかりと幼児達と心を打ち溶けあってこようと思っております。

平常の活動としては校庭内外の清掃を行っております。その他といたしまして秋には、枯れ葉と砂ぼこりにまみれ、春には、桜の花びらと毛虫におそわれ、悲鳴をあげながらも一生懸命校内の美化運動にも励んでおります。

これからの活動予定はまだ決まっておりませんが、8月の半ばから始まります海外研修に参加させて頂き、たくさんのことを学び、そして、これからの活動に役立たせていきたいと思っております。簡単ではありますが、これにて明浄学院高等学校インターアクトクラブの活動報告を終らせて頂きます。有り難うございました。

浪速高等学校

私達浪速高校インターアクトクラブは年間約4項目の主な活動をしています。

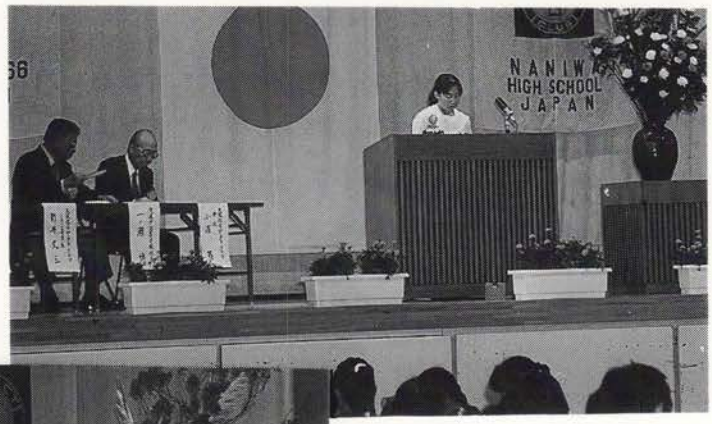
まず第一に、校内美化運動の一環といたしまして花壇を製作しています。花壇には四季折々の花を植えるのですが、花の美しさを保つ為には水をやったり雑草を抜いたりと日々の手入れは欠かせません。特に今年は、国際花と緑の万国博覧会も開催されていますので、来賓の方々にも少しでも花の美しさを見ていただこうと例年にも増して熱心に製作いたしました。

第二に、海外研修です。近年国際化社会と言われる中で私達高校生のこれからのあり方を考えるべく、現地の高校生達と交流し、親睦を深めています。

第三に、ＷＷＦ（世界自然保護基金）への募金活動です。これは、浪速祭文化の部やインターアクトの年次大会、及びその他の大会が催されました時に、少しでも自然保護に役立てていただこうと、皆様に募金していただいたお金をＷＷＦへ寄付させていただいているものです。近年、アマゾンや東南アジアでの森林伐採、及び海洋、大気汚染等、これらは全て人間の自分勝手な行動が原因であり、この為に絶滅の危機に瀕している動植物も少なくありません。ですから私達はこれらの自然生物を少しでも多く守ろうと、クラブ員全員で精力的にこの活動に取り組んでいます。おかげ様で昨年は、約7万5千円ものお金を寄付することができました。今回の年次大会におきましても、各所に募金箱を設けてありますので皆様、御協力お願いいたします。

最後に、神社奉仕についてです。私達の学校では、建学の精神に神社神道の理念をとり入れていますので、神社への奉仕もさせていただいています。その神社奉仕の一環といたしまして、毎年必ず年末あるいは年始に住吉大社で清掃奉仕を行っています。毎回敷地内を丸一日かけて清掃するのですが、訪ずれる人のマナーの悪さには驚かされます。ゴミ箱がきちんと設置されているのにも拘らず、ゴミがあちこちに散乱しているのです。また清掃奉仕の他にも、先に行われました日本三大祭の一つ、天神祭にも参加させていただいています。毎年、クラブ員全員とまではいきませんが、必ず数名の者が参加しています。

これからも、私達浪速高校インターアクトクラブは、ロータリアンの方々の御指導のもとに、より一層社会に貢献できるよう努力していきたいと思います。



年次大会記念スピーチ

ゲストスピーカー　シンシア　ハレル

シンシア　ハレル
（CYNTHIA HARRELL）
エール大学3回生
（YALE UNIVERSITY IN NEW HAVEN CONNECTICUT USA）
専　　攻
言　語　学
海外経験
中国在住経験あり
（父親が中国専門の文化人類学者のため）
日本初訪問中
日　本　語
エール大学で2年間学習
スピーチ内容
アメリカにおける青年たちの自然保護への意識と行動
HOW AMERICAN YOUTH THINKS AND BEHAVES FOR THE PROTECTION OF THE ENVIRONMENT

（要　旨）

現在、地球は深刻な「環境問題」をかかえている。たとえば酸性雨、河川の汚染、森林の破壊、オゾン層の破壊などである。これらのことは他人事ではなく、我々一人ひとりが事態改善のため何かをしなければならないのである。

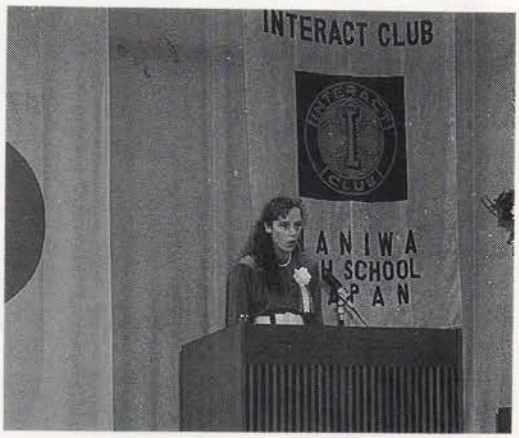
しかし、実際にはこれらの問題は非常に複雑であり、単純に「こうすればよい」といったような解決方法を見つけることはむずかしい。というのは、いろいろな人の利害が複雑に絡み合っているからである。たとえば、核爆発がよくないといっても、その仕事に従事している人は自分たちの生活を守るために賛成にまわるのである。自動車が公害の大きな原因のひとつになっているといっても、ここで働く人の仕事を減少させることになると、その生活を誰がどこで保障するのかという新たな問題が発生する。公害を出す企業も自己の経済活動を規制する法律が厳しくならないように政界工作をする。

そんなわけで、アメリカの若者は、一昔前とちがって、自分達が政治的に何もできないことをよく知っており、デモや集会をいくら持ってもしょせん大学内だけのことだという無力感を持っている。しかし、だからといって全く何もしないのではない。自分たちが確実にでき、しかもそれなりの効果のあることを日常レベルで地道に行っている。「あることをやめさせるには、それに従事している人の生活を奪うことになりかねないが、今はもうそんなことを言っているときではない」というのである。

以下はそのアメリカの若者たちのそういった活動例である。

① 自分たちの地域社会の大人に、はっきりした公害規制の政策をとらない政治家への投票をやめるように戸別訪問も含めて、活動する。
② リサイクル（廃品再利用）運動をする。
③ 紙などの無駄使いをやめる。また、友人にそうするよう根気よく働きかける。
④ 山などに入り、木が伐採されないように、切り倒す人を傷つけるような爆発物をとりつける。（これはかなり過激な方）

（和田勝明）



【花壇製作風景】

INTERACT CLUB
DISTRICT 2-6

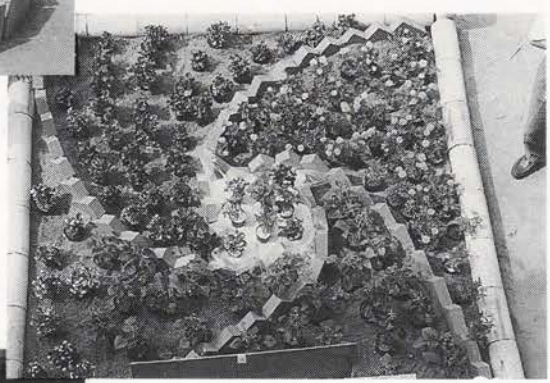
花壇製作審査結果発表・表彰

講評・学校園協会

間　　寛

第1位　大教大平野

第2位　清風学園



第3位　浪速高校

大谷

金光八尾

大阪相陵

東

明浄

四天王寺

地区年次大会 講評

RI第266地区IA委員長
飯　原　弘　章

本日のＩＡ地区大会には５０名に余るロータリアンと230名のインターアクター、顧問の先生方とローターアクター、其他を含めて300名をこえるご参加をえて、まれにみる盛会となりました。

午前中のセレモニーとミス・シンシア　ハレルの記念講演に引続き、校庭における造園コンクールと今日猛暑の一日本当にお疲れ様でした。しかし、いま年次大会がやっと終ったのではなく、これからが今年度のスタートなのです。今年度のテーマ「自然保護」を推進して、新しい奉仕活動を創造して下さい。
ご指導いただきました廣瀬ガバナー、戸田パストガバナーに厚くお礼申上げますと共に、当会場を提供して下さいました浪速高校一ノ瀬校長並に大会設営にご援助下さいました大阪住吉ＲＣとお手伝いいただきました大阪住吉ＲＡＣの諸君に心より感謝いたしまして講評とさせて頂きます。

皆様最後までご参加いただきありがとうございました。

閉会のことば

浪速高校ＩＡＣ副会長
阪　口　哲　雄

本日はお暑い中、多数お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。
花壇作りはいかがでしたでしょうか。出来上がった花壇を見ますと、どれも美しいものばかりで努力の程がうかがえます。しかし、花壇を完成するまではどうでしたでしょうか。炎天下の中、流れる汗を気にしながら、重いブロックを運んだり、土にまみれたり、余り楽しいこととは言えません。つまり、自然を壊すことは簡単ですが、戻したり、新たに作ると言ったことは極めて難しいのです。実社会において、このことを理解している人が少ないために平気で自然を壊すと言ったことが行われています。

今回の年次大会および花壇の製作は、少しでもこうしたことを考えるきっかけとなれば大成功だと思います。なお、本日の自然保護に対する募金ですが、午前中に集計しましたところ、18,639円集まりました。皆様のご協力を心より感謝致します。本当にありがとうございました。

最後に、ロータリアンの先生方を初め、各インターアクトクラブの顧問の先生方には、本日はありがとうございました。今後ともよろしく御指導のほどお願い致しまして、閉会のことばとします。

海外研修報告

ー香 港・中山県ー

1990年

8月19日(日)〜8月23日(木)

国際ロータリー

第266地区

インターアクト

目　　次

●委員長挨拶　第266地区委員長　飯原弘章 …… 28

●参加者名簿 …… 29

●旅程表と各校報告 …… 30

Ⅰ施設訪問　―感想文と写真― …… 45

A 班

B 班

Ⅱ交歓会　―感想文と写真― …… 50

Ⅲ全行程学校別報告 …… 63

Ⅳ ロータリアンからのコメント …… 100

Ⅳ 想い出のアルバム …… 103

●編集後記 …… 106

浪速高校ＩＡＣ顧問　本間靖彦

海外研修報告

RI第266地区インターアクト委員会

委員長　飯原弘章

今年度は廣瀬ガバナー、戸田青少年担当パストガバナーの「東南アジアでインターアクトクラブのある地区への海外研修を」とのご指導のもと各地区と連絡をとり、結局345地区香港・マカオと中国中山県に研修を催行致しました。

5日間の行程中、3日間に亘り打合会・現地奉仕・交歓会と345地区インターアクターとの交流もまことにスムーズに行われ、最終日の啓徳空港へ送別に来てくれるまで各々忘れがたい経験を得た様です。到着日、8月19日の打合せ会では日本側アクトは少々硬くなっていた様ですが2日目の社会奉仕、4日目の交歓会では両地区のアクトがうまくミックスしてくれました。現地社会奉仕は345地区インターアクト委員長 Peter Thong氏と香港アクターの案内でA班は九竜彩紅（Choi Hung）の聖若瑟安老院（St Joseph's Home for Aged）に、B班は香港島湾仔（Wan Chai）の聖雅各福群会（St James' Settlement）を訪問し、現地アクターと共に歌や踊り、折紙細工で慰問し、大好評を得ました。両老人ホーム共カトリック教会の運営で香港に於ては共に最大規模の施設で、養護内容も環境も素晴しく設備の充実した清潔な養老院でした。3日目はマカオを経て中国中山県翠亨村にある孫文生家を訪れ、記念館と記念中学校を見学しました。第4日目は新界落馬州の中国との国境と錦田の客家の城壁村を見学し、夕刻より宿舎の沙田（Sha Tin）リーガルリバーサイドホテル．ボールルームに於て交歓会を開催。当日は345地区よりPeter Hall パストガバナーはじめ5名のロータリアンとインターアクター．ローターアクターも加わり総員113名のパーティーとなり、各クラブのアクターのパフォーマンス。そして最後に全員河内音頭で、日本、香港アクトの踊りの輪がホール一杯に拡がりました。

全行程にご指導ご援助いただきましたロータリアンの皆様と顧問の先生方には大変お世話になりました。紙面を借りて厚くお礼申上げます。

国際ロータリー 266地区　インターアクト・クラブ海外研修参加者名簿

■ Aグループ

顧問 12名

No.	所属	氏名
1	浪速高等学校	本間靖彦
2	〃	春田義幸
3	四天王寺中学校	田中真康
4	〃	岡宏治
5	大阪桐蔭高等学校	平岡伸一郎
6	〃	仲谷浩一
7	大谷高等学校	藤原謙次
8	大阪市立東高等学校	大西敏朗
9	大阪住吉ロータリークラブ	飯原弘章
10	大阪阪南ロータリークラブ	能口武雄
11	〃	和田健
12	大阪住吉ロータリークラブ	川畑徳幸

生徒 36名

No.	所属	氏名
1	浪速高等学校	奥野泰臣
2	〃	芥子川晋史
3	〃	小林秀之
4	〃	曽々木良尚
5	〃	長野範人
6	四天王寺中学校	渡辺瑞穂
7	〃	倉岡真紀
8	〃	藤浪菜穂子
9	〃	砂川さおり
10	〃	山野るみ
11	〃	瀬戸里絵子
12	〃	田中智子
13	〃	松下佳代
14	〃	南優子
15	〃	樋上雅美
16	大阪桐蔭高等学校	陰行庸
17	〃	鈴木智也
18	〃	和田真一
19	〃	小畑竹司
20	〃	田中善之
21	〃	川楠賢治
22	〃	田中淳友
23	〃	川口哲男
24	〃	織畠淳也
25	〃	長谷光展
26	〃	結城康弘
27	大谷高等学校	田尻博巳
28	〃	竹永みゆき
29	〃	赤坂由紀子
30	〃	西山由樹子
31	大阪市立東高等学校	松岡利枝
32	〃	辻本洋子
33	〃	池川こころ
34	〃	有銘利絵
35	〃	荒木裕記
36	〃	矢野涼子

■ Bグループ

顧問 9名

No.	所属	氏名
1	清風高等学校	小林三麿
2	明浄学院高等学校	山川義昭
3	〃	伊澤豊
4	金光八尾高等学校	片島哲哉
5	〃	前田美智
6	大教大附属高校平野	白木成治
7	大阪城南ロータリークラブ	
8	〃	岡部州雅
9	八尾ロータリークラブ	中島孝夫

生徒 30名

No.	所属	氏名
1	清風高等学校	高橋航
2	〃	三澄勝利
3	〃	竹沢修平
4	〃	牧野拓晃
5	明浄学院高等学校	谷舞千栄
6	〃	北本真里
7	〃	森島泰子
8	〃	中嶌友子
9	〃	田中智美
10	〃	樽居幸枝
11	〃	上田亜以子
12	〃	木村美由紀
13	〃	石塚葉子
14	〃	治村有理
15	〃	青柳悦子
16	金光八尾高等学校	露原浩之
17	〃	荒木猛
18	〃	鈴木健司
19	〃	濱田誠
20	〃	奈良勉
21	〃	丸尾由香
22	〃	蔭山桜子
23	〃	薗田芳子
24	〃	高内尚子
25	大教大附属高校平野	森山泰成
26	〃	中野恭秀
27	〃	藤田美重子
28	〃	山崎優子
29	〃	内山はる奈
30	〃	植田真由子

添乗員

No.	担当	氏名
1	Aグループ担当	矢野賢司
2	Bグループ担当	小林努

旅　程　表

日次	月日曜	発着／滞在地名	発　着 現地時間	交通機関	摘　　要	食事
①	8/19 (日)	大　阪　発 香　港　着	08:00 11:00 (10:15) 13:35 (14:10)	CX-503 (CX-565) 専用バス	大阪国際空港にて集合の後、結団式 キャセイ航空503便（及び565便）にて香港へ 香港到着 市内ホテルへ （香　港　泊）	機 夕
②	8/20 (月)	香　港　滞在	午　前 午　後	専用バス 専用バス	午前中、香港島見学 （タイガーバームガーデン、ビクトリアピーク、レパルス湾など） 午後、施設訪問など （香　港　泊）	朝 昼 夕
③	8/21 (火)	香　港　滞在	終　日	船 専用バス	終日、マカオ、中山県日帰り観光 （香　港　泊）	朝 昼 夕
④	8/22 (水)	香　港　滞在	午　前 午　後 夕　刻	専用バス	午前中、新界地区見学 （工業地帯、錦田城、中国々境展望台など） 市内レストランにて昼食 現地インターアクトと交歓会 （香　港　泊）	朝 昼 ×
⑤	8/23 (木)	香　港　発 大　阪　着	16:00 (14:40) 20:20 (20:15)	専用バス CX-502 (CX-564)	帰国準備 市内レストランにて昼食の後、空港へ キャセイ航空502便（及び564便）にて帰国の途に 大阪国際空港到着 帰国手続きの後、空港にて解散	朝 昼 機

宿　泊　ホ　テ　ル

◇香港　8月19日(日)～8月23日(木)　4泊

HOTEL RIVERSIDE PLAZA

ホテル　リバーサイド　プラザ

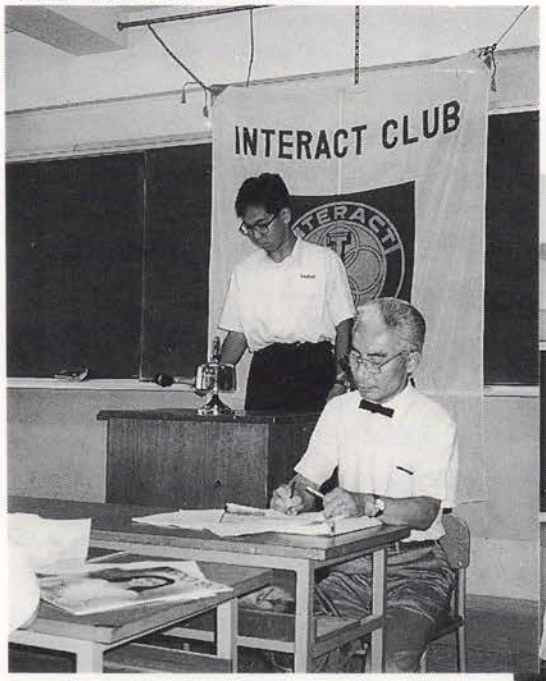
住所：Tai Chung Kiu Road, Shatin, N.T.

☎　0－6497878

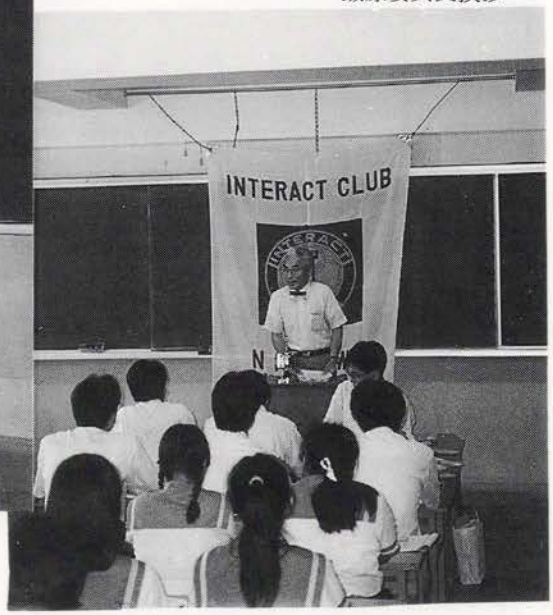
事前オリエンテーション

第一回　6月23日（土）
第二回　7月22日（日）

点鐘・長野範人君（浪速）



飯原委員長挨拶



桐蔭高校による折り紙の練習

旅　程

【第１日目】

結　団　式

長野範人君（浪速）より

出発の挨拶

「旅　立　ち」

浪速高校　**長　野　範　人**

1990年、夏、僕達の香港海外研修が始まった。この日の主なイベントは結団式。僕はこの結団式で、出発のあいさつをしなければなりませんでした。僕は今まで、海外研修オリエンテーションや年次大会で多くのあいさつやスピーチを経験していたので結団式のあいさつくらい簡単だと思っていました。ですから、特別に練習もせずに、のんびりと構えていたのですが、いざ話し始めると頭の中から内容が消えて行き、手が震え出してしまいました。僕はこの時、「僕の様な者が代表者で大丈夫なのだろうか？。」と不安になってしまいました。しかし同時に、「今回は自分の持つ力の120％を発揮せねば。」と気合いが入りました。

そして、いざ香港へ。まず到着して最初に感じた事は、（あたり前の事なんですが。）

「お～、テレビで見た景色と一緒や。」と言う事です。しかし、バスに乗り進んで行くにつれて、テレビで見た事のない香港の素顔を見る事ができました。それと、もう一つ感じた事は、「ビルがたくさん建っているが、やはり日本より遅れている。」と言う事です。僕はこんな事を知らなかったわけではありません。しかし、その事を自分の目で見て、直接感じてみると、不思議な感じがしました。

そしてホテルに到着。そこで最初に考えた事は次の日の施設訪問の事です。僕達は、この事に関してあまりミーティングをしていなかったのでとても不安でした。

その後、ソファーの上で、明日からの予定を頭に入れて、もう一度自分に気合を入れ直してベットに横たわりました。すると、明日から先に控えているとてつもない難関に対抗できる体力を養うかのごとく、すぐに眠りについてしまいました。

このようにして、僕の香港海外研修は、無事に幕を上げる事ができました。

「ビルの洗濯物」

大谷高校　**赤　坂　由紀子**

私たちＡグループが乗る飛行機は台湾経由であったため、台風の影響であわや日本にひき返すところだった。しかし私たちは運がいいのかそのまま香港に到着し、かえって早く到着しすぎたようだった。私は海外旅行が初めてだったのであらためてパスポートがどれぐらい重要かということを空港を出るまでに十分思い知らされた。空港を出て、バスに乗るとそこは「香港だなぁ。」という気持ちになるところで見るものすべてがめずらしく感じた。街はとってもにぎやかでビルが建ちならんでいたが、ほとんどがマンションで、ビルに棒がつきささったように洗濯物が干されていて生活の匂いがとても感じられるところだ。

私たちはホテルに着いたが、ここにも台風の影響がでていて、私と友人の二人だけが、みんなと別の階に泊まることになったのだ。始めは少し寂しく感じたけれど、馴れると何ともなくなり、かえって静かでいいわ、と感じるようになった。

第一日目から何だか忙がしくて、バタバタ

していた。時間はあっという間に何もせず過ぎ、私は時間がもったいないと感じつつも、ホテルを出てしまうと危ないような気がして出られない、という具合でちょっと物足りなさを感じたが、夜に少しだけ先生といっしょにコンビニエンスストアに行ってジュースなどを買ったりした時は、晩の普通の町の生活を見たような気がして楽しかった。

ホテルへ戻っても何だか落ち着かなくて、写真をとったり、話をしたりでこれから先のことを考えると、期待と不安が入りまじってなかなか寝ることができない。私たちはいつまでもこれから先のことについて話をしていた。

「香港の食事」

大谷高校　**西　山　由樹子**

希望と不安の交錯する不思議な気分で結団式に臨む。最終の注意を聞き、いざ搭乗。台風のため台湾へ着陸せず、直接香港に向った。予定より1時間程早く到着。私達の部屋は、台湾からのお客が残留しているので4階になった。ほっと一息入れる。ただ移動しただけなのに、台風のお蔭で不安材料が次から次へと現われて、慌しい半日だった。

レストランに向かう車内から眺める香港は一見、殺伐とした高層ビル群、しかし、どの階の窓からも洗濯物が竹竿で干されていて、どことなく憎くめない人間臭さのある街だ。夕食、本場の中華料理。日本で食べるのと同じだと思っていたが、大きなまちがいだった。焼そば風で味のない麺、臭みの強力なチャーハン、天プラ風で中に餡の入っているもの、グラスで飲むジャスミンティー、交す言葉は「それ、どんな味。」「え、言葉で言われへん。」の連続。やっと夕食を終えて外に出た。すっかり暗くなった街に、おもいっきり派手なネオン達。それらを見た瞬間、『香港に来たんだ。』と、今さらながらに感じた。

「初めてのチップ」

浪速高校　**曽々木　良　尚**

ある先輩の犠牲によって気をひきしめられたみんなは、長野先輩のりっぱなスピーチの後、香港へ向かって出発した。

ぼくは飛行機に乗ったのは初めてだが、離陸するまでの長い時間、不安なようであり、楽しみなような感じだった。離陸をするとき上昇していくときに、なんとなくジェットコースター的な感覚がないこともなかった。

機内はけっこうひまだった。しかしさすがは長野先輩だ。もうすでに椅子に座わった瞬間から他校の女の子とコミュニケーションを深めていた。時差によるせいか、あまりおいしくなかったせいか、おそらく両方だろうけど機内食はあまり食べなかった。

香港には熱風がただよっていた。空港はクーラーが利いていたので寒いぐらいだったが外に出るとすぐに汗がダラダラ出てきた。おそらく大阪より暑かっただろう。でもバスに乗ると涼しかった。こうも急に温度を変えられると、体調が悪くなりそうだ。

ホテルに着いた。部屋に入って話をしているとボーイさんがカバンを運んできてくれた。生れて初めて渡すチップなのでドキドキし、ドギマギして、異様に緊張してしまった。

市内レストランへ向かった。香港では初めての食事だ。食べていて味が日本とぜんぜんちがうと思った。おそらく調味料の味がちがうのだろう。北京ダックが一番よかった。香港ではいくらテーブルにこぼしてもいいらしい。すこしきもちわるかったけど。

ホテルへ帰ってみんなで話をした。たよりになる長野先輩や中学の時からなじみの小林やすこし変わった奥野先輩と芥子川先輩、その他の人といっしょに過ごす4日間のことを考えるとワクワクしてとても眠れそうになかった。

【第２日目】

- 香港島見学
- 施設訪問

Ａグループ

「水上レストラン」

四天王寺高等学校　**倉　岡　真　紀**

香港での初めての朝は、よく晴れていて、気分はよかった。今日は午前中は見学で、午後からは老人ホームを慰問、夕食は水上レストランで食べて、その後、百万ドルの夜景を鑑賞するという予定でした。私はその中でも特に、水上レストランでの食事が、とても待ちどおしかったのを覚えています。

私達インターアクターと先生方は、学校別にバス３台に分かれて乗り、朝９時に最初の見学地タイガーバームガーデンへと向かった。そこには他の日本人の観光客も多勢いました。次に、ビクトリア・ピーク、そしてレパルス湾という所に行きました。

昼食後、私達は浴衣をもって、老人ホームを訪ずれました。そこには、現地インターアクターも何人かいて、私達は協力して、おじいさん、おばあさんたちに折り鶴を教えてあげました。私がそこで感じたことは、現地インターアクターは、おじいさんたちにとても親身になってかまっているなぁということです。すごいなぁ、と思ってしまいました。

あと私達女の子は、浴衣に着がえて盆おどりをしました。いまいち盛りあがりに欠けましたが、よい思い出になったことだと思います。そうして、とても疲れた老人ホーム慰問も終わり、私達は待ちにまった水上レストランへ向かった。水上レストランといっても、船に１分乗ってるか乗ってないかぐらいの所にありました。食べている時、誰かが少し揺れていると言ったけれども、私は全く感じませんでした。もちろんそこでも、私達は中華を食べました。夕食後、私達はバスで、百万ドルの夜景を見に行きました。バスガイドさんの話では、その日は五十万ドルの夜景だったそうです。けれども、香港独自のとても高いマンションがたくさん建ち並んでいて、香港に来たんだという実感がわきました。

とても忙しかった１日だったけど、その一日で、貴重な体験をたくさんしました。

「施設訪問」

大阪桐蔭高校　**隠　　行　庸**

香港に着いて２日目になり、その日の午後から老人ホーム訪問と、やっとインターアクトらしき活動を行ないました。

施設はキリスト教のもので中には教会があり、建物の造り自体も一見したところでは、かなり昔に建てられたものだという印象を受けました。

入館後少し時間が経ってから、ぼちぼちといった感じで活動が始まりました。まず僕は、車椅子の人を集会場まで連れて行く役目につきました。そこで初めて現地の人に声をかけられました。つまり初めての英語での海外の人との会話、しかし内容はというと“Can you speak English?”“Yes, but little”…あのときは我ながら情けなくなりました。しかし「まあ初めての時はあんなもんだ。」と自分自身を無理矢理納得させました。

出しもの？の盆踊りなどは、どちらかというと一方的な感じがして、現地の人たちも一緒になって楽しめられなかったことが少し残念です。

しかし折り紙の実演では、日本語が話せるお婆さんに文句を言われたり、うまく英語を

話せないながらも必死になってお年寄や現地のI・A・Cに鶴の折り方を教えました。しだいに現地のI・A・Cの学生たちとも言葉や文化の隔たりを忘れて同世代の若者として仲良くなることができました。1枚の正方形の紙がもたらした友人とでも言うべきでしょうか。その時に現地I・A・Cの数人の学生と住所の交換などもしました。

それにしても香港の学生の活発な性格には驚きました。誰とでも気がねなく話しかけ、話すことができる。島国根性まる出しでいつも自分の殻に閉じ込もっている自分達日本人が恥ずかしく思えます。

現在縮まりつつある国際間で国際的な性格をもつ大切さを僕らは彼らから教えられたのです。

「折り紙で心の交流」

四天王寺中学校　**砂　川　さおり**

つるの折り方を教えようという時に、おじいさんやおばあさんの視線を感じながら、はじめどうして説明したらいいのかとても不安でした。それでも、少しでもわかってもらおうとおじいさんの目の前でゆっくり折りはじめました。そうしたらおじいさんが真似をして折ってくれました。うれしくて、心の中で「こうして、次はこうして…。」とつぶやきながら指を動かしました。おじいさんはそれを見て「わかった、わかった」と言うように首を振ってついてきてくれます。私は、おじいさんが私の手つきを見ながら、一生懸命つるを折ってくれたことがとてもうれしかったです。時間が足りなくて、私の折っていたふじ色のつるをおじいさんに渡しました。おじいさんはにこにこして受け取ってくれました。

でも、おじいさんのひざの上には折りあげることのできなかったつるが転がっていました。私は、おじいさんのうれしそうな顔を見ていたら、どうしてももう一つのつるを折りあげておじいさんにもらってほしいと思いました。

「インターアクター、前にあつまってください。」という声を聞きながらあせって折りあげたつるは決してきれいではありませんでした。でも、私がそのつるをおじいさんのひざの上にそっとおくと、おじいさんは声をあげて笑いました。そして私の方を見て何か言ってくれました。何と言ったのか、私にはわかりませんでしたが「ありがとう」という気持ちが伝わってくるようでした。

両手にふじ色とピンク色のつるを持って笑っているおじいさんを見ていたらもっと一緒にいたいなあと思いました。

「ありがとうございました」とみんなであいさつをしたときも、おじいさんやおばあさんと握手をしたときも、いいようのない気持ちでいっぱいでした。たくさんの笑顔の中で心の中があたたかかったです。

私にとって初めての外国の人とのほんの小さな小さなですが、心の交流ができたのではないかなと思います。

気持ちが通じることがこんなにうれしいことだなんて私は改めて知った気がします。

「養老院訪問」

大阪桐蔭高等学校　**田　中　善　之**

香港の養老院で、僕たちは、様々な体験をした。はじめ、言葉も理解できない僕たちにこの行事は、やっていけるのかと不安に思ったが、そんなことは、些細なことでたいして障害にはならないとわかった。そして、お年寄達の、日本の女子部員が盆おどりを踊っているときの姿や、おりヅルを折っているときの一生懸命の姿は、僕たちが、そうしているのとあまり違がわないぐらい元気なものでした。しかし、そうでないお年寄も少なからずいました。交流会の場所へ誘導するときも、車いすなしでは交流会会場へ行けない人、話そうとしても上手に話すことのできなかった人達です。僕は、その人達を拝見したとき、何をしたら良いのか、全くわからなかった。そしてそのときまで、好意的に接していた自分が、少しそうでなくなっていたのに気がつかなかった。交流会が終って、再び各自の部

屋へ車いすを僕が、おしていこうとしたとき、少ししりごみした。しかし、その車いすの人が、たぶんこれしか、言葉が解らないのだと思われたのか、僕に、理解できるくらいずっと「ありがとう」と言ってくれたとき、交流会の間、すごく消極的で、いけない行動をしていたんだと気付いた。部屋への道を何度たずねても、その返しの言葉と笑顔しか僕に対してできない人だったけれども、僕はなんだか、人間の素朴なやさしさみたいなものを感じた気がした。

自分に対して親切にしてくれる人が、たとえ違った国の人でも、不安そうな顔もせず、感謝の気持ちを見せてくれたことで、少しでも人の為になることをすれば、感謝の気持ちが返ってきて、又、それに答えようとする心が生まれるということを僕は学んだ。

Bグループ

「市内観光」

金光八尾高校　**露　原　浩　之**

香港に着いて2日目の朝、市内観光のためにホテルから外に出てみて、一番最初に感じたのは、日本より涼しく、湿気の少ないことです。ぼくは、全くその逆を予想していました。市内観光で一番印象に残ったのは、香港のあのスマートな高層ビルです。大阪市内のビル街とは、違った強い印象に残る物で、目に焼きついています。また、タイガーバームガーデンは（中国）香港らしい豪華な建築物で、たいへん心に残るものでした。ビクトリアピークからの景色もまた、日本とはたいへん違いがありました。それは、200メートルや300メートルといった高層ビル街を550メートルほどの高さから見おろすのだから、それほど高さに差はなく、ビル街の雄大さに驚かされるばかりでした。そして施設訪問については、これも設備が整っていることに驚かされました。日本の社会福祉がたいへん遅れているように思いました。老人や身体障害者の仕事場というものだけではなく、憩いの場として、たいへん優れていました。しかし、それだけ大きな規模だけに、彼ら一人一人に職員の目がどれだけ行き届いているのか気になりました。夕食をとった海上レストランの様な建物が、実は、ぼくが香港へ行く前に想像していた香港の建物なのです。香港には、ああいう建物ばかりあると思っていました。漫画などに出てくる香港は、ああいった物が多かったのです。これもたいへん豪華な建物でした。自分のこの目で実際に見ることができてとても感激しました。ビクトリアピークから見た夜景もとてもすばらしいものでした。絶対にもう一度香港へ行きたいです。

「勉強になった施設訪問」

明浄学院　**谷 舞 千 栄**

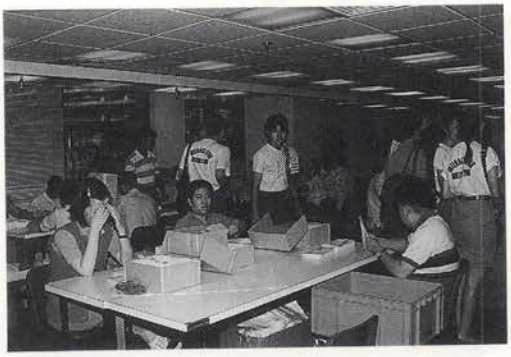
香港について2日目がたちました。朝から香港島一周というかなりハードなスケジュールで、観光しました。

午後は、私にとって関心のある施設訪問というプログラムでした。施設の中には、障害者の方が働らく所、老人の人が集まっている所、ちょっとしたスポーツシステムがある所など色々な機能がありました。その中で、障害者の方が働らく所と、老人の人が集まる所が印象に残りました。障害者の人は、仕事を与えられていると思わず、自分がこの仕事に責任をもってまかされていると思っているのです。仕事に対して責任を持ち、てきぱきとは言えないけれども、確実に仕事をこなしている姿は、とても障害を持っていることなど感じさせませんでした。彼ら自身が仕事をして、それで収入を得ていることに対しても感心させられました。

老人の人が集まっている所に行った時、少しおどろいている様子が見られました。テレビを見ながら、何気なくこちらをチラと見ていました。施設の方が説明して下さる内容は洗濯をかわりにしてあげたりとか、他にも色々な身の回りのことをしてあげたりするそうです。その為なのか、私の目から見ると、彼らが無理だと感じる事は助けてもらい、自分で出来ると思うことは自分でしているので、生き生きしているのが感じられました。

日本でもまだ行ったことのない施設に行って、実際に自分の目で見て見ると、初め思っていた感じと微妙に違うことがわかりました。『百聞一見に如かず』ということわざがあるように、日本にある老人ホームや、障害者の方が働く所を一度見学してみて、香港の施設とどこが違うかを見て見たいと思います。

この日のスケジュールは、私にとってすごく勉強になった一日でした。



「聖雅各福群會」訪問

金光八尾高校　**荒 木　　猛**

香港に来て2日が過ぎた。あっという間に過ぎたという感じだ。タイガーバームガーデンやビクトリア・ピーク、レパルス湾などを見学して周ったが、どれも見学時間が短かかったためあまりよく見れなかったのが残念だった。食事の時間や就寝の時間が短かくなったり、遅くなったりしてもかまわないから、見学する時間を長くしてほしかった。

午後から、現地のインターアクターと合同での施設訪問があった。初め現地のインターアクターと会って、話しかけられたときは、相手の言っていることが聞きとれず、ちぐはぐな返事をしていた。おちついてよく聞くとなんとなく言っていることが分かったので、身振り手振りをしながら返事をした。相手は僕の言っていることが分からずに困っていたが、一生懸命に理解しようとしてくれていたので、大変感激した。そういうふうに現地のインターアクターとコミニケーションをとりながら、精神薄弱者の方達ともコミニケーションをとった。でも現地のインターアクター達の精神薄弱者に対する接し方を見て僕は、なんと積極的に話しをしているのだろうと思った。僕たちは八尾のひばり作業所という所で同じように障害を持っている人達と一緒に作業をさせてもらったことがあるけれど、あんなに積極的にはなれなかった。言葉があまり通じなかったということもあったけれど、絶対に見習わなければならないことだと思った。

「多忙な一日」

明浄学院　**北 本 真 理**

香港２日目は、まず、タイガーバームガーデンへ行った。そこはとっても広くて、びっくりした。

山の高い所にも建物があって、プールもあって、本当にすごい場所だなぁと思った。
香港のお金持ちの人って、すごい事をするなぁと思った。

次に、レパルス湾へ行った。いろんな仏像があって、それらが、とてもカラフルなのにびっくりした。
海の方へ、突き出た感じで像などがあるので波がうち上げてくるのを避けながら写真を取ったりするのが、スリルがあって面白かった。

午後からは、施設訪問をした。

私達が行った所は、老人ホームと、精神薄弱の人達がいる施設だった。
そこでは、香港のインターアクトの人達もたくさん来ていて、折り紙で鶴を折ったりした。

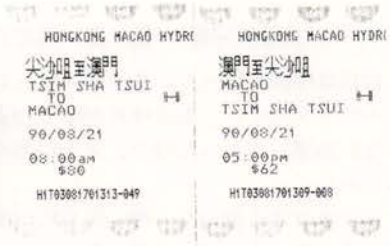
香港のインターアクトの人達は、英語がペラペラだったので、あんまり英語ができない私は、少しあせってしまったけど、皮膚の色とかが同じなので外人って感じがなくて話しやすくて、片言の英語だったけど、慣れてくると結構話す事ができた。

その後、施設の見学をした。
いろんな障害を持った人達がそれぞれに合った作業を一生懸命にやっているのを見て、すごいなぁと思った。
そこの施設は何でもととのっていたのに、びっくりした。

それが終って水上レストランで食事をした。
舟でレストランまで行くっていうのには、すごい!!と思った。
料理も結構おいしくて、私はたくさん食べてしまった。
そのレストランのネオンはとってもきれかった。その後に見た百万ドルの夜景もすごくきれかった。その日は、本当に楽しかった。

【第３日目】

マカオ・中山県観光



「三カ国の旅」

大教大附属高校平野校舎
内　山　はる奈

２日目に香港島見学をして、香港に来たんだという実感のわいてきた次の日、我々は１日で２つもの国境をこえた。

朝、普段なら寝ている５時４５分にモーニングコールで目を覚まし、６時４５分にはホテルを出発した。そして８時発の船に乗りマカオへと向った。入国手続を終え、マカオの地へ足を踏み入れた。それからすぐ中国の国境もこえた。これで２本の国境をこえたことになるのだ。中国のガイドの張さんが言っておられたことだが、つい先日初めて外国（マカオ）へ行かれたそうだ。我々は本当に幸せだなぁと思った。

左右田んぼや畑ののどかな田舎道を通って孫文の設計した家や記念館に行った。特に印象的なのは、てん足だ。話には聞いていたが、あんなに小さいとは思っていなかった。それに指を下に折り曲げてはいていたなんてとても信じられない。昼食は広東料理だった。ハエとか飛んできて、中国は汚ないというイメージをもってしまった。でも中国のほんの一部分しか見てないのに、そう決めつけるのはよくないと反省した。

そして中国を後にして再びマカオへ戻った。リスボンカジノホテルを見たり、日本人のキリシタンの建てたセントポーロ教会を見たりして、また船で香港に戻った。そして夕食は辛くて有名な、四川料理を食べた。麻婆豆腐など辛くてこれぞ本場の味という感じでとてもおいしかった。

マカオも中国も数時間しかいなかったけど中国に比べてマカオや香港の方が自由のような感じがした。もちろん日本の方が自由だと思うが。

１日で３カ国も旅できて、とても充実した１日だった。

「中国・マカオに行って」

大阪桐蔭高等学校　**川　口　哲　男**

中国・マカオと、何度も国境を越えて一番印象に残っているのは、香港・マカオのにぎやかさと一転して、田園地帯が広がる静かな国、中国です。中国では、孫文の旧宅・別荘孫文を記念して建てられた学校を訪問し、僕は、『中国の人がそんなに孫文を尊敬するのだったらこの際現台湾と現中国を統一したらいいのになぁ』などと思ったが、そうはいかない。政治情勢を考えると、不謹慎かもしれない。また田園地帯が遠々と広がっていて自然に恵まれているのもいいことだと思ったが、この広国土を利用して、更に発展したら中国は米ソに続く大国になると思う。しかし、この自然は大切にしてもらいたい。また、1997年には香港が中国に返還されるのだから中国は香港の良い点をいかして発展をとげることを期待したいと思う。

次に印象に残っているのは、陸つづきの国境を越えることのややこしさであります。

目の前には中国が見えているのに、パスポートを見せなければならない。日本では想像のできない光景であった。なぜなら日本は島国であるからです。また、一つの国境を境にして社会主義国と資本主義国という全く違った雰囲気を持つ国が隣り合せであるという現実も学んだ。最近東ヨーロッパ・ソ連では民主化が進行している。中国も民主化し、活気づいた国になってほしいと思った。そして世界どこの国に行っても活気づいている風景を見ることができたらなあと思っている。

「中国にて」

大教大平野　**植　田　真由子**

３日目は中国へ行った。まずはジェットフォイルにてマカオへ。船のゆれが激しい上になかなか出発しなかったので、気分が悪くなりはじめた。

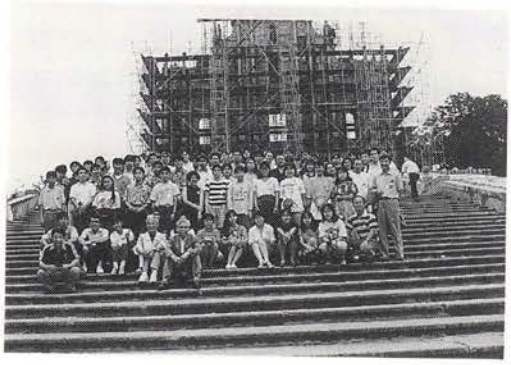
やっとマカオに着いた。押し売りにつかまってしまうというハプニングもあったが、なんとかふりきってバスへ。しばらくして国境を越え、いよいよ中国。窓の外には空き地や田んぼが広がっていて、水牛やあひるを見ることができた。バスでは男のガイドさんが、日本の歌をうたってくださり、楽しい時を過ごすことができた。

そして孫文の家へ。そこには孫文の住んでいた家と、興味深い展示物がたくさんあり、“中国の父”の偉大さを改めて感じた。孫文の一生を少しのぞいて、その波乱に満ちた人生にびっくりした。

次は昼食。今までのレストランでは、ジュースは買わないといけなかったのに、ここではなぜかオレンジジュースが卓上に、「ラッキー！」と、一口飲んで、みんなは顔を見合わせた。そのまずいこと、まずいこと、「さぁさ、遠慮しないで。」とばかりに、私のコップにどぼどぼとそのジュースをついだウェイトレスさんがうらめしかった。

次は中山県の村へ。ひっそりとしていて、数けん店があるぐらい。にわとりが道を歩いていたりして、なんかほのぼのとしていた。

いろいろ見学してまわった中国ともお別れして再びマカオへ。時間はあまりなかったものの、教会や公認カジノを見ることができた。



帰りのジェットフォイルでは、行きの船よいのこともあって、みんな最初から寝ていた。

夕食は四川料理。日本のものとは違って、舌がちぎれそうなものだったが、お昼ごはんがああいうこともあって、おいしく感じた。

中国のほんの一部しか見れなかったけど、教科書以上の物が得られたような気がする。

「国境とはなにか」

大阪桐蔭高校　**川　楠　賢　治**

私達が住んでいる日本は言うまでもなく島国です。そのため、外国に行くには飛行機又は船で海を渡ればそこはもう外国なのです。

厳密に言えば海に国と国との境はあるわけですが、何も線を引いているわけではありません。つまり日本人の我々には国境を自分の足で通るという感覚はほとんどないでしょう。よくテレビなどで朝鮮半島の国境紛争のことがよく報道されていますが頭で理解できても実体験があまりないのです。

今回の海外研修では幸いにも己の足で国境を越える体験ができました。

香港から船でマカオに渡り、マカオから、中国に入りました。マカオは香港とちがい、大変ゴミゴミした国でポルトガル領です。そこでバスに乗った私達は、マカオと中国との国境に向いました。

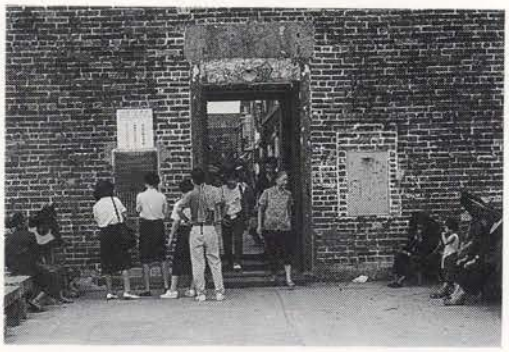
そこに大きな門があり、私達を見おろしていました。バスから降り、パスポート片手に検査を受けました。そのそばには自動ライフルを持った兵士が立っており、いやおうなしに緊張しました。と同時にこれが国境なんだなと再認識させられました。

時計やカメラなどは持ちこみにもチェックがありました。国境を越えるとそこは中国の中山県でした。広大な国土、まさしくこれが中国だなあと思いました。そこで昼食をとり、再びマカオに向かいました。今度はバスの中にマシンガンを持った兵士が乗ってきました。

日本ではこのようなことは絶対にないのでとてもびっくりしました。何回もパスポートを出し入れしたりとても面倒でしたが国境を越えることの重大さを感じることができ、とても貴重な体験だったと思っています。

【第4日目】

- 新界地見学
- 交歓会



「〝最も印象に残った日〟」

清風学園　三澄勝利

第4日目には、村や工業地帯、国境の見学、そして買い物、現地インターアクターとの交流などがあり、自分が最も楽しみにしていた日であった。

中国との国境を見たのち、私達は老人の非常に多い由緒ある村を訪れ、そして、そこで村人の姿を見、前にもまして香港という国の貧富の差の大きさを再認識した。映画やテレビで見る華かさとは全く異る村がそこにあったのである。「私達の訪れた村は、まだ他の町より豊かな方なので、もっと貧しい村になると、私達の想像をはるかに超えるものもあります」と聞いて、愕然とした。

次に新界地区の工業地帯を車窓から見学し客家村レストランで昼食をとり、その後、免税店や中国デパートを訪れた。そこでは、自分の家族のお土産を買うのが精一杯で、自分のほしい物などは、少ししか買うことができなかった。やはり、もう少し時間がほしかった。

夜になってからの現地インターアクターとの交歓会では、消極的な自分達に対し、自然に、又、積極的に話しかけることができる現地インターアクターがうらやましく思えた。歌なども大きな声で歌い、盆踊りでは、積極的に盆踊りの輪の中に入って一緒に踊ってくれた。彼らが私達に仲のいい友達として接してくれたことが、とてもうれしく思えた。また、この交歓会は自分にとって、とても楽しく、有意義であったし、両地区インターアクターにとっても、このうえもなく有意義な交歓会であったと思う。このような国際理解に役立つ交歓会で得たものを、これからの自分に、何らかの形で役立てていきたい。最後にこのような交歓会の場を設けていただいた方方に心からお礼を言いたい。

「折り鶴で交歓」

大阪市立東高等学校　池川こころ

香港に来て4日目です。朝、いつものようにホテルで朝食を食べた後、最後の見学である九龍市内と新界地区に行きました。ホテルの周りとはちがった景色が広がっていました。香港は狭いけどまだまだ工事をたくさんしていて都市国家になっているなーと思いました。そして昼食後、買物へ行ったけどほとんど買えなかったのでどーしよーかと思いました。だけど次の日も買い物に行けたので一応買う事ができました。夜になって現地のインターアクトとの交歓会で楽しい時間をすごしました。私たちの学校は、おり紙で鶴をおりました。そのために、香港に来る前や、交歓会の前日に集まっていろいろと考えました。そして当日みんなにおり紙を配っておってもらいました。私はロータリアンの人の横でおりました。その人は私のをみながらおっていたので緊張したけど、交歓会が終わって帰るときに「ありがとう。」といって下さったのでうれしくなりました。

急がしい一日でしたが楽しかったです。

「交歓会の感想」

大阪市立東高校　**松　岡　利　枝**

私が香港へ行くまでに一番気になっていた事は、「現地インターアクトとの交歓会」の事だった。東高校では「折り紙」をすることになっていたけれど、夏休みには一回しか集まらずにいた。それでも準備は何とかできた。私が香港へ行ってやりたいと思っていた事は、その「折り紙」を成功させることと、現地で友達をつくることだった。けれども、私は英語ができないので、現地で友達をつくることができるかどうかが、とても心配だった。しかし、英会話の勉強もしないままに出発の日になり、香港へ向けて飛びたった。

私が心配していたすべての事が、思っていたよりスムーズにいった。施設訪問の時に現地のインターアクトの人達とも友達になれたし、交歓会の時は、初対面の人も少なかったので、パフォーマンスの「折り紙」も緊張せずにできたし、一番仲よくなった現地の友達とも、趣味がほとんど同じだということや、香港の学生の進学状況のことなども話せて、お互いをよく知ることができた。全員で盆踊りをしたり、とてもいい雰囲気で、楽しむことができた。そして、自分のメチャクチャな英語で友達と話せたことは、とてもうれしかった。私はこの日、その友達のサンと、手紙を書くことと、来年、東京で会うことを約束して、「サヨウナラ」と言って別れた。

私はこの交歓会で、相手の国を知る以上に自分の国を知らなければいけないということと、もっともっと英語を勉強しなければいけないということを感じさせられた。この海外研修は、私の始ての海外旅行だったけれど、自分のしたかったことはできたし、とても印象に残ることばかりだった。この５日間は、とても充実した日々だった。本当に行ってよかったと思う研修旅行だった。

「ああ　残念」

清風学園　**竹　沢　修　平**

ゆっくりしたスケジュールの日でした。九龍市内、新聞地区の観光、免税店での買い物をすませ、僕達が泊まっているホテルで現地インターアクトクラブ主催の交歓会がありました。現地インターアクト（345地区）は、１７名のアクターしかいませんでした。僕のテーブルには当初香港の人が誰も座りに来なかったので、あまり話ができなかったのが残念です。現地インターアクトが香港でどのような活動をしているのか知りたかったのですが、おそらく老人ホームや、孤児院などで活躍していると思います。香港の人達は僕達の４泊５日という、短い旅行の中で「セントジョセフ老人ホーム」訪問に対して、すごく喜んでいました。香港は工場の煙突があまりないので、大気汚染などがそれほどひどくないとガイドさんが言っていましたが、結構、車の多い所なので排気ガスが多いのではと思います。こういう大気汚染を解決するために僕達は何をすべきか真剣に考える必要があると思いました。現地インターアクターはとても積極的で、誰にでも恥ずかしがらず話しかけてくるので僕も見習わなければいけないと思いました。現地インターアクターの歌も、「もみの木」の歌を換えているという面白い歌でした。英国風の交歓会のやり方もよくわかりました。最後にくじびきみたいなことをするお楽しみ会などには日本で見られないもので驚きました。ホストが香港側だったので我々が用意したパフォーマンスなども全部することができなかったのがとても残念でなりません。最後に盆踊りで会場が盛りあがったのは大成功だったと思います。

【第５日目】

●帰　国

「つらい別れ」

大教大附平野　森山泰成

もう、はや４日が過ぎ、疲れと思い出がいっぱいになった８月２３日僕たちの帰国する日がやって来ました。

あれこれと思いをめぐらせながら、荷物の最終チェックをし、４日間お世話になった、ホテルの部屋を出、食堂に向いました。みんなと前日の交歓会の話をしたり、観光したところを話題にして、楽しく食事の時を過ごしました。これで、もうこのホテルともお別れかとなるとなんだかさびしい気持ち、もっといたいと思う気持ちがわいてきました。

ホテルを出発し、市内のショッピングセンターに着き、そこで、買い物をしましたが、最終日ということで、みんなたくさん買っていました。例えば、知り合いなどにお土産としてわたす茶や自分が使うであろう物を友達とわいわいがやがやと楽しく買っていたのが印象に残っています。

免税店も出発し、残るは上海料理を食べに行くだけになったのですが、そこのレストランの食事のメニューを今でも、何が出されたか鮮明に憶えています。それだけ何かさびしいものがあったのでしょう。食事中は５日もたち、他校との交流も深まって、みんなで結構しゃべっていたのが思い出深いです。

もう残すところ最後、本当に最後、空港に行くだけです。そこに着き、しばらくして、Ａグループが先に税関を越して飛行機にのりばに行きました。これは後で、Ｂグループの人たちから聞いたことですが、Ａグループが税関を越してしばらくしてから現地のインターアクトが見送りに来てくれたそうです。このことを聞いた時は、とてもうれしかったです。会って別れを言いたかったけど。

Ａ・Ｂともに無事帰国し、５日目の旅を終えたのです。

「早すぎた帰国」

清風学園　牧野拓晃

ほとんどの人がそうだったと思うけれどもこの日は寝不足だった。香港に来て最後の夜だったので、寝るのがもったいないような気がしたのだ。

朝起きて、荷物をまとめながら、「あ～あいよいよ帰るんだな。」と思うと全く残念な気がした。

ホテルを出て、空港までの香港の街をバスで観光している時、「これで香港の街の景色も見納めか、しっかり目に焼きつけとかなあかんな。」と思い、がんばって景色を眺めようと努力したけれど、気がつくと、寝てしまっていた。

さんざん苦しめられた市内のレストランでの食事もこれで終わりかと思うと少し寂しい気がしないわけでもなかった。

とうとう空港に着いてしまった。数えきれないほどたくさんの思い出が頭の中でリフレインした。税関の入口までホテルのガイドさんが見送ってくれた。しっかりと別れの握手をした時、本当に感謝の気持ちでいっぱいになった。笑顔で別れたけれど、実を言うと“一人ででも香港に残りたい”そんな気持ちだった。「またいつか絶対香港に来るぞ！」そう思ったので“Good bye”は言わなかった。

飛行機に乗ると、何もかもが終わってしまったような気がして、一気に体の力が抜け、疲れがどっと出て、ほとんど寝てしまった。

飛行機から見る大阪の夜景は、格別の美しさだった。「やっと僕の大阪に帰って来たんやな。」そんなことを思いながら窓の外を見た。空港に着いて飛行機から降りると「無事に着いたんや、僕は今、日本の地面を踏んでいるんや。」そう思うと安心感と嬉しさでいてもたってもいられないような気持ちになった。もちろんその飛行機がニアミスを起こしていたということなど全く知らないで。

空港では多勢の人が出迎えてくれた。「この５日間で本当に大きな人間に成長したな。」と自分勝手にそんな事を思いながら、車からネオンの光る大阪の街の夜景をぼんやりと眺めた。

「知らぬが仏」

大教大平野　**中　野　恭　秀**

５日間の旅、それぞれがそれぞれの想い出をつくったことだろう。５日目の朝、例のレストランで皆をみわたしてみる。つらい別れを覚悟して思いつめる顔や、宿題のことを心配する顔、疲れがもろにたまってもうろうとしている顔、なかには「とっとと帰らせろや。」と言いたげな顔など、まさに多種多彩。そして例のバスに乗り、例のガイドの話を聞き、（はっきりいって誰も聞いてなかったが）、例のDUTY　FREEへ。この店で時計や酒、服などをバカスカ買う人はさすがにいなかった。あんな店は、我々若僧が行くべきではなかったと思う。異常に高い。さて、中華料理もこれで最後だとばかりレストランへ。予想どうり大したことはない。いやむしろ、中山県、初日の夜に次いでまずいと感じた人も多いはずである。で、いよいよ空港へ。我々Bグループは、現地のインターアクト部員に別れをつげるヒマもなく、一足先に564便に乗りこんだ。途中、台北で降ろされ、また乗せられる。かなり遅れてやっと大阪空港に到着した。我々大教大のトランクや荷物は、なぜかなかなか姿を見せず、みんな少しあせっていた。いきなり割り込んできて、「おおこれや！」などと叫んで１０秒ぐらいで荷物を見つけて帰っていくおじさん達を、（やかましい。早よ行け）というような目で見ているうちに、とうとうべべになってしまった。とにかく、人のほとんどいない夜の空港で、我々の旅は終了したのである。尚、翌日、朝刊に『ニアミス発生』という記事を見て、「世の中には不幸な奴もおるもんや。」とか思いつつ目を通すと、なんと564便ではないか！びびってもびびりきれない。というわけで、最終的に無事、研修は終わったのである。お疲れ様……。

Ⅰ 施　設　訪　問

今回の目的の一つである施設訪問は、人数の関係上A・B二グループに別れて、地元インターアクターの案内で別々の施設を訪問した。

（A班）　清風、四天王寺、大阪桐蔭
大教大平野、大谷

訪問先　九竜彩紅聖若瑟安老院
チヨンホイ セントジヨセフ

「養老院を訪問して」

四天王寺中学校　**山　野　る　み**

香港に来て２日目の午後、２つのグループに分かれて、施設訪問しました。私が行った方は養老院でした。

そこでは始めに、ユカタに着がえて盆踊りをしました。でも、想像していたスペースの半分以下で、階段を使って台の上と下とで踊りました。そのせいか、少しも盛り上がらなくてとても残念でした。

その次は、鶴の折り方を教えてあげました。それは、盆踊りの時とちがい、とても喜んでくれました。何人かの横に着いて、少しずつ教えたのですが、言葉が全然通じないので、目の前で折ってみせたり、ちゃんと折れていれば、手をたたいたりするしかありませんでした。でも、ちゃんと理解して、笑顔で折ってくれたので、私まで自然に顔がほころんでずっと笑っていました。現地のインターアクターの人にも、折り方をたずねられ、ジェスチャーと、単語だけの英語で教えました。その人は折りおえた後、Ok, thank you と言ってくれ、you are welcome と言いました。その時、もっと話したかったけど、英語ができないので、話せませんでした。今度来たときは、今よりももっと英語ができるようになって、会話ができるようになりたいと思いました。

時間が来て、帰りながら握手をして回りました。とても怖そうな人でも握手をすると、笑顔で送ってくれました。この時、本当に来て良かったと思いました。

バスにのる前に、私が教えたおばあちゃんがいたので手を振ると、こっちに来いとジェスチャーでされ、一緒に写真を撮りました。その写真は、一生大切にして、一生の思い出になると思います。

「海外研修の思い出」

大谷高校　**赤　坂　由紀子**

この海外研修は本当に思い出に残ることばかりで何から始めてよいのやら迷ってしまうけれど、私がいちばん嬉しかったのは、老人ホームへ行き、私たちが民謡や折り紙を一生懸命やっていることに対して、おばあさんたちがいっしょに楽しんでくれたことだ。日本でも私の学校は毎週老人ホームに行くけれど、香港の人ほどすぐうちとけてはくれません。でも香港の老人たちはすぐにうちとけてくれて、私のチンプンカンプンの“日本語英語”を聞いてくれて、何だかとっても元気になった。できたらお話をたくさんしたかったけれ

ど、おばあちゃんたちには英語も少ししか通じなくて少し残念に思った。

また香港は少し郊外に出ると、人々の生活がすごく感じられるところだ。何十階のマンションが立ち並んで、部屋が丸見えになる。そこは生活の匂いがしている。また山手に行くと、美くしい家々が建ち並んで貧富の差を感じさせる。それでも香港の夜景はすばらしくて、ずっと見ていたい気分になった。

またマカオや中国は発展途上中を感じる所で、少し田舎になったら本当にのどかなところだ。お昼をすぎても人々は飲食店などでたむろしていていつ働いているんだろうと疑問に思ってくる。日本人がいそがしそうに働いているだけか、それとも中国人がのんびりしているのかどっちなんだろう。

毎日がいそがしくて何が何だかよくわからないうちに過ぎていった海外研修だったけれど、それなりに日本しか知らなかった私も、少しでも外国の生活・文化などに触れることができて、私自身の世界が広がったように思う。本当に世界というものは広くて、いろいろな人たちが生活していて、そういう世界を少しでも見ることができるというのは、私たちの意識を高めるためにもとてもよい機会だったと思う。

「思い出は走馬灯」

清風学園　**牧 野 拓 晃**

海外研修を終えた今、これはたぶん誰もが感じていることだろうと思うけれど、あっという間に終わってしまったような気がする。それは、この５日間が充実していたという証しであると思う。いろんな事があって本当に楽しい５日間だった。食事に苦しんだこと、香港、マカオ、中山県の観光名所をまわったこと、夜景が美しかったこと、たくさん買い物をしたこと、思い起こせば、数えきれないほど多くの思い出の場面が走馬灯のように頭の中を駆け巡る。

その中でも今回の海外研修の中心である、香港のＩＡＣとの交流について書くと、向こうのACTER達はとても明るく、気さくで、それでいて前向きで、積極的な感じを受けた。

施設訪問では、お年寄りの方々とは言葉が通じないので、身振り手振りでなんとか理解してもらおうと必死だった。鶴を折ってあげた時のおばあちゃんの嬉しそうな笑顔を見た時、感激して涙が出た。

交歓会の時は、香港のＡＣＴＥＲの積極的な行動に正直言って押されてしまった。英語を学ぶ期間はほぼ同じなのに、向こうの人は随分と英語が話せるので「勉強熱心なのだなぁ」と感心すると同時に、自分の勉強不足を恥ずかしく思った。

この海外研修で一番良かった事は、日本のＩＡＣも含め、多くの人々と巡り会えた事だ。こんな短い期間に、いろいろな国の人々と出会えて本当に嬉しかった。僕はこの出会いを一生忘れないつもりだ。この香港での走馬灯を大切にしまっておこうと思う。

最後に、この海外研修を成功させるにあたって、浪速高校ＩＡＣを初め、各校の顧問の先生方、ロータリアンの方々、その他いろいろな形で協力して下さった方々全員に心からお礼を言いたいと思います。どうもありがとうございました。

「海外研修の感想」

大教大附属高校平野校舎
内　山　はる奈

今回のこの旅行は私にとって、とても意味のある旅行となりました。普通の観光旅行ではとても経験できないことができ、普通の観光客よりも深く、香港を知れたと思います。

まず、2日目に訪問した養老院での盆おどりや折り紙。折り紙の時一人で三人ぐらいのおばあちゃんをうけもち、英語話しても反応ないし、まして日本語なんか通じるわけがないし、おばあちゃん方は広東語をしゃべられるし……。なにもしゃべらずに折り紙を折るのも何だか変なので、通じないとわかりつつ英語をしゃべりながら折った。そんな私にでも、鶴ができたら「多謝、多謝（トーチェ、トーチェ）」と言って下さり、とてもうれしかったです。折り紙がはじめての人には鶴は少し難しかったようでした。

香港のインターアクターとの交流会も良かったです。最初は英語が通じるかどうか不安だったけど、なんとか通じて、映画の話とかアドレス交換をしました。その子が私に手作りの幸運を呼ぶ腕輪をくれました。大切にしようと思います。

このような経験ができて私達は幸せだなぁと思いました。香港の水上生活者の人は、死んでから初めて陸地にあがるそうです。それをガイドさんから聞いて、こんな若いうちから海外へ旅行できて本当に幸せだと思いました。これもロータリアンの皆さんや、親のおかげだと思います。ありがとうございました。

あと7年で香港は中国に返還されます。それまでに広東語を少しは覚えて、もっと生の香港を体験しに行きたいと思います。これは夢で終わるかもしれませんが、今度は自分のお金で行きたいと思います。

（Ｂ班）　浪速、東、金光八尾、明浄

訪問先　　聖雅各福群會

「施設訪問」

金光八尾高校　**高内尚子**

この４泊５日の研修は、内容の濃いものでした。ほとんど観光で、目的の交流会は、２日しかありませんでしたが、観光を通してガイドさんと仲良くなったり、現地の町の人の日常の行動を見れたりして、良かったです。私は、ガイドさん２人が日本の事をよく知っており、一生懸命日本語で、説明しているのを聞いて驚きました。ほとんどバスの中にいましたが、日本人と顔が似ているせいか、現地の人との距離が、今までより短かくなったような気がします。

施設訪問の時は、はっきり言って不安でした。過去に日本で２回、このような施設を訪問したことがありますが、その時は、お互い日本人同士でしたので、言葉が通じるので、楽しく話しをしたりすることができました。もちろん、最初は、自信がなく、少し抵抗を感じていました。でも、今回の場合は、言葉が全く通じない事もあって、施設に入る前から、心臓が、破裂しそうな位になり、その上に、恐怖や抵抗を感じたので、帰りたくなりました。でも、実際中に入ると、過去に経験した時と、変わりはなく、気持ちも落ち着きました。

交流会では、テーブルには誰も来ませんでしたが、施設訪問の時に知り合った人が来て、少しでしたが、話しをしました。その人とは住所の交換をして、思い出に残る交流会になりました。その時に、一番うれしかったのは、２日前の施設訪問の時に撮った写真を、何枚か焼き増しして、くれた事と、私の片言の英語を一生懸命聞いてくれた事です。

単なる交流会でしたけど、日本と香港とのつながりを考えると、とても重要なものだと思います。国際人の友達が何人もでき、自分が一層大きくなったような気がします。そして、友達になった人を大切にし、いつまでも仲良くしていきたいです。

「研修旅行を通して」

浪速高校　**奥野泰臣**

この研修旅行で、一番印象に残った事は、２日目に行なった施設訪問です。なぜなら、初めて香港のインターアクトの人達と、交流したからです。この交流では、僕が夏休みのオリエンテーションで、四苦八苦しながら覚えた折り紙を、教える事が出来たからです。その時、アンドリュー君・クリスト君・ジョン君と、後２人の女の子と友達になりました。彼らと友達になる前は、ちょっと話す勇気がなかったけど、そんな時、彼らから“Ｈｉ”と声をかけて来てくれたのです。僕は、まだ不安ながらに、「ハイ」と返事をしました。その時の彼らの笑顔を見て、不安なんかどこかに吹き飛んで、いろいろ話しました。

アンドリュー君達は、僕達と違って、親に学費を払ってもらわずに、自分達でバイトをして、学費を払っていると聞いて、すごく感心しました。クリスト君は、好きな教科は、体育と国語で、嫌いな教科は、化学と数学と言っていました。教科の好き嫌いは、僕達とあまり変わらないなあと思いました。そうこう話している内に、施設の人から説明があり、施設内を、見て回りました。施設内では、身体障害者の人達が、仕事をしていました。日本でもこのような施設があると耳にしたことがあったけど、実際見たのは初めてだったのですごいなあと思いました。このような施設は決してなくなってはならないと思いました。なぜならその人達は、明るくて、僕までなんとなくほのぼのとした気持ちになったからです。そして、老人ホームでは、朝８時から、夕食を食べて帰るまで、ホームで友達と話をしたり、テレビを見たりして、過ごしているという事です。いつまでも長生きしてほしいと思いました。この研修旅行で、日本では経験できなかった事を体験することが出来て、すごく勉強になりました。提唱ロータリーの先生方、本当にありがとうございました。

責任者より説明を受ける

記念のバナーを贈られる
川端先生（住吉ＲＣ）

“ニイーハオ”あとは笑顔で

案内してくれた地元インターアクターとともに

職業訓練所を見学

贈られたバナー

Ⅱ 交歓会 JOINT DINNER

インターアクターの一番の楽しみとする交歓会が、宿泊ホテルのリバーサイドホテルで開かれた。準備はすべて、香港インターアクトクラブが行こない、参加者全員が初めての大きな体験をした。

一日目到着早々香港インターアクトの代表と打ち合せをする各校代表と先生方

“Hi” こんばんは、女性はユカタで入場

「最後の夜」

四天王寺中学校　**砂　川　さおり**

楽しい時は、過ぎるのがはやいように、まだまだあると思っていた海外研修もとうとう最後の夜になってしまいました。

静かな音楽の流れる中での、現地のインターアクトの人達との交歓会。残念ながら私達のテーブルには現地の方は誰もいませんでした。だけど、いろいろな学校の人達と話すことができてとても楽しかったです。今まで知らなかった人もたくさん知ることができて、「こんな人もいたんだなあ」と何度も思いました。そして、今一緒にいる人達は、みんなインターアクトの人達で、同じ目的でここにいるんだなと思うとなんだかうれしかったです。

みんなで手をつないで螢の光を歌った時、その日までのいろいろなことが、思い出されて「これで、本当に終わりなんだ。お別れなんだ…。」という気持ちでいっぱいでした。

日本に帰りたくありませんでした。台風でもきてくれて、1日でも長く、みんなとここにいたいと思いました。

部屋にもどっても、そんなことばかり考えていました。15年間の中のたった4日ですが、その4日間が、私にとって大きすぎて、これ以上何もはいらないというぐらい思い出ができて、明日、飛行機に乗って大阪に帰ることがとてもさみしかったです。

その夜は同室の松下さんとずっとずっと話していました。きれいな夜景を見ながら話すことはつきません。

前から楽しみにしていた海外研修、だけどここまで思い出深いものになるなんて、終わってしまった後でないとわかりません。

最後の夜に感じたことはいつまでも忘れないと思います。

挨　拶

「自然保護」を我らの手で

香港RC　PETER THONG

RI266地区インターアクトクラブの皆様ようこそいらっしゃいました。

私は今回皆様をお迎えする香港RCのピータートンです。本日ガバナーが参りまして御挨拶を申し上げるところですが、他に予定がありまして失礼致しますとのメッセージがありました。

本年、私共香港ロータリーは「自然保護」を主テーマに活動していますが、地球の保護は香港や日本にとって重要なことで、その主な原因は大気汚染問題にあります。また、私共は多額の費用を使い水資源の保護もやっております。政府のみならず各企業も努力が必要で、今夜私がここにおりますのも現在14～16才の君達がもう10年する頃にはもっと大きな問題になるという事を訴えたかったからです。そして、若いインターアクターの人々が地球浄化に努めて欲しいと思います。

話はかわりますが、あなた達が今回二つの施設を慰問されましたが、この事は老人達にも大きな刺激を与えてくれたものと思いますし、老人達からもよろしく伝えて欲しいとのメッセージもありました。このようなことをお伝えできる事は本当にうれしいことです。

今回皆様方は大変ハードスケジュールな為にお互い喜びを分かち合う時が少なすぎる事はとても残念です。再度皆様とお会いできる機会があればもっと話をしたいと思います。

このツアーの企画をされた266地区飯原委員長はじめ先生方、さらにインターアクター全員が今日に向って努力された事に対して感謝申し上げます。345地区のインターアクトの皆さんも今夜は有意義にお過し下さい。又、このパーティーをアレンジして下さったホテルの皆様にも感謝致します。

最後に皆様にお会いできた事は、涙が出る程うれしい事をお伝えして、私の挨拶といたします。

「さらに深い交流を」

266地区IAC委員長　**飯原　弘章**

この香港345地区と私達ロータリークラブ及びローターアクトは10年間深い関係を続けてきました。インターアクトも以前には香港を訪れた事がありましたが、本年は特にガバナーが「アジアに目を向けよ」との事で先生方と相談して実現しました。お互いにこの2日間の活動を通じてコミュニケーションを深めてまいりましたが、今夜もロータリアン、ローターアクトの皆様も交じえて更に交流を深めて頂きたいと思います。すでに住所を交換している人もいますが、ただ座っているだけでなく大いに話し合って頂きたいと思います。

最後にこのような立派な場を設定して頂きました、地元ロータリアン及びインターアクトの皆様にお礼を申し上げ、有意義な2時間になる事を念願いたします。

RI第345地区 IAC.C ピータートン委員長のスピーチ

Speech at Joint Interactors Dinner

R.I. DISTRICT 345

1990－'91 CHAIRMAN OF INTERACT COMMITTEE

Peter Thong

Good evening, Chairman of Interact Committee Hiroaki Iihara of R.I. District 266, PDG Uncle Peter Hall, Fellow Rotarians, Teachers of R R.I. District 266, Rotaractors especially Rotaractor Nami Iihara and beloved Interactors.

First and toremost, our District Governor Arthur Aw apologised for being unable to be here with us this evening because he has to attend a District Governor meeting with one of the Rotary Clubs in Hong Kong. His meeting was arranged before any knowledge of our function and it involves all the members of that Rotary Club he is visiting tonight. However, DG Arthur Aw did ask me to encourage you to think of Rotary's aim to "preserve our planet earth". "Preserving our planet earth" is ever so important as our contemporaries have discovered. Like every maintenance activity, prevention is always better than cure. Interactors, being very civic conscious, will undoubtedly take all the care to preserve and beautify our environment and encourage others to do so too. You will also be interested to know that our Governments are spending billions of dollars to "cure" our environment. So therefore you can look forward to a much cleaner and healthier place to live in 10 years from now, when you are in your early twenties. For your information, the Hong Kong Government has budgetted HK$21 billion to be spent over the next 10 years to improve on water treatment, sewage treatment and effluent discharge projects. The private sector will also be expected to do their share, especially the manufacturing and construction industries. Legislations are in the process of being prepared and implemented to make it imperative for these industries to comply.

Let us all then join our Governments' effort in preserving our environment, and therefore planet earth.

It gives me great pleasure to see all of you here at this dinner because this function is a good testimony of your interest in participating in a joint effort. I am also very pleased to see the beaming faces of our Interactors, both in District 266 and 345. Your enthusiasm is shown on your faces.

During your short stay in Hong Kong, you have done very well in enlightening the hearts of many. The old aged and the handicapped people you visitcd at St. Joseph's Old Age Home and St. Jame's Settlement are very grateful for your having taking so much trouble in organising the visits and also putting up very good traditional Japanese performances for them. Our own Interactors of District 345 and I also benefitted from your friendship. I trust this friendship will blossom and last. My only regret is that visit is very short, well packed with activities, and I had very little chance of getting to know you all better. Nevertheless, I am sure we will meet again and again in the future somehow, and our friendship will always continue.

At this juncture, I must compliment your District Interact Committee Chairman Hiroaki Iihara, your teachers and our very charming Rotaractor Nami Iihara, who have put in a lot of enthusiasm to make your visit a tremendous success. The Interactors of District 345 is also to be complimented for having organised the visits to St. Joseph's Old Age Home and St. James Settlement for our joint community projects. Last but not least, and appreciation to all of you Interactors in District 266 whose personal efforts and enthusiasm for a better world not only for yourself but also others, make this visit a most memorable one for the Interactors of District 345 and me.

Have a very enjoyable evening...

海外研修交歓会スピーチ

R. I. DISTRICT 266
1990－'91 CHAIRMAN OF INTERACT COMMITTEE
HIROAKI IIHARA
OSAKA SUMIYOSHI R.C.

Good evening P.D.G. Peter Hall, I.C.C. Peter Thong, Rotarians, Rotaractors, and Interactors in distrcit 345.

My name is Hiroaki Iihara, and I am a Chairman of Interact committee district 266.
As you know, your district 345 Hong & Macau and our district 266 Osaka North havc been keeping a very special and closc relationship for over a docade. For the past 10 years I have been leading Rotaract committee and we have done a thousand of remarkable cxchange programmes very sucessfully.

And this year, We would like to expand our friendship into the Interact actibities as well. Past three days Hong & Japan Interactors had made community services together and I am sure we could develop our international understanding through the common services towards common goal.

Tonight I would like to address my deepest appreciation to dear Hong Kong Interactors for this wonderful party arrangement, and especially, I thank for Interact Committee Charman Peter Thong for his all efforts and contribution to make this project successful.

I hope our paths will continuously come across in the future, and I wish all your best.

Thank you very much.

「お楽しみ下さい」

RI 345地区 IAC代表

両地区のインターアクトの皆様コンバンワ皆様を心より歓迎致します。

皆様方の滞在が大変短いですが、色々なお話をしたり、聞いたりしたいと思います。どうか今夜はゆっくりお楽しみ下さい。

345地区インターアクトクラブから
9クラブに贈られたモニュメント

「友達をつくろう」

RI 266地区 IAC地区代表
長 野 範 人

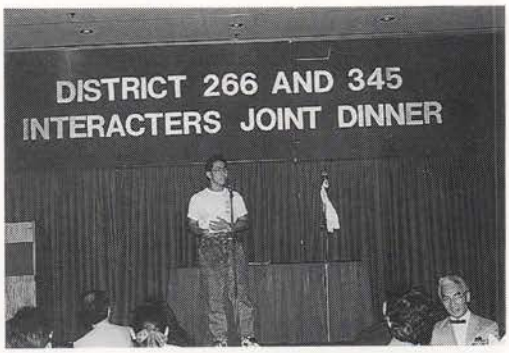
皆さんコンバンワ、私は266地区インターアクト代表の長野範人です。

345、266地区両ロータリークラブのスポンサーによって今夜皆様と一緒に楽しく過す事は私だけの喜びでなく、皆様の喜びでもあると思います。

皆様御存知のように、世界情勢はここ数日大きな変化をしています。この激動の世界で私達両国の若者が共通で何か一つの事をする事は大いに世界平和に貢献するのではないでしょうか。まず友達になる事が先ですが、今日の集いで友達をつくる事が大切な事です。

今夜せっかく集ったのだから大いに楽しみましょう。

最後に両ロータリークラブに心よりお礼を申し上げたいと思います。さあガッツを出して楽しもう。



当日の参加者

266地区参加者　86名
345地区参加者
インターアクト　17名
ローターアクト　8名　＞25名
ロータリアン
合計　111名

Joint Dinner
District 266 & District 345

Programme :

6:30	p.m.	Reception
7:30	p.m.	Cpening Ceremony
8:00	p.m.	Dinner
9:00	p.m.	Performance
10:00	p.m.	End

Regal Riverside Hotel (H.K.)
22nd Aug, 1990

「もっと積極的に」

三澄勝利

この海外研修を通して自分はさまざまなことを感じた。まず、自分の英語力の乏しさを再認識した。というのも、ホテルのフロントで、自分の英語が全然通じなかったからである。やはり、自分が日本で学んできた英語では、外国の人と十分に会話できないのだなあと感じた。これからは、実際に役立つ英語をもっと学んでいこうと心に決めた。

次に、これからの国際化の社会において、現地インターアクターとの交流のときに自分がとったような消極的な行動ではいけないということだ。現地インターアクターのような素直だが、はっきりした自己主張がこれからの社会では、必要となってくるように思う。インターアクトクラブの目標の「奉仕」「国際理解」なども全て、個人の積極的態度で参加する姿勢の上に成り立っている。奉仕活動にしても、それが、自主的に行われたものでないなら、それは、奉仕とはいえないし、国際理解にしても、積極的に外国の人々と、コミュニケーションをとってこそ、彼らの考えを知ることができるのである。だから、インターアクトクラブの一員である以上、自分は、積極的に行動すべきであった。しかし、あまり現地インターアクターと会話できず、とても残念に思えてならない。

旅行が終った今、自分の脳裏に、最もくっきり残っているのが、施設訪問で、年老いた方々に折り紙を教えた時に、「つる」ができ上がって、喜んでくれたときの、うれしそうな笑顔である。自分の知識不足のため、何度も失敗し、きれいにできず、周りの人のよりも雑であったが、少しもいやな顔を見せず、とても喜んでくれ、それを大切に持ち返ってくれた。自分にもっと知識があったら、もっときれいなつるができたのにと思うと、香港に来る前に、ちょっとでもその知識を身につけていればよかったなあと、これも、今となっては、残念に思うことだ。

今、海外研修のことを、思い起こしてみると、このように、自分には、後悔するべきことがたくさんある。今度、また、海外に行く機会があれば、同じ誤ちを犯さないためにも、この海外研修での経験を大切にし、そして、この旅で学んだ知識を、これからの自分の生活に、何らかの形で役立てていきたい。

プレゼント交換

「ボディランゲージ」

川楠賢治

私は今回の海外研修に参加できて本当に良かったと思っています。ただ単に香港に行けた、いろんな所を観光できた、良かった、といった類のものではない。生まれて初めての海外旅行、初めて乗る飛行機。何にもかが新鮮でまさしく異世界に行った錯覚さえ覚えてしまった。

言葉が通じぬ不自由さ、そして己の力のなさをまじまじと見せつけられ、生きた心地がしないほどだった。何をするにも片言の英語で必死になって話しかけ、それでもだめならボディーランゲージだ。

何不自由なく生きてまた昨日までの自分が信じられなかった。もし去年のようにハワイで研修があり、ホームスティがあれば死んでいたにちがいない。

しかし、そこで逃げてはいけないと思う。

現地インターアクターとの交歓会では同じテーブルについた彼らとコミュニケーションをとることに一生懸命になった。だが相手の話していることは、残念ながらほとんどわからなかった。言葉にならない思いが心に駆け

めぐった。英語を話せないということがこれほどまで情けないこととは思わなかった。会が終わったとき私は決意した。「もっと英語を勉強しよう。そしてもう一度ここに来るんだ。」と。

その日の夜、もう一度その言葉を思い出してみた。再びあの思いがこみ上げてきた。もしあの時、もう少しましに話していたらと思うとくやしくてたまらない。

しかし、今このような体験ができて本当によかったと思っている。ロータリークラブの先生方、そして両親をはじめ、この研修に協力して下さった方々に深く感謝したい。

「早かった5日間」

辻 本 洋 子

本当に早かった5日間。楽しかった5日間。

8月19日から23日の香港・中国への海外研修では、めったにできない経験ができました。

私にとって初めての海外旅行で、不安や心配が、頭の中をかけめぐっていましたが、いざ行ってみると楽しかった思い出ばかりです。

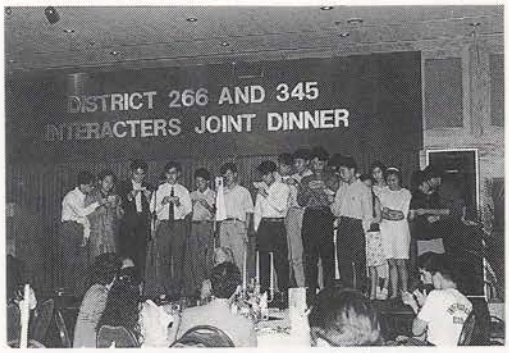
この旅行で印象に残っているのは、やはりビクトリアピークからの夜景。世界三大夜景の一つで、『百万ドルの夜景』と有名なだけあってすばらしいものでした。今でも目にやきついています。また、香港の街で見られるとても高い建て物の多さには驚きました。28階以上でないと建てることができないと聞き、改めて日本との違いを感じました。

この海外研修に参加して、自分の英語力がないのが身にしみてわかりました。2日目の行事の、施設訪問で、現地のインターアクトと顔を合わせ、いろいろ話をしようと思ったけれど、そう簡単にはいかないものでした。向こうの言っている意味がわかっても、英語として口からうまく返事がでなくて困りました。少しもわからず、笑ってごまかしたことも何回かありました。もう少し英語が話せたらなぁと自分が情けなくなったけど、これを機会に英語を勉強しようと思えたのだから、私には良かったのかもしれません。4日目のメインの行事である交歓会では、私の座っていたテーブルには、現地の人は一人もいてなかったので始めは、さみしいと言ってたけれど、それなりに楽しかったように思います。折り紙を折ったり、河内音頭をみんなで踊ったり、とてもいい思い出になりました。

楽しい時間は、どうしてこんなに早くすぎてしまうのでしょうか？

今度、香港へ行くときは、英語の勉強をしっかりしてより充実したものにしたいです。

この旅行は、5日間という短い期間だったけれど、たくさんの良い友達や思い出ができて本当によかったです。



香港インターアクトの合唱

「盛りあがった交歓会」

倉 岡 真 紀

香港に行って本当によかった、と私が心から思ったのは、帰って来て1週間ほどしてからのことだった。それまではただ、楽しかったなぁ、ぐらいにしか思っていなかったが、家に帰って1週間後、向こうで友達になった子からの手紙を受け取った時、そして、読んでからはもっと、表現できないくらいうれしかった！！！その次の日に、もう一通、別の子からの手紙と写真を受けとった時の喜びも、すごかった。そして初めて、香港に行って本当によかったと思った。

私が初めて現地の子と仲よくなったのは、日本に帰る日の前日に行われた“交歓会”で

した。その時にとても盛りあがってしまい、すばらしい交歓会となった ——が、少し時間が短かったように思った。（あとで、現地インターアクトの子たちも、そう言っていた。）そして、楽しかった交歓会は終わったが、私達は"GOOD－BYE"とは言わずに、"See YOU LATER"と言って別れた。それは、今考えると、本当にsee you laterになってしまった。その夜、Canvasから電話があり、なんと、次の日に空港に見送りに来てくれるということだった。

私達は、空港で出会った。私はCanvasとEddieからプレゼントをもらったり、みんなで写真をとりあったりして、とても楽しかった反面、とても悲しかった。もうすぐ本当に別れなければいけないということに。
Canvasも涙ぐんでいたみたいだった。友達も泣いていた。とてもすばらしい出会いだったけど、最後は本当につらかった。

今、書きながら、香港での友達のことをとても懐かしく思う。この海外研修に参加して私は、とてもすばらしい時を過ごしました。

「何にも勝る交歓会」

結 城 康 弘

香港での研修において、一番思い出に残ったことは、やはり、現地のインターアクター達との交流だった。これに勝る思い出はなかったように思える。

第2日目に老人ホームへ訪れたときに、初めて現地のインターアクター達に会った。彼らに会ったときには、本当に焦り、緊張してしまい、

「えっ何だって？言っていることがわからない！」とまあこのような調子で、会話などあったものではなかった。

その日の夜、何故、話せなかったのだろうかと考え反省した。そして、第4日目に再び彼らと会う時には、必ずお互いに会話をかわそうと…。

第4日目の晩。会場のテーブルについたとき、僕達のテーブルには、現地のインターアクターがいませんでした。内心、焦りました。

ようやく、その交歓会が始まろうとしたとき、やっと、彼らは来てくれました。意気込んで話をしようと思いましたが、焦ってしまい、うまく言葉が通じませんでした。しかし、話しているうちに、だんだんと通じるようになってくると、とてもうれしくなり、人とコミュニケーションがとれることがこれほどうれしいこととは思いませんでした。彼らは、思った以上に友好的で積極的に僕らに話しかけてくれました。その日は本当に満足した1日だったと思います。

帰国の日、彼らが空港に来てくれたときは、昨夜の感動がよみ返ってきて言葉が出なかった。彼らと別れるのが —— ちょっと大げさだが —— まるでドラマでの別れのようにつらかった。

この研修において、現地のインターアクター達と会ったこと、そして、彼らと言葉が通じたことよりも、彼らと思いが通じ合ったことが一番良かったと思う。これが研修においての最高の思い出であった。こうして、すばらしい思い出をつくれた研修に参加できたことをうれしく思う。

「交歓会にて」

植　田　真由子

香港の５日間は短かった。でもやっぱり５日間で一番思い出に残っているのは、最後の交歓会。

最初は、どうしようなんて、どきどきしていたし、現地の子も同じ様子だった。交歓会が始まっても何を話せばよいのかわからないし、両側現地の子にはさまれて、大ピンチ！なんとか話を切りだそうと、好きな映画のことを話すと、ジャッキー＝チェンのことで少し盛り上がった。マイケル＝Ｊ＝フォックスが好きだと言ってたっけ。香港でも『バック・トゥー～』は大人気らしい。なんと、中山美穂も知っていると言っていた。

うまく話ははずんだが、ネタが切れてしまって、何かないかと考えていたころ、ちょうど折り紙が始まった。「これはいい。つるを教えてあげよう」そう思っていたら、現地の子は、かえる・くじゃくなど、私たちにはとうてい作れそうにないものを作り始めた。香港にも折り紙があるのか、それとも、この交歓会のために練習したのか、わからないけど、とにかくやたらうまいので、びっくりした。手の器用さは折り紙だけではない。隣の女の子が、幸運を呼ぶという、きれいな糸で編んだ腕輪をくれたのだが、かぎ針も使わず、手で編んだらしい。ずいぶん時間がかかったそうで、それをもらった時、とてもうれしかった。

そして交歓会も、終わりになってきた。みんなで盆おどりをし、手をつないでほたるの光を歌い、別れを惜しんだ。

今まで、こんなに楽しかった旅行はない。バスガイドさん、養老院のおばあさん、ジャッキー＝チェンのサイン入りポートレートを見せてくれたバスの運転手さん、パンダの折り紙を喜んでいたウィニー、新しくできた他校の友達。さようなら、みんな。また会える日を楽しみにしています。

Hi「ＭＩＹＵＫＩ」

竹　永　みゆき

この旅行は、とても楽しく心に残るよい思い出となりました。

料理については、中華料理はおいしかったのですが、焼飯と焼そば、そして中国で飲んだオレンジジュースは私の口にはあいませんでした。でも果物屋さんで飲んだ絞りたてのグレープフルーツジュースやお店のパンはとてもおいしかったです。

ところで、この旅行で中国や香港の観光以外で私の心に一番印象に残っていることは、交歓会で巡り合ったたくさんの人と友達になれたことです。もちろん日本人も含めてすばらしい人ばかりでした。施設訪問で一度会ったことのある子は、交歓会で私のことを覚えていてくれて「Miyuki」と声をかけてくれたり、プレゼントをくれたりしました。とてもうれしかったです。ただすごく残念に思ったのは自分の英会話力の無さです。すごく情なく思いました。だから絶対に英語だけは話せるようになろうと思います。香港のインターアクターももっと英語を話して練習するべきだと言ってました。その中の一人とは、きっと英語をもっと話せるようになるから今度会った時話そうね、と約束もしました。

短期間ではあったけれども、本当にこの旅行ではいい経験をしました。来年行く人もぜひいろんな人と友達になり、楽しい旅行をしてほしいと思います。

最後になりましたが、この旅行にあたって御尽力頂いたロータリーの皆様、諸先生方、本当にありがとうございました。

「言葉の壁」

樽 居 幸 枝

この夏休みに行った海外研修旅行は、見るもの全てが新鮮に見え、また今後の人生にも大きな刺激になったと思います。

しかし、私がこの研修旅行へ行く前から気になっていた事が一つあるのです。それは、「言葉の壁」です。英語は中学に入ってからずっと勉強しているので、真面目にやっていれば絶対に話す事ぐらいは出来るはずなのですが、私は全々英語を話す事が出来ません。身ぶり手ぶりでやれば何とかなるってみんな言うけれど、やっぱりいざとなるとそんなものどっかにいってしまいます。もう、不安で「あー、早く終わってほしい！」という気持ちで頭がいっぱいでした。こんな時、もっときちんと英語を勉強していれば…とつくづく思いました。でも、いつまでもこんな事思っていても仕方がないのでまず、相手の言っている事をしっかり聞けば分かるんじゃないかと思い、とにかくじっくり相手の言っている事を聞いている事にしました。すると、だいたいですが相手の言っている事が分かりました。

この様に、いくら言葉が通じなくてもある程度、少しでもその国の言葉を知っていれば、相手の言っている事、また自分の意志を伝えられるという事を、実際に体験する事によって改めて実感しました。少しでも英語を知っているのであれば、恥ずかしがらずにどんどん積極的に話していけばいいと思います。そうすれば、「言葉の壁」なんて問題は無くなるんじゃないかと私は思います。

「笑いあえたうれしさ」

丸 尾 由 香

今回の海外研修で、一番印象に残っているのは、現地のインターアクターとの交流です。

全然しゃべれないんじゃないかと不安だったけれども、実際に会ってみると向こうがとても積極的に話しかけてきてくれたので、思っていたよりもずっと気軽に話ができて安心しました。

現地のインターアクターと話していて、驚いたのは、とても英語が上手だという事です。発音が上手とかいうだけでなく、自分の物にしている、という感じがしました。現地のインターアクターの言っている事がわからない時はつづりを書いたり、絵を書いたり、別の言い方に言い換えてくれたので、英会話の経験のない私にも理解でき、楽しく過ごせました。話がすすむにつれて単語や身振りだけでも話が通じ、笑いあえたのは一生忘れられないくらいうれしかったです。

今回の現地のインターアクターとの交流が刺激になって私の英語に対する姿勢がとても前向きになったと思います。せっかく住所も聞いたし、またとないチャンスなので彼らとのつながりを大切にしたいと思います。

本当に、海外研修に参加して良かったと思います。はじめは「香港」と聞いてどんな所かと心配だったけれども、今では、もっと香港に滞在していたかったな、と海外研修が4日間で終わったのが残念でなりません。

しばらくの間は海外旅行といえば「香港」というイメージが頭から離れないようです。

これから、もっと英語を勉強していろんな国へ旅行したいと思います。

「思いは同じ」

森 島 泰 子

私にとってこの研修は、何もかもが初めての経験でした。日本から離れて、日本語とは違う国へ行ったことも、飛行機に乗ったことも、本場の中華料理を食べたことも、そして、外国の人と友達になれたことも、あとは、私が見た、聞いた、行った、ほんの小さな出来事、場所が、私には、全部驚きと感動でいっぱいでした。人と街の様子は、日本に似ているところがあっても、考えていることが同じでもどこか日本とは違うなぁと思いました。香港の地についたとき、外国に来たという実感が湧きませんでした。でも、なぜか分からないけど、自分自身緊張と不安がありました。初めて実感が湧いたのは、チップを渡したときと、香港の街を歩いたりしたときに、中国語と英語だけしか耳に入ってこなかったときでした。

いろんな所へ観光に行ったけど、見学する時間が短かったのであまり覚えてないけど、マレーシアの人と話すきっかけができて、英語が通じて、うれしかったことを、覚えている。中国へ行ったときは、街の様子がぜんぜん日本とは違っていたけど、やっぱりどこの国へ行っても、人の考えていること、思っていることは同じなんだなぁと思いました。

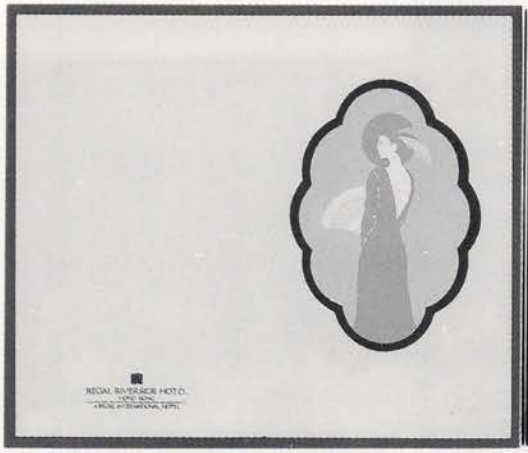
現地のインターアクターと交流したとき、あせっていたせいもあったけど、英語が、ほとんど理解できなかったんだけど、相手の人はいろいろとたくさん話しかけてくれて、とてもうれしかった。このとき、友達になった人が、交歓会のとき、わざわざ声をかけてきてくれたときは、もっとうれしかった。このとき思った、言葉が通じなくても大丈夫なんだなぁと。この人からは、1週間後にAIR・MAILがきた。

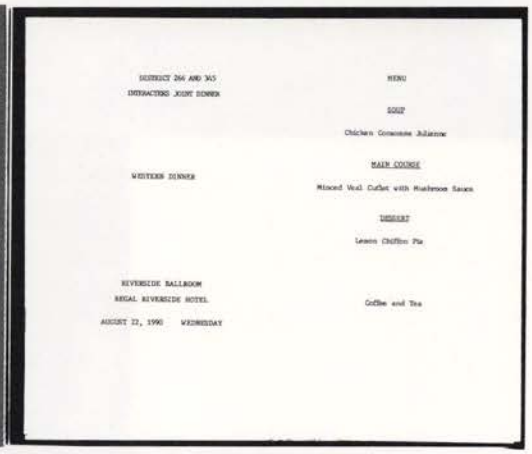
この5日間の短い間に、私の知らなかったことばかりが、たくさんありすぎて、頭に入ったのか、入ってないのか、勉強になったのか、なっていないのか分からないけど、私の身についたことが、いつかどこかで、知らない間に役に立つと思います。

私が、この研修で、一番感じたことは、どこの国へ行っても、人の考えていることは同じで、言葉が通じなくても、相手の気持ちが分かるということが、実際に外国へ行ってみて、体験して、改めて分かったような気がします。

最後に、緊張も、不安も、驚きも、感動もあったけど、本当の気持ちは、うれしくて、うれしくて、ワクワクしながら、楽しんだような気がします。

当日のメニュー　シェフはハンバーガー類は最も得意なJEFF GILBERTさん





DISTRICT 266 AND 365
INTERACTERS JOINT DINNER

WESTERN DINNER

RIVERSIDE BALLROOM
REGAL RIVERSIDE HOTEL
AUGUST 22, 1990　WEDNESDAY

MENU

SOUP
Chicken Consomme Julienne

MAIN COURSE
Minced Veal Cutlet with Mushroom Sauce

DESSERT
Lemon Chiffon Pie

Coffee and Tea

「もう一度」

小林秀之

一番始めこの旅行のことを聞いた時、まだ先のことだったのであまり考えず少し行こうかなと思っていました。しかし、だんだんこの旅行のことが本格的になってきた時、お金の問題や家族からもあまり賛成されなかったのでやめようかなと思ったけれど、思いきって行って自分のためにもなりましたし、ふだん見ることのできない先輩の行動などとてもおもしろかったと思います。

観光の面で一番よかったのは、やはり中国です。なぜならそれは物価が安いし、中山県の民家の中を歩いたことは今でもはっきりと心の中に焼きついています。

しかし、今回の旅行で一番心に残ったことは、観光ではなく、また食事でもなく、香港のインターアクトのみなさんと話し英会話ができたということです。ぼくは、海外旅行はもちろん、外国で英語を使うなど始めてのことだし、あまり英語には自信がなかったのでとても心配でした。2日目で始めて話しをした時は、先輩がいてかわりに返事をしてくれたので助かりました。けれども、4日目は、先輩たちとはなれたので心配でした。案の上ほとんど英語がわかりませんでした。しかし何とか通じさせようと辞書を引いたり、もうわからない時は先輩の所へ聞きに行ったり、香港では中国語（広東語）が主流なので漢字を使ったりして何とか通じさせようと努力しました。そうして、最後には、アドレス交換もしたし、つかれたけれどもおもしろかったと思います。それと、最後の日に見送りに来てくれて、プレゼントをもらったのがとてもうれしいです。

いろいろな事があったし、食事の面ではつらいものがありましたが今では、もう一度行く機会があれば行きたいなと思います。

Ⅲ　全行程学校別報告

東　高　校

「物足りない日本」

荒木裕記

最低なことをしてしまいました。外国人と話をする時に、してはならない「愛想笑い。」してはいけないのだ！と思っても態度に出てしまう自分が嫌でたまりませんでした。相手が何を言ってるのかわからないのは、自分の勉強不足のためなのに、相手に対してひがみ根性を持ったりしました。

まず日本へ帰国して、そのことで後悔しました。もっと勉強していたら、「愛想笑い」もしなくてよかったし、談話するにしろもっと楽しくできたかもしれません。そのことが悔しくて悔しくて、帰国したら単語をぜったいに覚えよう！と決心して帰ってきました。

日本はその張りつめた気を、緩めてしまうような、のほほんとした国だったのかと１７年目にして初めて、日本の第一印象を受けました。通りを歩いてても、香港の時のように鋭い視線も受けないし、何も考えずに歩いてたって安全でいられる。確かに住みやすくて良いけれど、何か物足りないなと思いました。多分、パワーみたいな見えない力だと思うのです。毎日の生活のために一生懸命働くのは、どこでも一緒です。けど日本と比べるとその一生懸命さには力を感じます。それがより集まって今、香港を動かしているのだと思います。

いろいろと観て歩いた香港でしたが、学ぶこと、思ったことはこれだけです。そして、全体的には楽しかったです。特に食事の時はびくつきながらも、おもしろがってました。次はどのような食べ物がくるのか、と期待と不安に。

若い時にした経験の感想と、大人になってする経験の感想は違うと思ってます。今はこのような感想だけど、大人になってからの感想は、どのようなものか楽しみが一つ増えました。

「緊張したチップ」

池川こころ

飛行機に乗っている時、飛行機がすごくゆれたので最初きもちわるくなった。だけど、だんだんねむくなったので友達の肩を借りてねていました。台湾に着陸するとまたきもちわるくなるなーと思っていたら台湾が台風で着陸ができなかったのでよかったと思った。

香港に着くとたくさん人がいたのでびっくりした。そしてすごく蒸し暑いのにもびっくりした。ホテルに着いて、ボーイさんにチップをわたすとき初めてだったので緊張した。そしていろいろと香港を見学して、高層ビルがたくさんあったので土地が狭いんだなーと思った。中国ではのどかな風景が広がっていて、中国は広いと思った。中国の中心ぐらいに行ったら違うかもしれないけど、中国と香港は全然ちがうなーと思った。

本当に香港・マカオ・中国に行けてよかったと思った。

「充実した５日間」

松　岡　利　枝

今回の海外研修は、私にとって始めての海外旅行だった。だから、この研修のことは、これから、すばらしい思い出として、ずっと私の中に残ると思う。

私は、この研修で色々なことを感じた。一つは、日本の治安の良さだ。海外へ行って、つくづく感じた。香港で道を歩く時などは、いつも神経が過敏になっていた。日本はいい国だと思う。二つめは、海外の人は日本人のことをどう思っているのかということだ。私はタイガーバームガーデンで「バカな日本人はガイドの連れていく所で買い物をする」という落書きを見つけた。その他にも「バカな日本人ー」という落書きがたくさんあった。そのことは帰ってきてからもずっと気になっていた。香港で友達になったインターアクターの友人に日本人のことを、香港の人はどう思っているか、手紙で聞いてみようと思っている。三つめは、現地のインターアクターはとても明るくて、みんなとてもしっかりしているなぁということだ。自分のたよりなさをとても感じた。他に色々感じたし、刺激も受けた。本当に海外研修に行ってよかったと思う。その中でも、私が一番よかったと思うことは、友達が増えたことだった。他の学校の人達や、現地インターアクトの人達とも、たくさん友達になった。こうやって、私は、この海外研修で、たくさんのものを手に入れたと思う。５日間のとても短い旅だったけれども、一日一日がとても充実していたと思う。

そして、とても楽しかった。

私はこの海外研修の経験を、これからのインターアクトの活動に少しでも役だてたいと思う。

「ツルがとりもつ縁」

有　銘　利　絵

今回の海外研修は楽しいことや、自分にとってとてもいい経験になったことがたくさんありました。でもいやなことが２つありました。一つは乗り物に酔ってその日ずっと体の調子がよくなかったりして友達に迷惑をかけてしまったことです。もう一つは食事のことです。食べるのは好きなのに今回だけは本当に食事の時間がいやでした。香港は夜景がとてもきれいし物だって安いけど食事のことを考えると私は香港には住めないなぁと思いました。今回の旅行で一番興味があったのは、向こうの人との交歓会です。初めて会ったのは施設訪問の時でした。でも私は英語が全然話せないので向こうの人がしゃべってきても、何を言ってるか全然わからないので笑ってごまかしたりしました。この時は本当に英語がしゃべれる人がうらやましいと思いました。結局その日は全然仲よくなれないままおわってしまいました。だから交歓会の時は絶対しゃべろうと思っていたけど、私が座ったテーブルには生徒が私と友達しかいなくてあとはみんな大人の人ばかりでした。いっしょに座っていた先生が、「隣の人にしゃべりかけなさい。」と言ったけど私はしゃべらないで友達がしゃべりかけた。友達はけっこう話してたので、「すごいなぁ。」と感心していました。私の学校の出し物はおりがみでしたが、私の隣に座っていた人がおりがみを気に入って何個もツルをおっていました。でもおり方がまちがっていたので私はおり方を教えてあげました。私は英語が話せないけどいっしょにツルをおってるとき、身ぶりや手ぶりでその人がわかってくれたのですごくうれしかったです。その人とは住所を交換したので、また手紙を書くつもりです。今回の旅行ではたくさん友達もできたし自分にとっていい経験になったので本当に行ってよかったと思いました。

「なつかしい香港料理」

矢 野 涼 子

生まれて初めての海外旅行だった。行ってよかったと思う。

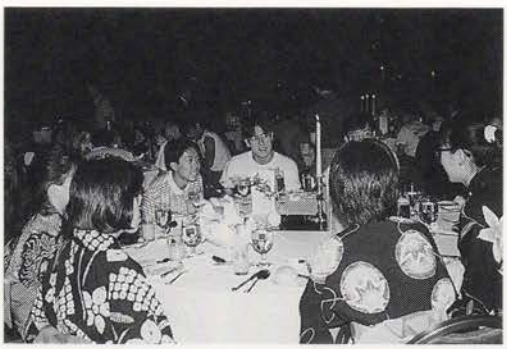
今回の海外研修で、いちばん行ってよかったと思ったのが、友だちが増えたことだ。同じ学校の人とは、今まで以上に仲よくなったし、違う学校の人とも仲よくなった。でも、ホンコンの人とは仲よくならなかった。やっぱり英語が話せないと…。と思った。何を言ってるのか分からないし、話そうとしても、英話がわからない。GOINT DINNERの時、私が座っていたテーブルには、日本人ばかりだった。一人ぐらい来てもいいのに。と思ったけど、来ても話せないなら来なくてもいいか、とも思った。

観光もよかった。タイガーバームガーデンの派手さにはびっくりした。百万ドルの夜景は、すごくきれいだった。感動ものだと思う。もっと夜の市内を見たかった。あのネオンパイプが全部ついたらきれいだろうなーと思った。

最悪なのが、カメラを持っていくのを忘れたことだ。みんなに撮ってもらってばかりだった。

昼食、夕食ずっと中華料理で、どれだけ日本食が食べたいと思ったことか。でも、日本に帰って来て、日本食を食べていると、妙にホンコンの料理が、なつかしく感じる。

もう一度行って、ゆっくり観光したい。



「今回の海外研修について思う事」

顧問 大 西 敏 朗

昨年の年次大会報告書の中に「インターアクトの目的は、奉仕と国際間の理解に貢献するため世界的親交を以て共に活動する機会を青年男女に与えることにある。」と書れている。そしてその様な目的の達成の為に君達インターアクターは日々の活動をおこなっているわけですが、その実践の機会の一つとしてこの海外研修があり、多分この研修に参加したインターアクターは全員、何らかの成果をもって帰国して来ただろうと思う。

今回の研修はアジアに場所をかえ、昨年までのホームスティはなかったが、国際的な商業都市でありイギリス領である香港、カジノという一つのレジャー産業がその都市の経済をささえているポルトガル領のマカオ、序々に変化しつつあるが社会主義経済の町、中国中山県と、ほんの少しづつではあるけれど、それぞれ特色ある国の一側面も見られたのではないかと思います。

また香港でのRI345地区のインターアクターとの共同での社会奉仕や交歓会を通じて、同じ位の年齢でありながら違った社会構造の中で生きている友人との交流で君達は色々な驚きとともに多くの事を学んだに違いない。この事は、きっとむこうのインターアクターにとっても同じ事だろう。この気持や、彼等との関係はこれからも続けていってほしいと思っている。君達がこれから成長していくに従って、この関係も大きく広がっていってほしいと願っている。そういう中にこそ、本当の意味で一つの「国際交流」が育っていくものだと思います。そのスタートともいうべきこの機会を大切にして下さい。

これからの君達に期待して、そしてこの様な機会を作り出すための準備などに御苦労して下さいました飯原委員長ならびに本間先生、春田先生に感謝しまして、一顧問の感想にさせていただきます。

清風学園

「貧しさ感じた中山県」

竹沢修平

僕にとって香港は初めてなので、この旅行を非常に楽しみにしていた。香港というと、英国の領土だがその大半が中国人という所だ。キャセイパシフィック航空に乗ったとき、しばらく日本から離れるんだなあとちょっと不安になったけど、香港に着くとそんな不安は全くなくなった。僕が一番楽しみにまた不安だったマカオ・中国の旅は３日目だった。香港からマカオへ行く時、移民局であんなにめんどうくさいものとは思わなかった。中国は想像以上に貧しく、これも共産圏だからなのかなと思っていた。この何とも言えない中国の暗さは東ドイツとも共通するものがあった。例えば、国境の雰囲気である。中国とマカオの国境で警官が銃を持ってかまえていたり、係員や監視塔にむやみにカメラを向けてはいけないのは、今はなきベルリンの壁でも同じだった。中国の係員も香港の係員よりもこわく感じた。中国へ行って驚いたのは生活の貧しさです。つぶれそうな家の中に人が住んでいたり、日本ではとうてい見ることができない光景ばかりでした。マカオでカジノへ入った高橋君と一緒に回っているとブラックジャックをやっている人がいたので、僕らもやろうなどと言っていましたが時間がなくできなかったのが残念です。

最終日、最後の中華料理の昼食を済ませ空港に到着した時、もう日本に帰るのか、早かったなあと思いました。無事大阪に着いた時ホッとしたが新聞を見て、僕達が乗っていた飛行機が百メートルのニアミスをしたことを聞いてぞっとしました。今まで飛行機は安全だと思っていましたが、僕達のが一秒ずれていたらと思うと非常にこわいです。

こうして５日間の旅が終ったわけですが、中国、香港の貧しい人達を見て、我々インターアクターがしなければならないものが何か分かりました。日本で何不自由なく暮らしている人にとってこういう貧しい光景は信じられないものでした。我々はできる限り、こういう貧しい人たちを助けるべきではないでしょうか。世界人類みな平等の筈だから。

「素顔の香港」

高橋　航

香港の空港に到着して、まず目についたのが海のそばまでせまる滑走路、空港の周りには混然とたつ何棟ものきたない高層アパート。

香港といえば（本などの写真のうえでは、建物や道路など外様しかわからないので）この高層アパートらしきものが街をうめつくしている所という印象があった。まじかにそれを見たときには、本当に感激した。

やはり、訪問国のことや土地のことを知りたいならば、本当にその場に行かなくては、分からないものだと思った。

香港という町は実際に訪れてみて、ひとことでいい表わすとすればちょうど日本の２０年～３０年ぐらい前の街なみだと思った。

最後に、この研修のメイン行事であった“老人ホーム”への訪問のことを書きたいと思う。

まず、第一に初めのうち通じていたと思った英語が実は全くと言ってよいほど通じなかったのである。私の英語もたいしたことはなかったのだが、相手（老人ホームでお世話している人）が英語を話せなかったので、少し残念であった。でも、とっても感動して、終りのころには、本当に涙がでてしまった。

何といってもこれが、香港での最高の想い出である。

―おそらく、一生忘れることはないだろう。

両親や友達に話しまくっている昨今である。

「my first experience」

高橋　航

朝、目が覚めた。さすがに少し疲れていた。しかし、あまり家（大阪）に帰りたいとは思わなかった。なぜなら、今回の旅行が海外は初めての経験であり、さまざまな大変貴重な経験をする旅であったからだ。また「香港」という街も大変気に入った。ホテルの雰囲気、現地ロータリークラブの方々、各高校の先生方、バスガイドさんなど、この旅そのものがとても楽しかったからである。

さて、５日目、私達は日本へ帰国する予定であった。

飛行機の中では眠ることもなく、ずっと考えごとをしていた。それは、香港で星の数ほど見た「ベンツ（乗用車）」のことであった。

―世の中には金持ちがたくさんいる。と同時に人並の生活ができない人も、それ以上に多くいるわけだ。

―世の中というものは、しょせんこのようなものなのだろうか？　これで良いのか？

―バスガイドさんも言っていた。『香港では（日本でもそうだが）すべての人にチャンスがある。人が成功するのも、失敗するのもすべて、その人自身の責任なのである。自分の思考・行動にすべてはかかっているのだ。私共々、より多くのことを学び、常に向上してゆきましょう。』と。（―私は人生の先輩としてこのバスガイドさんに好意を持った。）

―『オレも金持ちになってやる。そして、いつかは、となりに美人の恋人のせて、ベンツに乗ってやるぞ!!』

こう考えてみると、香港に滞在していた時間の何倍もの時間を考えさせられるような、得ることの大変多い、貴重な体験をしたと思っている。これも両親をはじめとする、ロータリークラブの方々、諸先生方などの協力あってのことである。

ぜひこの体験を生かして、今後、幾度となく外国を訪れるべく、立派な国際人になりたいと思うしだいであります。

―“感謝”の一言である。

「"SEEING IS BELIEVING.」

小林三麿

自分の目で物事をしっかり見る事は、大切な事です。今回の研修旅行で、香港のインターアクター、ローターアクター、ロータリアン、そして、町や村でさまざまな人々から、生き方や考え方を知ることが出来た事は、異文化交流をかけがえのないものの一つとする英語教師の私にとって、貴重な体験となり、私の仕事の上にも大いにプラスになったと確信しています。

国際ロータリー266地区 I.A.C 主催の海外研修旅行は、学校教育活動の一環として特に安全に注意しながら、９クラブのアクターに楽しいなかに、いかに国際理解をさせ、国際感覚を錬磨させれば良いかなど、顧問の先生方が互いに頭を悩ませ、工夫をする楽しい旅行でもあります。帰国後、新聞でわれわれB班の搭乗機がニアーミス事故を起こしたこ

とを知り、大惨事をまぬがれ、全員無事に帰国出来た喜びを、改めてしみじみと味わっているこのごろです。

今年は、香港・マカオ・中国（中山県）の３ケ所を訪問し、アクター各自がアジアの国国を自分の目で見、言葉を交わしている中に、忘れていた大切な何かを思い起こしたと確信しています。また、B班がR.I 345 地区のアクター達と共に、彼らの奉仕活動の場の一つであるセント・ジョセフ・セトゥルメント（キリスト教系老人ホーム）を訪れた時の感動は素晴らしく、「喜びを与える事の素晴らしさ」を私達に教えてくれました。また、4日目の夜、R.I 345地区 I.A.Cが主催するジョイント・ディナー（９クラブからI.Aは１７名、R.A とロータリアン８名、計２５名／日本側８６名参加）では、266地区の各クラブが準備したパーフォーマンスが、時間短縮のため全部は出来なかったにもかかわらず、全員がフィナーレに、河内音頭でフィーバーし、時間を忘れて交流会を楽しみました。これは素晴らしい想い出となりました。

今でも、香港のロータリアンの一人が、「グローバルな世界平和は、政治家がつくるのではなく、学生達一人一人が、アジアの、太平洋の、世界の、かけはしとなって築くものだ。」と熱っぽく話されていたのを覚えています。

２１世紀の足音をまじかに聞く現在、国際文化の波が確実に押し寄せて来ております。

ひと夏、わずか５日間の旅の中で、さまざまな国際感覚に芽生えた学生達が、さらに視野を地球社会に広げる努力をしてくれるなら、この波は乗り切れると確信します。さらに、この小さな親善訪問が、アジアの国のインターアクターと人々の心の中に自然に流れ続けてくれることを願ってやみません。

このような素晴らしい研修旅行の機会を与えて戴いた、R.I.D 266ロータリークラブ、提唱ロータリークラブ、関係ロータリアンの方方及び、本年度地区代表校である浪速高等学校インターアクト・クラブ、近畿日本ツーリスト大阪ユーストラベル支店と添乗員の矢野、小林両氏に感謝いたします。

〔 I.A.Cの目標の一つを記しておきます。〕
— 国際理解と全人類にたいする善意を増進するために、個人として、また団体として進むべき道を切り開くこと —

大教大高平野

「香港の思い出」

藤　田　美重子

ホンコン、香りの港を意味する香港。イギリス植民地主義と中国文化が混じりあう香りの島である。この香りとは歴史的にアヘンのにおいを指すという。翼下すれすれに広がる香港の街中へ、高層ビルの間をすりぬけて、私達をのせた飛行機は降りたった。

ホテルに向かうバスの中から見た街のようすは、混沌とした、しかし活気あふれる雑踏の街であった。道路に面して建ち並ぶ高層ビルの壁ははげ落ち、まどからは、ものほし竿が洗濯物をぶら下げて突き出、けばけばしい色の看板の下は、原形をとどめた豚や鳥の肉が雑然とぶら下がり、体裁を考えぬ、旺盛な生活力を感じさせる雰囲気に、私はすっかり圧倒されてしまった。この香港に住む高校生と交流するのだ！私は一種の興奮を覚えた。

施設訪問で通訳してくれた彼らは、友好的ではあったが、初対面のせいかおとなしく、はにかんでいる様子だった。流暢な英語に、私たちの語学力のなさを痛切に感じた。

交流会では彼らもすっかりうちとけ、それぞれに自分の国の紹介や、将来の夢を話しあい、文化も歴史も異なる国で育っても、同じような事を考え、同じような事を夢見ているのだなと思った。

私にとって、最も印象深かったのは、養老院を訪問した事だ。ホーム内は、騒々しい外とはまるで別世界で、驚くほど静かで美しくゆったりとしている。老人達は一人ひとりが非常に尊重され、残された人生を静かに楽しんでいる様子に、私は感銘を受けた。日本で見聞きする養老院のイメージとは段違いの充実した福祉で、高齢化社会を迎える日本にとって、大いに見習うべきだと思った。

垣間見た中山県は、くわをもった人と水牛だけが働く田園風景が延々と続いている。比較的裕福な田舎だとはいえ、土造りの家の中は暗く、非常に質素な生活に感じられた。

マカオは貧富の差が香港より激しく、貧困と汚なさが目立った。

香港、マカオ、中山県を旅して持った印象に共通していえることは、豊かで、何不自由なく暮らしている私達にとって、貧しさが目立ったという事だ。しかし、そこに住む人々の精神は、あたたかさとバイタリティを感じさせてくれた。私達はとかく、貧困をさげすみ、その人々の人間性まで否定してしまいがちだ。でも、私達はインターアクトの活動を通じ、その精神を理解することによって、どのような環境にある人をも尊重し、共に理解しあえると考えている。

一生忘れることのできない、すばらしい旅行に参加できたことを、心から感謝して、援助して下さったロータリークラブの皆様に、お礼申しあげます。ありがとうございました。

「驚きの高層マンション」

森　山　泰　成

この旅行は僕にとって二度目の海外旅行だったわけですが、僕の未知である部分の目をより一層開いてくれたような気がします。

8月１９日に、日本を出発して、香港に到着しました。そこで、僕のまぶたに焼き付けられたのは高層のマンションでした。全く同じ建物のものすごい高さのものがいくつもあったのです。さらにもう一つ驚いたのは上級階層と下級階層の差の大きさです。いまにも落ちそうな、洗たく物でいっぱいの小さなベランダ。そうかと思えば、立派なそれがある。

すごい貧富の差と感じました。

他校の生徒と席を共にし、一緒にすごした夕食ですが、日本でも馴じみのある料理はすんなりと食べられましたが、初めて目にするもので、恐る恐る口にするとなんとも不思議な味のしたのが結構ありました。食事時は、みんなわいわいがやがやとしていたので、楽しく過すことができました。

専用バスで、いろいろと観光しましたが、その中で、僕は中国の中山県とマカオの観光です。香港から船にゆられた1時間した程でマカオに着きました。そこで、国境を越えて中国に渡ったのですが、軍人の冷たい顔が僕の脳裏に焼きついています。そして中国入りし、バスに乗って周りをながめると一面に広大な土地がひろがっている。これを目にした時は、小さな事にこだわるのではなく、もっと大きな事に目を向けるべきだというようなのを感じました。また、マカオにもどって、賭博場を少しのぞいたその情景がやけに心に残っています。

帰国の前日の、現地のインターアクトとの交歓会も印象深いです。自分の下手な英語でもじもじしながら、話していたのを今考えるととても恥しいです。

この旅行を通じて得たものは、とても言葉では表現できない、それくらい何か大切なものを手に入れることができたと実感しています。

「気に入った飲茶と四川料理」

山崎優子

去る8月19日、私達インターアクターとロータリアンの方々は一路香港へと出発した。私がそれまで頭に描いていた香港のイメージとは『フリーポートでヴィトンやシャネル、エルメスにカルチェなど、欧米ブランドのあふれる街、しかし、裏では犯罪が多く、日本人も多数、被害にあっている』というような感じであった。でも実際、香港の街を歩いてみると、あまり日本と変わらないような気がした。私が気付いた、日本と香港の異なる点の一つに、やたらと貧富の差が大きいということがある。バスの中から見た、大金持ちの家には、ベンツやロールスロイス、BMWが何台も止めてあったり、すごい家に住んだりしていたが、街中の建て物を見てみると、今にもくずれ落ちそうな物が半分以上であったように思われる。共通点はといえば、土地の値段が高いということが上げられるだろうか。

ところで、最後の交歓会の晩と朝食以外はいつも中華料理であったが、私が最も気に入ったのは飲茶と四川料理である。他はけっこうイマイチだった。でも、お茶がすごくおいしくて、何杯もおかわりした。

交歓会では、私達と同じテーブルに座ったエリックとジャクソンという二人の現地インターアクターとともに、大変楽しい時間を過ごした。二人とも私よりはるかに英語が上手で、自分の英語力の無さをしみじみと実感させられた。彼らとはお互いにアドレスを交換し、手紙を書く事を約束したが、帰国してからの忙しさにかまけて、まだ書いていない。

とにかく、海外研修に参加して、自分が得たことは、とても一言では表せないほどたくさんあるが、貴重な体験（帰りのキャセイのニアミスも含め）をさせてもらって、大変感謝している。

「研修5日間の想い出」

中野恭秀

5日間を通じて、もっとも印象に残ったのは…。言わずと知れたこと、誰もが「飯！」と叫ぶであろう。壮絶だった。凄まじかった。ほとんど修羅場であった。「食の香港」もへチマもあったもんじゃない。いったいどこらへんが「食の香港」なのか。店の選択が悪かったのだろうか。そう考えるとしかし、四川料理だけはおいしかった。それまでがそれまでだっただけに、麻婆豆腐に感激した人はかなり多いと思う。文句ばかり言うつもりはないが、でも中山県の昼食だけはたまらなかった。あの「三好」とかいうだいだい色のジュース。あんなもの無料でもつり合わない。今となってはよい想い出なのだが…。

さて、現地インターアクトとの交歓だが、かなり成功したと思う。友達がたくさんできた人も多いはずだ。日本などどこへ行っても嫌われ者だと思っていたのに、現地の子はみんなvery nice countryと言ってくれた。正直うれしかった。だから、我々266地区全員がもっと積極的に友好を深めたら、もっとよかったのにと残念に思う。いい子ぶる気はさらさらないが、せっかく香港まできたのだから、penpalの一人もつくったほうが絶対いいし、それに英語の勉強にもなると思うのだ。少なくても僕にとっては、実りある旅行であった。いきたかったタイガーバームガーデンにもいけた。そういえば、ガイドがやたら自慢していた「百万$の夜景」とは、なんだったのだろう。ただの景色や、あれは。

最後に、茶だけはやたらおいしかった。中山県で、ハエがたかるなか、「三好」をながめつつ半泣きになって、バナナらしき物（マンゴという説もあった）をかじってた人達も、茶だけは味方のように感じたのではないだろうか。

波乱に満ちていたが、すごく充実した旅であったと感じている。

四天王寺学園

「標示2度読み」の楽しみ

渡辺瑞穂

移動のためによくバスに乗った。内装には別に興味が無かったが、窓の外にうつる景色に興味をそそられた。まず景色が日本よりも速く動く。どういうことかというと、車のスピードが速いのだ。道路の幅が日本と同じぐらいのくせに時速７０㎞。それも土地が少ないせいか、曲線道路が多い。曲がり角も別にスピードを落としもせずビュンといく。最初は気が気ではなかったが、慣れると気分は爽快。

さて、バスの速度に気をとられることのなくなった私は次は道路標示に目がいった。上に「譲」下には「give」とかいてある。全てのことが漢字と英語で標示してあった。つまり、日本人、中国人など、漢字を知っている人は、２倍の楽しみになるのだ。なんだか得をした気分でいた。他の人ができないこと、楽しめないことである『標示２度読み』ができる日本人に生まれてよかった、と思った。英語だけでも読めたら、上の漢字の意味はだいたい見当がつくし－。

ただ、漢字の方は見たこともない文字で、たのみのつなである英単語の方も、知らないものであった場合は、２倍の腹立ちを味わわなければならない。

「思い出の14回目の夏」

南　優子

わたしの、１４回目の夏は、すごく思い出になることがたくさんできました。

生れて初めて飛行機に乗ったこと、海外に行ったこと、現地の人と英語で話したこと、おじいさんやおばあさんに、おり紙でつるを教えたこと、本場中国の料理を食べたこと、ここには、書ききれないほどのことが、香港での４日間の滞在の中にありました。

その中でも、一番印象的だったのは、なんといっても、老人ホームに行った時のことです。

はじめは、つるを教えても、みんな聞いてくれるか心配だったけど、少しでも自分でおろうと、いっしょうけんめいになって、できあがった時のうれしそうな様子を見ているとゆかたを着て、暑い思いもしたけれど、老人ホームに来てよかったなあと思い、家にいるおばあちゃんにも、やさしくしないといけないなあと思いました。

それから、最後に一つ、水上レストランから見た夜景や、山の上から見た百万ドルの夜景などは、大阪のどの夜景よりも美しく、ただおどろくばかりでした。

はじめのうちは、料理などにもなれず、いやなことや、困ったこともあったけど、今、思うと、なにもかもがよい体験に思え、香港に行って、ほんとうによかったと、思います。

「つらかった中華料理」

瀬戸　里絵子

今回香港の海外研修に参加させていただき、たくさんのことを学びました。また驚くべきこともたくさんありました。

香港についてまず一番に驚いたことはやはり建築物のほとんどが３０階以上もあるということです。日本の様に一軒家はほとんどなくたいていの人がマンション住まいでした。また町の方に出てみると大変日本の街並と似ていました。走っている車もほとんど日本車なのには驚きました。

一番つらかったのは、やっぱり毎日の中華料理でした。初めのころはいろんな種類のものがたべれてとてもよかったのですが、中華料理は油が多く使われているので、だいぶ日本料理が恋しかったです。日本では中華料理でも日本料理でもフランス料理でもいろんな国のものを食べることができます。それで日本は食料が豊かだと実感しました。

２日目に養老院を訪問したのが今回の旅行で一番深く心に残りました。折り紙を教えてあげている時、言葉は通じないけれども大変楽しかったです。でもそんな時やっぱり英語が話せるともっと楽しかったかと思うと今度の海外研修までにもっと勉強してがんばろうと思いました。

今回の海外研修に参加させてもらって本当に勉強になりました。ちがう文化の中で４泊５日本当に楽しい時を過すことができてよかったです。この思い出は一生心に残ると思います。

「理解深めた研修旅行」

田 中 智 子

私は、今年初めて海外研修に参加させていただきました。

出発するまでは、希望のようなものと不安のようなものが心の中でまじって複雑な気分でした。

香港につきました。バスガイドさんも町の中を歩いている人も、みんな日本人とそんなにかわらない顔をしているので、あまり実感がありませんでしたが、頭の中で自分のいる場所を考えてみると、なんだか私ってすごい所にいるんだなと思い、驚きました。

私はもっと香港という所は、イギリスの影響を大きく受けていると思っていましたが、そうでもなく、もっと大きな所かと思っていましたが、そうでもなく、他にいろいろと香

港について勘違いしていた部分が多くありました。香港についての知識がまったくなかったことに私は、はずかしく思いました。

この海外研修で一番よかったことは、施設を訪問の時に、盆おどりをしたこと、折り紙を教えてあげたことに、おじいちゃんやおばあちゃんに、たいへん喜こんでいただけたことです。

しかし、残念なことがありました。それは現地のインターアクトの人たちと、ほとんど話ができなかったことです。かたことでも英語を話せて何か通じたらいいだろうなぁと思っていたのに…。これからは、もっと積極的になろうと思いました。また今度、同じ後悔をしないために、いろいろな人と友達になるために、がんばりたいと思います。

私は、行く前に、イギリス領の時の香港に今年行って、また、中国に返還された時に、もう一度、行ってみたいと思います。その時香港がどのように変化しているか、今から、とても楽しみです。

他に、心に残ったこと、考えたこと、思ったこと、たくさんありました。

最後になりましたが、4泊5日で私に、一生忘れられない思い出をつくって下さった皆様、本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

「とにかく大胆」

松 下 佳 代

機内にいる時間が短かく、時差が1時間だけということもあってか香港に着いてもなんだか日本にいるような気がしてなかなか実感が湧きませんでした。夕食を食べに行くためバスで香港の街を通っているころ、日本とは違う街並みにやっと少し香港にいるんだという実感が湧き始めました。

私が香港で驚いた事はたくさんありますが中でも日本との住居の違いに驚きました。それは香港では一軒屋がほとんどないということです。土地が狭く人口が多いためマンションは上へ上へと伸びているそうです。そんな住宅地をバスで走っていると生活の差が一目瞭然です。低所得者の住宅はベランダもなく窓からさおを突き出して洗濯物を干していますが家賃の高いところだと1階には駐車場もありベランダもついています。

また、山の上は空気が良く、夜景が美しいせいもあってか医者や社長など金持ちの住まいが多いそうです。

また、大胆な中華料理にも驚きました。香港では「北京料理」「海鮮料理」「四川料理」「上海料理」などいろいろな中華料理を食べさせてもらいましたが、量の多さはもちろんのこと、ボーイさんのスープやお茶の入れ方

には驚きました。テーブルクロスは汚さなければならないかの様にスープはあふれさせ、お茶はこぼし、とにかく大胆。食べ始めるころからテーブルクロスにはシミが。始めのころはビックリしていた私も帰るころにはすっかりなじんでいました。お料理はもちろんのことお茶もとってもおいしかったです。

香港の美しい夜景にも感動しました。山の上から見た百万ドルの夜景は格別の美しさだし、ホテルの部屋から見える夜景もまた美しかったです。帰国する日の前夜、その夜景を見ていると、香港を発たなければならないさみしさで一杯になりました。

普通では出来ない体験などもさせてもらい研修旅行に参加できて本当に良かったと思います。また今度、高校生になったら是非参加させてもらいたいです。

「驚きの水上レストラン」

樋 上 雅 美

香港と日本とでは、一見よく似ているようだけど、全然違うところも結構たくさんあります。そのうちの一つが食事です。中華料理は次から次へと、種類の違う料理が出されます。こってりとした、変わった味なので、慣れないうちはのどを通りませんでした。日本にもあるような食べ物も少しはありますが、味付けが中国風で、昼も夜も食べているうちにもうあきてしまい、和食が恋しくなりました。

ところで、香港では料理の他に食べる時の環境にも工夫がされているように思います。特に水上レストランには驚きました。夜になるとさまざまな色の電気がつき、とても明るくなります。それは中も同じで、いつもにぎやかな中華料理店にはぴったりだと思いました。このレストランに限らず、他でも明るく、そしてにぎやかです。活気があっていい所だな、と思います。

私が海外へ出たのはこれが初めてで、外国のことはあまりよく分からないけれど、最初に行った所が香港でよかったような気がします。日本とよく似た国、香港。スリが多いと言われていたし、英語も全然できないから、と不安に思っていた日々がうそのように晴れ晴れした気分です。買い物をするにも、向こうの人は笑顔で応対してくれました。それがすごく印象的でうれしくなったりもしました。この5日間、見るもの、聞くものがみんな初めてで、本当に貴重な体験ができたと思っています。これからは、この体験を生かし、よりよきインターアクト部員となれるよう心がけたいです。

「百聞は一見にしかず」

藤 浪 菜穂子

今回の海外研修に参加したことで、何か学べたような気がします。見るもの、聞くものすべて驚くことばかりで、同じアジアでもこんなに違うものだなぁと思いました。

一番印象的だったのは、日本との生活の違いです。住むところからして、香港には一戸建ての家が少ないというのに驚きました。写真などを見ると、高い建物が立ち並んでいていますが、何も知らない私は、東京と似たようなもので会社等のビルがたくさん建っているのだと思っていました。だから、ほとんどが住宅と知って本当に驚きました。あと、お弁当の習慣がないことなんかもびっくりしました。

中国の中山県へ行った時、自転車が人々のあし代わりでしたが、その自転車が日本では

もう使われていないような何年も前のものでした。ガイドさんのお話では、日本より１０年、２０年も遅れているところがあるそうです。日本を出て、海をわたったところの土地では１０年ないし２０年も遅れている所があるのだということを実感しました。耳で聞いて知ってはいても、やはり自分の目で見てみると、何かこみあげてくるものがありました。私は今、不自由なく、暮らしています。テレビだって何だってあります。今のような生活が当り前と思っている今日、こういうところで生活するのは難しいだろうと思います。道路もきれいに整備されているし、改めて日本という国の有りがたさを知りました。

海外研修に参加することができて、本当に良かったと思っています。学びとったことをこれから生かしていかねばならないと思います。

「海外研修に参加して」

顧問　岡　　宏治

“国際交流と社会奉仕”をテーマにもって本年度の海外研修、香港・中国の旅が初まり初期の目的をインターアクトの生徒、顧問、ロータリーの先生方、全員が達成出来たのではないかと確信します。

現地香港インターと共に行動した、老人ホームでの、折り紙や盆おどりによって、なごやかな雰囲気で社会奉仕が出来たことが、言葉が通じなくても、相手の気持ちが、理解出来たのではなかったか。これから世界的に、高齢化社会に向かい、心通じる老人福祉が大切だと痛感しました。

最後のインターアクトの交歓会においては、現地ロータリーの先生の言葉の中に、自然環境の保護、環境破壊の問題、地球の温暖化現象について積極的に取り組む姿勢はまさに日本のみならず世界の課題であり、我々日常生活でどう取り組んでいかなければいけないか、考えさせられることである。また、日本人で現地ロータリーの会長先生の挨拶の中に、生きた外国語教育、いや何事においても真剣に取り組めば、言葉が通じることである。国際交流において、積極的に相手国の言葉を話すことが、少しでも交流の輪が広がると思いました。生徒も一生懸命、辞書を引きながら交流していたことが印象的でした。

雑感として、香港といえば、華やかさ、貧しさが入りまじり、自由貿易国としての英国支配が強いものだと思っていましたが、中国人、華僑の海外進出の魂が活気みちあふれた香港の町にあるのではないか、なお、1997年に中国に返還される時、現地生活人の思いはどうだろうか、と思いながら、香港の夜景を思いうかべました。

最後に本当に企画・計画された浪速高校各先生、ロータリーの先生にお礼申し上げます。

大阪桐蔭高校

「喜びの住所交換」

織　畠　淳　也

この海外研修旅行に行く２ケ月前から事前教育研修会が始まりました。まだまだ日数があると思っていたのに「アッ」というまにその日が来てしまった。

初の海外とあって期待感と、飛行機・船・バスなどに酔わないかな、などと思いながらの出発だった。結果としては最悪の事態におちいらなかったのでよかった。

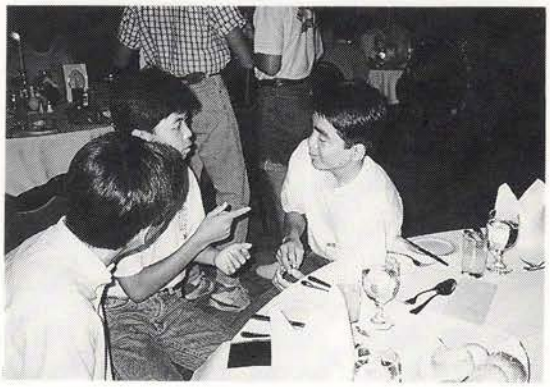
この４泊５日のインターアクト海外研修中で一番の思い出といえば、老人ホーム訪問で香港のインターアクターと交流出来たことだろう。以前から外国の人と友達になりたい、ペンフレンドが欲しいと思っていたことが実現し、住所交換が出来た。

ただ一つ気になったことと言えば、1997年に香港が中国に返還される、このことが香港のインターアクターはとてもこわいと言っていたことだ。この時には、「そうだろうな」ぐらいにしか思わなかったが、ホテルへ帰って落ち着いて考えてみると、「そうだろうな」では済まされないと思った。なぜなら今支配している英国は資本主義で、中国は社会主義、その違いはとても大きい。それに香港に軍隊はないが、中国は徴兵制で天安門事件のような出来事も起っており、どうなるんだろうと思う。このようなことのため現在香港を捨て別の国へ行く人も多いらしい。

当初、香港というと何といってもネオン街というのが頭にあったが、一番驚いたのは一つの建物の高いこと。日本でいう超高層ビルという建物に一般の住人が生活している。地震がないので可能らしいが、消防車なんてとうていとどきそうもない。そして次に驚いたのは貧富の差の激しさで、日本なんかまだ平等に近いと思わずにはいられないくらいだ。

そして学校で習っている文法英語では、何時までたっても島国日本、孤島日本になりそうなくらいむこうのインターアクターの英語は上手かった。

表面からだけだけれども、日本以外の国のことを知り大変有意義な研修旅行だったと思う。僕はこのクラブに入った時から海外研修に行きたいと思い、今回それは果たされたわけだが、今度は、また行きたい、日本のことさえあまり知らないのに今まで以上に外国へ行ってみたいと思っている。



「国　境」

田　中　善　之

僕が、海外研修に行くまえ、“外国”という全く未知の場所への不安と期待に、気持ちが高揚していた。香港の僕の中での印象は、僕をそうさせるものが多くあったからだ。

現地に着いた日は、到着早々ものすごい猛暑で、これから先のことが思いやられた。その後数々の名所をめぐり、様々な、日本の文化とは違った、すばらしいものに感動した。中でも、僕が、一番今回の研修で、気になって、興味を持っていたことは、国境を越えるということだった。今まで、島国で生まれ育った僕には、すごいことに感じられた。日本・香港・マカオ・中国を渡たるたびに、国から国へ入国するときの、事態の重要さ、厳しさなどを直接感じることができた。そして「何故、こんなに厳しく取り締まるのだろうか。国を出入するということは、何なのだろうか。」と考えさせられた。

帰国後、家族や友達に、初めての海外研修の話しをした。日本とちがった様々な文化・

社会とについて、多くの人に知ってもらいたかったこと、考えさせられたことなどを話している間に、５日間のことが頭にうかんだ。研修前に、抱いていた不安は、思い過ごしにすぎなくて、少し英語を話したことなど良い思い出しか残っていなかったことに気が付いた。今回の研修は、僕にとって、様々な見方を養なえたよい機会だと思う。一廻り人間として大きくなったような気がする。

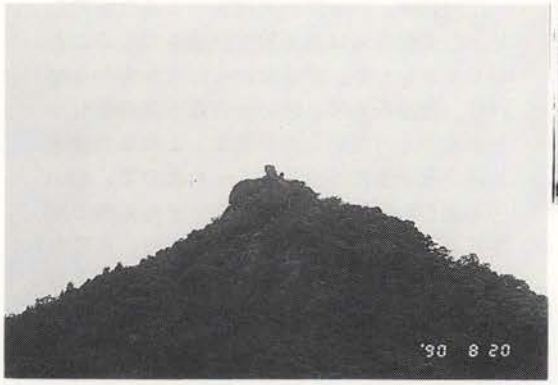
「とにかく緊張」

長 谷 光 展

生れて初めて、飛行機に乗った。しかし席が、わからない。スチューワデスに、チケットをみせると、英語で「あっちに席はあります。」 といわれたような感じがして、その方向にいった。緊張が、高まるのがわかった。

席に着いてしばらくすると、飛行機が、動きだした。そして、突然加速した。すぐ僕は、宙に浮いている感じがした。斜め４５度に傾むいているのが実感できた。

しばらくして外を見ると、神戸の町が、見えた。上から見下ろした景色は、地図を見ているようでとてもきれいだった。



機内食が、配られた。「肉？。魚？。」とスチューワデスに聞かれた。「さかな。」と答えた。初めて食べる機内食は、おいしかったのかまずかったのか、緊張で味わう余裕はなく、とにかくのどが乾いて、水が欲しくなった。「Water, please？」「は？ ああ水ね。」 自分の英語が、通じなかったことに、僕は、とても恥しい思いで一杯だった。

香港について、印象に残ったのは、まず食事です。とてつもなく多い量。（もったいないなあ）と思いつつ残してしまうという食事が、続いた。あと焼き飯と焼きソバがどれも同じ味がしたが、これが、本場の味かと思うと、僕達の味覚はくるっているのだろうか。

あと国境というものに、考えさせられた。ものものしいフェンス。見はり小屋、巡回ヘリ。４日目の香港・マカオ・中国国境は、島国日本では感じられない大陸の、国境を感じることができた。

貧富の差が歴然とでていたり、水道水は飲めなかったり、空港警察がいたり、日本では考えられないことを数多く体験した。

日本が、豊かな国であるということを、ひしひしと感じた研修だった。

「サバイバル国境を越えて」

川 口 哲 男

香港に行って、まず最初に驚いたことは、噂で高層ビルが多いとは聞いていたけど香港市内全域におよんで高層ビルが立ち並んでいたことです。

ところで第１日目のキャセィ航空の565便で香港に向かいましたが、僕はこの機内での僕の英語が通じるのだろうかと不安でいっぱいでした。ところが第４日目の香港のインターアクターとの交歓会では、自分が思ってい

たより英語は通じました。このとき文法にこだわっても通じないなぁと痛感しました。そして第２日目はタイガーバームガーデン・施設訪問など、ややハードでしたが印象に残っているのは、タイガーバームガーデンの華やかさ、百万ドルの夜景の美しさ、特に養老院での人々が立派に生きぬいているということに感銘を受けました。そして３日目の中国・マカオ訪問で特に印象に残っているのは静かで田園地帯があざやかに広がっている中国です。まだまだ未開発だなぁと思ったけど僕は民主化の波が押し寄せている現中国では、将来、香港みたいに発展するだろうと思いました。で、４日目は新界地区を訪問し、余りにも貧富の差がはっきりしているのを見て、何とかしてその差をうめることはできないのかと思いました。改めて日本のありがたさを感じたりしました。そしてその夜の交歓会で和やかに行えたのは、僕にとっていい思い出になると思う。

最後に、この海外研修を参加して決意したことは、この経験を生かして国際化時代になっている現代で世界に羽ばたく優秀な人物になれるよう今後努力していきたいと思いました。ところで、なぜこの題をつけたというと、まず第一に「国境を越える」ということの難かしさに痛感したからです。そして第二に「国境を越えること」は、最悪の場合、ある事件（例えば天安門事件・中東危機）に巻き込まれたりすると帰国できないこともある。そうなると生死にも関連してくることもある。ということで「サバイバル」と付けたのですが、国境の枠がとれ、地球を一つの国として人類が共存できる２１世紀は、僕達にとってサバイバルな時代であってほしくないと思います。

「民家を見たい」

鈴　木　智　也

この研修で、やりたかったこと、楽しみにしていたことが二つありました。

その一つは、中国の見学でした。中国は共産主義国なので、マカオから中国に入らなければいけないということでわかるように、資本主義とのギャップを見たかったのです。実際のところもやはり、かなり違っていました。例えば、マカオとか香港では、高いビルがいくつも数えきれないほどありましたが、国境を越え中国に入ると、もう数えるほどしかビルがなく、あとは田んぼや畑、民家などがたちならんでいるだけでした。これは、単に貧しいとか豊かだという問題ではなく、20世紀の同じ地球上にこれほど違う国があることに、戸惑いを感じました。ただぼくは、普通の民家に行きたかったけれど、団体行動ということもあって、そういったところには行けませんでした。だから今度いつか中国に行くことがあったら、そんなごく普通の民家に訪問してみたいなぁと思っています。

二つ目は、いっぱい友達をつくることでした。行く前からはある程度友達をつくることができましたが、話せなかった人も多かったので、香港の地で、思い出となる友達をもっと多くつくりたかったのです。これは目標通り良い友達をたくさんつくられたので、たいへん楽しい研修になりました。また他校の先生方とも色々な話をする機会もあり、とても勉強になりました。出来ることならまたこうした研修に参加したいと思っています。

「国境を越えて」

和　田　真　一

この香港への海外研修は、僕にとってとても貴重な経験になりました。それまで飛行機にも乗ったことがないぐらいだったので、不安と希望が入り混じって、言葉では言い表わせない複雑な気持ちでした。

この５日間で特に心に残ったことは、３日目のマカオと中国の中山県への観光です。朝７時頃にホテルを出発し、港までバスで行きました。そしてすぐに船に乗れると考えていました。ところが出国手続をしなければなりませんでした。船で１時間ぐらいのすぐ近くの半島に行くだけで出入国手続をするという日本では考えられない体験をし、国境の重要さを感じました。

マカオから中国へ入国する時は、時計とカメラを申告させられました。中国の国内での販売を禁止するためだそうです。日本国内ではカメラや時計は余るほどあり、今では「使い捨て」まであるのに、中国ではよほど高価なものなのだなあと思いました。

また、マカオから中国は陸続きですぐそこに見えています。それなのに金網が張ってあり、見張りの人が立っていました。日本では見ることができない光景に驚き、そしてまた、国境の重要さを再認識させられました。

これまで書いてきたように１日に２つの国境を越えましたが、本当に国境なんて必要なんだろうかと考えさせられました。世界中どこの国でもパスポートなしで行くことができる世の中が来て欲しい、いや、そういう世の中を作っていかなければならないと思いました。

国境１つをとっても、いろいろ考えさせられることがあり、とても勉強になりました。僕はこのような素晴らしいチャンスを与えて下さったすべての方々に感謝しています。

「外国が見える」

小　畑　竹　司

海外は初めてだ。なので香港ももちろん初めて。初めての香港について、バスの中から見た景色は、確かに日本より派手で、ビルは高く、少々よごれた町のように見えたが、歩いている人は、日本人と同じように見えるし、実際日本人がたくさん混っているようだった。

しかし、バスを降りてみると、いくら日本人が多く、日本語がわかるといっても商売人ぐらいで、やはり当然日本語は話してない、顔も日本人によく似ているが、視線がどこかちがう。そんな中で一番ここは日本でなく香港だと感じたのは食事の時、あまりにも味がちがう、おいしい、まずい、といったものは万国共通だと思っていたが違っていたようだ。とにかくここは油ぽく味のうすいのがいいらしい。（マーボ豆腐は激辛、また料理によってもちがうらしいが。）

マカオ、ここは、香港よりまだ発展途上といった感じの国。道路は、公道サーキットがあるが、他はあまり整備できていないようだ。町もゴミゴミしていてせまい。

中国、ここは、まったく香港とマカオはがらりと感じがちがう。とにかくのんびりとした感じ。車もマカオから来た観光バスか、開発中の町へ送る材料を乗せているトラックぐらいのものであまり車が走っていない。

それでも観光にくるくらいの町だからほかの場所よりはましなのだろう。

こうした僕が感じた意見は、日本に来る外人が、日本人はやたらとおじぎをする。日本人はやたらとタンを吐く。といった程度のものにすぎないが、（事実日本人は一般的に、

やはりやたらとおじぎをし、よくタンを吐くようだ。）

やはり自分の国と外国とを比較することによって、たった5日間でも外国が見えてくると思う。小さなことでも、研修を通して、自国の文化、慣習を知ることができたことは意義深いと思った。

「独自の雰囲気」

陞　行庸

交通機関や情報網の発達などで、国際間が縮まり、親密なものになってきていると最近巷でよく聞くようになった。しかし、そのような事を言っても、やはりどんな国にもそれぞれ独自の雰囲気を持っていることを今回の香港、マカオ、中国中山県への海外研修によって痛感した。

初日から飛行機で嫌というほど揺らされて、くたびれた体で香港の空港を出てみると、とてつもない熱気で、知らない国の文化を学ぶことより、体がもつかどうかが心配だった。

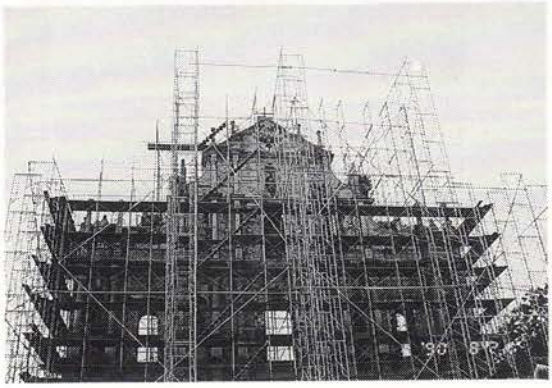
2日目には施設訪問のときに現地の人と英語で話す機会があったが、片言だけの英語で何とか「会話」という形のものにすることができた。彼らの活力的な行動や積極的に話しかけてくる態度は、島国に住む私達日本人に欠けていると思える部分で、彼らが話しかけてくるまで日本人同士でかたまっていた自分達が恥ずかしく思えた。もっとも島国根性こそが日本独自の文化とも言えるだろうが。

3日目に行った中国は、日本や香港とは似ても似つかぬほどの田舎ぶりで、のんびりとした雰囲気が漂っていた。遠くまで延々と続く田園風景は、今の日本ではなかなか見られないものだろう。

現在中国の主要道路や新開地区では、道路の開発が行なわれているが、その様子をバスの中から見たとき、もしかすると第2次大戦後何年かした日本で私達の祖父母が日本を豊かにしようと汗を流して頑張っていた頃に似ているのでは、と勝手な想像をし、感動した。

4日目、再び現地の学生と交歓会を開いた。国や言葉の隔たりも関係なく、皆が同じ世代の若者として話すことができたのは、大変な収穫だったと思う。また友人もたくさんつくることができた。

これまで述べてきたように、今回の研修は、他国の文化をじかに肌で触れる機会を得、そのことによって自分の国を見直すことができたことに最大の意義があったと思う。



「自分の価値感向上」

田中淳友

香港へ行くまで、香港とは、高層ビルがたくさんあるということぐらいしか知らなくてどういう所かほとんど知らなかったので、とても驚いたことがたくさんあった。例えば、車など売っている物はほとんど日本製だったし、テレビを見ても、日本で放送されていたものが多かった。又、帰りの空港でマシンガンを持った軍人が警備していたのは、国の違いを感じずにはいられなかった。

ところで、1日目は、『日本ではない所へ来たんだ』ということを感じたのと、香港での初めの食事をしてあまり食べれなかったということだけで少々物足りなかった。しかし2日目からは、タイガーバームガーデンや、新界地区へ見学しに行ったりして、いろんなことを経験しました。その中でも強く心に残ったのは、施設訪問とマカオ・中山県へ行ったことと、現地のインターアクターと交歓会をしたことです。施設訪問で訪ずれた養老院では、初めて教会へ入ってお祈りをして、お

婆さんやお爺さんたちに鶴の折り方を教えてあげたりして、言葉では通じ合うことはできませんでしたが、何故か気持ちがすっきりしました。マカオと中国の中山県については、マカオは香港と雰囲気的に変わりませんでしたが、中国に入国すると、『これが社会主義の雰囲気か』とすぐに感じました。自動車も少なくて、牛が歩いているし、田畑ばかりで日本と比べて、あまりに開発が遅れていると思いました。今後は、広い国土をいかして自然を残しながらも、開発していけばよいのではないかと思いました。

海外研修は、初めての体験が数多くあり、自分の価値感をとても高めることができたという気がする。高校生の今頃の時期に行ったからこれだけの価値ある研修になったのかもしれないけれど、大学生になってもこれだけのすばらしい研修に行けるように、今日からまた努力していきたいと思っています。

「海外研修」

顧問　**仲　谷　浩　一**

本年度 I.A.C 海外研修の顧問として香港、マカオ、中国（中山県）へ旅立った。上空数千メートルから、香港の高層ビルが雲間から顔を出したのを眺め、いよいよ異国に着いたのだという気持ちで胸は高なる。4泊5日と短い期間だが、生徒達にとって一生の思い出となるすばらしい研修になってくれることを切に願っていた。

結果は大成功であったといえよう。研修後、生徒に感想を聞いたところ、全員が「参加して良かった」と言ってくれた。

香港での養老院訪問、そして現地のアクターとの交歓会では、言葉の壁に阻まれながらも、熱意と誠意で意志を疎通し合えることができたようだ。又、三カ国を訪問し、他国の文化、社会に触れることによって、それぞれの国の価値を認め理解していこうとする姿勢を持ったであろう。それに、国境というものの存在を改めて認識し、考えを深められたといえる。

ただ、専ら観光はバスでの移動が中心となり、生活圏の風土や生活者の日常に触れることが、多少拒まれたと考えられる。バスは外界から遮断されている。更に、ご丁寧に外の光線をやわらげるため着色さえ施してある。自然の色を直に眺めることも、まして香りなど望むこともできない。だが、現地は治安があまりよくない。それに限られた期間に各高校が集まって活動する団体旅行である。このことを十分考慮し理解しなければならない。

将来、生徒達がこの機会で体験し学んだことを糧として立派な国際人、社会奉仕者として活躍してくれることを期待している。最後に、今回の研修旅行に際し中心となってお世話下さった先生方に深く感謝致します。

「海外研修を終えて」

顧問　**平　岡　伸一郎**

今年度海外研修は、8月19日から23日の日程で実施された。昨年までのハワイから「アジアに目を向けよ」ということで、研修地を香港・中国（中山県）に選んでの実施となった。生徒は当然であるが、顧問としても初めての場所であったため、行く前は随分、心配をしたものである。しかし、顧問の心配をよそに、生徒達は貴重な体験を土産に全員無事に大阪に帰ってこれたことに引率者として胸をなでおろしている。

今回香港を中心として、観光地もあちこち回ったが、生徒が強い印象を持ったことに触れたいと思う。やはり一番好評だったのが、

現地インターアクターとの交流であった。十分とは言えない英語で緊張しながらも、必死になってコミュニケーションをとろうとしている生徒を見てとてもほほえましく思ったが、２１世紀を背負って立つ同世代の若者が国境を越えて集っているのだとも思うとたくましくもあった。互いに住所を交換し、「今度は大阪に来い」などと話していたが、こうした交流が地球規模で拡がり、国際理解の目標が達成できることを願っている。

次に「国境とは」という疑問を持った生徒が多かったように思う。海に囲まれた島国・日本では、国境は海上にあり、「これが国境だ」とは、なかなか認識できない。ところが大陸の国では、大きく長い壁があったり、不法入国の取り締りが厳しかったりと、国と国とは見える壁で隔てられている。今回の香港・マカオ・中国の往復において、何度もパスポートを出し入れする中で、生徒は、日本での生活の便利さ、ひいては平和さえも認識できたように思う。このことは、教育に携わる者として、一番の成果であったと考えている。

この他にも、生徒個々に、貴重な経験を持ち返っていると思う。今、楽しかった研修を思い出に、毎日勉学に精を出しているわけだが、今回の研修の成果を忘れることなく、真の国際人として社会に羽ばたいていってもらいたいと願っている。

今年度の研修は無事終えることができたのも、ＲＣをはじめ各関係者の皆様のおかげと感謝している。特に幹事校の浪速高校の皆様には心からお礼を申し上げたい。
本年度研修において、いくつかの反省点もあったように思うが、ＲＣの皆様にも御一考頂き、インターアクター・顧問とともに来年度の研修に向けて準備していきたいと考えている。

金光八尾高校

「有意義な５日間」

鈴　木　健　司

４泊５日は目まぐるしい中で、あっという間の出来事であった。

海外旅行へ行ったことのない僕は、国際問題に関して全くの「井の中の蛙」である。海外研修という大きな海への船出に僕は大きな期待と小さな不安を胸に抱いていた。当然パスポートなど持っているはずがなく、始めてパスポートを手にした時は国際人の仲間入りをしたようで照れ臭かったが、顔写真の自分はとても不機嫌で間違っても奉仕の理想という顔ではなかった。小学校１年の頃、大阪、北海道間を飛行機で飛んだが、プラモデルをもらったことぐらいしか記憶には無い。海外研修で唯一、嫌なことと言えば飛行機である。巨大な物体が空を飛ぶという不思議で、奇怪な恐怖と戦うために僕はすぐに寝た。

「香港」、香りの港とはなかなかキレイな国名だと思った。しかし胃の中を、かき乱す中華料理と免税店での香水の匂いだけが、僕の鼻を敏感に動かした。香港の街では、建物の高さには驚かされた。家賃も結構高いらしくまさに雲の上の生活だと思う。

現地インターアクトとの交流はとても楽しく、時間が過ぎるのが早く感じた。片言の英語で、コミニケーションがとれるかどうか心配ではあったが、かえってそのほうが耳を澄まして相手を理解しようとしたので、現地インターアクトとも友達になれたのではないかと思う。住所録の交換や、写真撮影など、とても楽しい時間を過すことができ、最高に良かった。本当に良い思い出になったと思う。

研修ではなく、観光として終ってしまったような気もする。きっと７年後の香港も僕の目にはまったく同じに見えてしまうと思う。それが少し残念だ。もっと色々なことを学びたかった。でも、充実したなかなか有意義な５日間だったと思う。

「ホテルでの会話」

奈良　勉

自分がこの研修に参加して、多くのものを見聞しましたが、一番心に残っているのは、ホテルで、みんなと話をしたことだと思います。と言うのも他のいろいろな所をまわっても時間がなくて、あまりよく見ることができず、ただ単に見てまわったというぐらいでしかなかったように思えたからです。でもまったく心に残っていないというわけではありません。タイガーバームガーデンなどの建物を見れば、誰でも強く印象に残るだろうし、日本と違って電線などがない風景を見るとやはり、海外へ来たと思えてきました。

長くバスに乗っていて酔うこともなく無事に行けたのはいいのですが、食事の方がどうしても口に入れることができかねましたが、自分達の文化と他の国の文化とがまったく同じだということはないのだからと、なんとかわりきりました。

また、この研修に参加させてもらい、多くのものを得ることができたと思っています。その土地に住む人と自分達との立場の違いや考え方の違いなど今まで自分自身で考えたこともないことが少しですがわかったと思います。

最後に、この研修に関わったすべての人々に感謝したいと思います。

もう一度、みんなとゆっくりと行ってみたいものです。

「日本人と香港人」

荒木　猛

香港に着いてまず感じたことは、本当に外国へ来たのかということでした。というのは周りの人々がほとんどが日本人と同じ東洋系の顔をしていたし、看板や広告などの文字が日本と同じような漢字だからでした。そして思わず現地の人に、「すいません」「ありがとう」などと日本語で話しかけてしまったのでした。でも香港人だと思って話しかけても日本人だったり、日本人だと思って話しかけても香港人だったりと、どっちの言葉で話しかけようか、迷ってしまいました。それくらい日本人と香港人は似ていました。

僕は、日本のテレビ番組を見ていて、香港の人々は無口で話しにくそうと思っていましたが、現地のインターアクターやホテルのボーイとかと話したりしていると、楽しくて、すごく陽気な人々だということが分かりました。そしてその現地のインターアクターと話しているとホームシックなんかふき飛んでしまうくらい楽しく時を過ごせました。でも現地のインターアクターと過ごせる時間が3時間程度と、ごく限られていたので残念でしかたがありませんでした。目を閉じると、あっという間に終ったこの香港での思い出が走馬灯のように後から後から思い出されます。この香港での5日間の思い出は、絶対に絶対に忘れることはないと思います。そしていつかきっと香港にまた行きたいと思います。

「すばらしい夜景」

香港に行って私は本当に良かったと思っています。

ごはんが少し口に合いませんでしたがとても良い思い出になりました。ビクトリアピークから見た夜景はとてもすばらしいものですが百万ドルの夜景だなぁと思いました。

あんなすばらしい景色は日本でみれるものじゃありません。

もしあの景色がスーツケースの中に入るんだったら中の荷もつをおいてでも持って帰ったと思います。

香港のインターアクトの人達と交流をしてまず最初にびっくりしたことは、英語がものすごく上手なことです。

自分がはじめて、しゃべってみて全然しゃべれなかったのがとてもはずかしかったです。

もう少し勉強しておいた方がよかったと今でも後悔しています。

中国での感想でまず印象に残っているのは孫文の資料館へ行ったことです。

昔の日本の文化と比かくしてみると昔の中国の文化がはるかに進んでいることが分かりました。

帰ってみて飛行機がニアミスでぶつかりそうになったのを知ってびっくりしたけど、とても良い思い出になりました。

機会があったら又機会があったら、又絶対行くつもりです。

「もっとアジアを知ろう」

濱田　誠

はじめ先生から今年の海外研修は香港に行く事になったと聞いた時、はじめはがっかりしました。それは、ハワイでホームスティができると思っていたからです。しかしいざ香港に行ってみると、他の国に来たという事からとてもドキドキしました。そしてなおよかった事は、同じクラブでも今まで少しも話した事がなかった人と話しができてとても仲良くなった事と、香港のインターアクトの人達と友達になる事が出来たという事です。

海外に行くのは初めてだったので飛行機の中では不安と希望で、いっぱいでした。でも行ってみるとあまり日本とかわりがなく、ほんとうに香港に来ているのかと思うくらい近代的でおどろきました。しかし、一歩中心部を出るとそまつな家がたくさん並んでいて、とても不衛生なのに驚きました。

今回の研修を終えてみて、隣の国で、しかも飛行機で約4時間程で行ける、香港そして中国の事を全然知らない事を痛感しました。

自分が住んでいるアジアの事もよく知らないのに、アメリカなどに行きたいとか言えないと思いました。まず自分の住んでいるアジア地域の事をよく知ろうと思いました。又香港に行ってみたいと思います。

「楽しかった交歓会」

薗 田 芳 子

今回、初めての海外研修でした。行くまでは、とても不安でした。飛行機が落ちないかとか、むこうに行ってスリにあわないかとかすごく心配でした。そして、うれしくて、なんか気持ちが浮いていました。飛行機に乗って空に上がっていく時に、何か気持ちが悪かったけれど、何事もなく無事にすみました。飛行機に乗っている時は、音楽を聞いたり、友達としゃべったりしました。
香港に着いて、びっくりしたのは、高いマンションがいっぱい建っていたことです。やっぱり日本とは全々違うと思いました。私は、香港という所は、あまりきれいじゃないと思っていたのですが、あんがいきれいだったのでよかったです。

でも、食物が、ちょっと私の口にはあわなかった。特に、中国に行った時に食べた昼ごはんがあいませんでした。だから、ほとんど食べられませんでした。オレンジジュースは、日本のものとはぜんぜん味が違っていました。でも夜ごはんは4日間ともおいしかったと思います。観光の時間は短かすぎたと思います。だから、一ケ所を見るのに十分最後まで見れなかったのでくやしかった。
この研修中でいちばん楽しかったのは交流会でした。むこうのインターと、初めは全然話せませんでしたが、だんだん少しずつだけど言葉が理解できるようになってしゃべりました。一回目は、それで終わりましたが、二回目の時は、身振り手振りを入れたので、もっとしゃべれたと自分では思います。また、こういう研修に行って他の国の人たちと接したいと思います。本当に最高に楽しい研修でした。この研修のおかげで、友達も増えたし、私たちインターは、団結できたと思います。

「終わらないで」

露 原 浩 之

出発の前日１８日は、ほとんど眠れなかった。香港で疲れてはいけないと思ったが、たいへん楽しみでならなかった。それと同時に、飛行機が墜落しないかと心配もしました。香港へ行って見る楽しみにしていたのが、夜景です。六甲山や信貴山から見た夜景とは違い新鮮さがありました。外国に来ているんだと、改めて思いました。ぼくのほんとうの海外研修の目的は、英語の勉強です。英語が話されている国へ行き、強い刺激を受けて、２学期からの英語の勉強に力を入れようと考えていました。残念だったのは、香港にしましてもマカオや中国でも出入国の時に税関で英語が必要でなかったことと、デュティーフリーでは店員が日本語を話し、おまけに中国デパートでは、英語が全く通じない人ばかりでした。英語をもう少し練習して帰りたかったと思いました。しかし、交流会の時は、現地のインターアクターは、普段は広東語で生活をしているようですが、たいへん英語が上手でした。上手に話すことはできませんが、現地のイン

ターアクターとは、英語で話し合いました。いっしょに写真を撮りました。そして、だんだん話がもりあがってくると、この人達とは二度と会うことはないだろうと考えるとたいへん寂しくなってきました。できるだけ長い時、そして多くのことを聞いたり話したりしました。短い時間でしたが、たいへん楽しいひと時を過ごしました。また、9人全員が、積極的に話しかけました。文通をする約束もし、住所も教えあいました。いつかまた、きっと会えると信じて別れました。そして、香港で過した5日間ずっと彼らといっしょに、行動できたらよかったのにと思いました。この海外研修は、自分の人生において、最も印象に残るものであると思っています。そして、できればずっと終らないでほしかったです。

「海外研修を省みて」

顧問　**前田美智**

ＩＡＣ海外研修には今回顧問として初めて参加させて頂いた。香港・マカオ・中国中山県へと三カ国にわたりそれぞれの人々や文化や歴史に触れることができ、貴重な体験を得させて頂いた。また、インターアクター達にも有意義な研修をさせることができ、飯原委員長、本間先生をはじめ、ロータリアンの皆様や各校の顧問の先生方に対し感謝の気持ちでいっぱいである。

本校金光八尾インターアクターは本年も代表9人を選考し、事前に孫文や香港についての歴史的な学習と英会話の学習を行ない、交流会用に英語の紙芝居や歌や踊りの練習を重ねて、研修に備えた。研修であって観光旅行ではないと認識させて海外研修にのぞませたが、研修中は買い物と写真撮影が優先してしまったと懸念される。その点を除いては、研修旅行全般にわたり様々な勉強をさせてもらえたと思っている。

2日目の午後に行なわれた施設の慰問では現地インターアクターとの交流も含め、生徒達は積極的に取り組んでいたようである。香港のインターアクターに折鶴を教えてあげ、彼ら彼女らと一緒にその鶴を障害者の方やお年寄の方に手渡している姿は本当にすばらしかった。それだけでも今回の研修の意義は十分にあったように思われた。

最後の夜に行なわれた交流会では、現地ロータリアンの方々やインターアクター達と交流を深め、その後に連絡をとる約束を交わし合い、なごり惜しい雰囲気のうちに終えられたことも、生徒達にとって思い出深いものとなっているだろう。

インターアクトの目標の一つである『国際交流』に関して言えば、今回の海外研修でかなりの成果が上がったと思う。

「海外研修を終えて」

顧問　**片島哲哉**

今回の海外研修には、本校より9名の生徒が参加させて頂きました。

「香港」という研修地については、「観光・買い物」という印象を持ちがちです。そこで、本校では事前研修として、香港の歴史的背景や交流会での英会話等の研修に取り組みました。しかし、現地での生徒の姿を見ますと、自分自身の身体で海外に触れるだけで充分、研修の意義があり、自分の取越苦労を、嬉しく反省しております。

今回の研修の狙は、香港のインターアクターとの交流でした。この点では生徒達も満足していたようですが、我地区の生徒同士の交流を深める機会が多ければ、もっと活発に現地のインターアクターとの交流ができたので

はないかと思います。特に施設訪問では、もっと事前に準備ができれば、尚一層よりよい活動になったのではないかと、少し残念でした。市内観光や中山への見学も成果があったとは思いますが、個々の生徒の体験を狙とした研修とは異なり、地区としての交流を考えると、我地区の生徒の結束力を深める機会が少なかったと思います。現地で、そのような時間の余裕がなかった事が残念です。

けれども、現地のインターアクターと生徒達が、限られた時間の中で本当に親しげに語り合う姿を見て、心温まる思いでした。このような出会いの場を提供して頂いた事に心より感謝致します。

大谷高校

「大豪邸と高層集合住宅」

西　山　由樹子

5日間という短かい期間で香港のかいつまんだ部分しか見れなかったが、いい経験だったと思う。香港の色々な部分を見て、一番強く感じたことは、貧富の差が著しいことだ。都市近郊の画一的で密集している高層集合住宅と対照的なレパルス湾付近の大豪邸、山中のバラックや集合住宅の中に忽然と現われる中国色見事なタイガーバームガーデン。世界中どの国にも、この差は存在するが、貧と富がこれほど近くに存在し奇妙な調和を成しているのは香港ぐらいではないかと思う。

奇妙な調和と言えば、中華料理とジャスミンティー。深みのある中国茶に負けずに、中華料理にマッチしているところが香港らしくて楽しい。英語に広東語の訳がついている看板やネオン群、漢字で大体の意味がつかめ面白い。例えば、『無線電子遊戯中心』は、ゲームセンターの意味で、何となく雰囲気が出ていて「なるほど」と納得させられる。

毎日新鮮な発見の連続だった。身近な存在でありながら、案外知らない部分の多いことに驚いた。機会があれば、もう少しゆっくりといろんな所を見てみたい。

「多くの人を知った喜び」

田 尻 博 巳

今回の香港への研修旅行は、私にとっても初めての海外旅行で、とても思い出の多い良いものでした。

香港・マカオ・中山県と、3つの国へ行くことができ、あちこちで見学することができました。

特に、香港の百万ドルの夜景はすばらしく今も心に残っています。

ビクトリア・ピークからの眺めもすばらしく、何を見ても感激することばかりでした。

食事はやはり中華料理で、初めは珍しいし、おいしいので、色々なお皿に手をつけていましたが、それも毎日ではあきてしまって、帰国してしばらくは、油を使った料理が食べられませんでした。

老人ホームを訪問した時に浴衣姿で民踊を踊ったこと、折り紙のつるをおじいさんに教えてあげたことも良い経験でした。

そして、最後の夜は現地のインターアクターとの交歓会がありました。

私もとても楽しみにしていたので、多くの人と話すことができてうれしかったです。

この時、住所の交換をしたのですが、さっそく向こうから手紙が届き、私も返事を書くつもりです。

この旅行での一番の収穫は多くの人と知り会えたことだと思っています。

この旅行に参加させていただけて、ロータリーの皆様方には、とても感謝しています。

ありがとうございました。

明浄学院高校

「犬？ 狼？」

北本真理

海外研修の当日は、嬉しくて、早く目が覚めて、だいぶ早くに空港へ行った。
結団式などを終えて飛行機に乗った。台風のかげんで飛行機がすごくゆれた。

次の日、午前中は、香港島のいろいろな場所を見学したりして楽しかった。
午後からは、施設訪問をして、そこで香港のインターアクトの人と一緒に折り紙をしたりしてとても楽しかった。

3日目は、朝早くに起きて、マカオと中山県に行った。

中山県では、孫文の資料館で様々な資料を見学したり、孫文の住んでいた家などを見た。

昼食を食べたあと、町の中を少し散歩した。大きな家がたくさんあったけど、なんか昔にタイムスリップした様な感じがした。
それから、そこで見た犬が、日本の犬とは全然違う狼みたいな感じだったので、とてもびっくりした。

その後、マカオで少し観光して、香港へもどり、夕食を食べたけど、それがとっても、からかったので、あまり食べられなかった。

4日目は、中国々境を朝から見学に行った。国境には、鉄のさくがずっとあり、周りは木がいっぱいあった。中国の方は、まわりがずっとため池の様なものがあった。

その後、中国デパートなどで買いものをしてホテルへもどり、夕方からは、香港インターアクトとの交歓会に、ゆかたを着て出席した。

交歓会で私達は、リコーダーの合奏をした。そのあと、他のインターアクトの人達がダンスをしたり、香港のインターアクトの人達が歌を唄ったりしているのを、見たり聴いたりしてとても楽しかった。

交歓会が終ってから、写真を取ったり、香港のインターアクトの子の住所を教えてもらったりした。5日目、日本に帰るのに、飛行機がだいぶ遅れた。香港の海外研修は、とても楽しかった。今度は家族で香港へ、行きたいと思った。

「タイムスリップ」

谷舞千栄

昨年も海外研修に参加していろんなことを学びましたが、今年は昨年以上にいろんなことを、私自身学んだと思います。風がすぎ去る様にして、香港・マカオ・中国の中山県をおとずれました。
マカオから中国に入国する時に、中国からマカオに来る人の姿を見ていると、タイム・スリップをした感じがしました。手さげぶくろの中から、生きているアヒルが顔を出しているのが見えました。一つの国境という境いでこれほどに生活観が違うものかと、感じさせられました。でもこういう光景でびっくりしたのが間違いでした。奥に奥に進んでいくと、想像していた以上にびっくりしました。日本ではもう考えられないぐらいに生活観が違い、笑顔などありませんでした。日本にあるあいそ笑いなどなく、いつもちょっと“むっ”とした顔つきの人が多くいました。でもこれが学校で習った共産（社会）主義なんだ、と思いました。昼食後、近くにある店に入ってびっくりしたことがまたありました。今までびっくりしていたことは、建て物や、人の行動だったのですが、店に置いてあった、日用品にはおどろきました。ドライヤーは形が古く、日本では、2・30年ほど前の物なのに、中国では新製品として売り出されていました。男の人が着るスーツなどは、大・中・小の3つしかなく、乱暴につりさげているだけで、本当に日本では考えられないようなことがい

っぱいで、一瞬カルチャーショックになってしまいました。
香港が1997年、マカオが1999年に中国に返還されますが、資本主義のよい所が共産主義に取り入れられ、両国がお互いに協力しあってよい国にしていってほしいと思います。返還される前と、返還されてからの香港とマカオにもう一度行きたいと思います。

「てんそく」

木　村　美由紀

今回の海外研修は、私にとってとても貴重な体験になりました。香港・マカオ・中山県の旅はもちろん初めてだったので非常に楽しみにしていました。

現地のインターアクターとの交歓会では、日本の受験にはあまり必要とされない英会話、外国で2年間英語を勉強した私にとって、いろいろな話をすることができて、とても良い勉強になりました。

中国中山県の「孫文記念館」では、孫文の歴史が手にとるように示されていました。その中でも私が一番興味を引かれたのは“てんそく”でした。このことを聞いたり読んだりしたことはよくあったけど、この本物の小さな小さな靴を見た時、あまりにも思っていたのより小さかったのでびっくりしてしまいました。その他、孫文の住んでいた家や周りの様子なども、当時の様子のまま残され、少し神秘的な感じがしました。

食事では、北京料理や上海料理や海鮮料理などいろいろあったけど私が一番食べやすくおいしいと思ったのは、飲茶料理でした。日本でもたまに食べたりするけどもやっぱり現地の本物の料理はおいしい。と思いました。

長かったような短かかったような5日間の旅でしたが、私にとって今回の旅はとても楽しかった忘れることのできないよい思い出となるでしょう。

「施設訪問時の交流会」

石　塚　葉　子

私は、海外へ行くのは、生まれて初めてだったので、すごくドキドキしていました。うれしくてドキドキしていたのもあるし、少し不安のドキドキもありました。

行く何週間も前は、早く行きたくてたまらなかったんだけど、4～5日前になると、私だけ税関で引っ掛かって行けなくなったらどうしようとか、私ってドジだから、パスポート失してしまうんじゃないかとかいろいろ考えて不安にもなってきました。

でも、思っていたよりすんなり行くことができて、ホッとしました。

この海外研修で一番印象に残ったことといえば、施設訪問のときの交流会です。最後の日の交歓会も楽しかったけど、私は交流会が一番良かったです。

それは、海外で初めて友達ができたからです。

私は、あまり英語はできなくて、話すことがあまりできなかったけど、向こうからいろいろ話してきてくれました。

わかることは、すぐに返事できたけど、全々わからないときは、すごく困りました。そんな時は、すぐ、友達を呼んで通訳してもらいました。わからないことが多かったので、変に思われたんじゃないかとかハラハラしたけど、最後に住所を教えてくれて、「手紙ちょうだい」って英語でいわれて、すぐに、yesって答えました。

私は、この交流会で、ほとんど、yesとかnoを使っていたので、今度、外国人と話す機会があったら、もっと他の言葉でも返事できるようになりたいです。

この海外研修に参加させてもらって、とてもいい勉強になりました。

「竹の足場」

中嶌友子

8月19日。まちにまった海外研修の日です。朝から調子が悪かったのか、空港に車で行くのに気分が悪くなりました。その上、香港滞在中は、バスで香港島、マカオ、中山県、新界地区見学だったのでバスに弱い私はとても不安でした。行く限りは楽しもう、そういう気持ちで飛行機に乗りました。

2、3日目は、みんな香港島、マカオ、中山県を観光してるのに、私はダウンしてホテルの中でした。気分のいい時は、先生にホテル周辺を案内してもらいました。

まずびっくりした事は、建物です。30階のビル（団地）がたくさんあります。一つの家に20人も住んでいる所もあるとか……0階は、（日本で1階にあたるのがここでは0階）スーパーなどになっていて、遠くまで行かなくても買い物ができるようになっています。

30階のものを建てるのに、工事の足場は竹でしてるのに驚きました。他には、引き潮になると、川の水までもが少なくなること、タクシーがとても多いこと、朝からでも外で食事をしているので仕事はどうなっているの？と思った。

4日目は、ショッピングをしたり、現地インターアクトの人との交歓会では、片っぱしから英語を使い、おしゃべりしました。

わからない時は、紙、和英辞典、体を使いもう必死でした。私達の言いたかった事が伝わった時はとてもうれしかった。

とうとう帰国する日になりました。

早く帰りたいような、行けなかった所に行きたいようなとても複雑な気持ちで空港に行きました。

帰りの飛行機の中では、両隣先輩に挟まれ、ワイワイして気分が悪くなるひまがありませんでした。百万ドルの夜景はみれなかったけど、飛行機からの夜景はとてもきれいだったので満足です。

「印象に残った マカオと中国」

青柳悦子

私は海外へ一度も行ったことがありませんでした。だから香港へ行く前からとても楽しみにしていました。しかし実際に香港へ行ってみると看板の文字が漢字で書いてあったり、日本人と同じような顔をしている人がいたりで、あまり外国へ来た気分はしませんでした。

見学するのは5日間のうち3日間ぐらいしかなかったので、バスに乗ったり降りたりと、忙しかったけど、どれも印象に残っています。特に印象に残っているのは、マカオと中国へ

行ったことです。マカオへ行くために船に乗った時、酔ってしまって二度と船には乗りたくないと思ったけど、その日は三ケ国も行けて嬉しかったです。

現地のインターアクトとの交歓会では、質問をされた時に話しをするくらいで、あまり話しはできませんでした。でも現地のインターアクトの人がたくさんしゃべってくれたので、楽しかったです。今思うと、もう少したくさん話しをすればよかったと思いました。香港のインターアクトの人達は、みんな明るい人ばかりで、話しかけてくれたりして、楽しく過せました。もう会える機会はないかもしれないけど、また会えたら嬉しいなぁ、と思います。

今回香港へ行って、日本語が通じてしまうことが多かったので、英語らしい会話はあまりできませんでした。だから少し安心してしまったところがあったけど、話そうと思えば話す機会はたくさんあったので、積極的に話せばよかったと思いました。また機会があったら、香港やその他のたくさんの国へ行きたいと思います。

「英語で話せた」

田　中　智　美

私は、飛行機に乗るのが初めてでした。当然、海外に行ったのも初めてでした。だからすっごくうれしかったです。しかし、はっきりいって、外国に来たという気がしなかった。それは、どこを見ても黒い髪で日本人とあまり変わらないからです。

２日目に、タイガーバームガーデンでは、見学時間が短かかったのであんまりゆっくりと見れなかった。ビクトリアパークでは、マレーシアから来た人に会い、私たちは、かたことしか話せない英語で対応しました。その出来事で私は、英語で話すことに自信がつきました。そして、その人と一緒に写真を写しました。そして、その人は、住所を教えてくれました。その紙をもらって、バスに走って行きました。するともうみんながいて、私たちが一番最後でした。でも、私は、すごくうれしかったです。

３日目は、５時３０分起きだったので、すごくつらかったです。中国は、どこを見ても、畑ばかりだったけど、牛やにわとり、（あひる）がどこにでもいるので驚いた。

最後に、私と同じ部屋になった友達が来た日に気分が悪くなったので、２日目・３日目とずっと部屋で寝ていたのでかわいそうだった。私が部屋に帰っても寝ていたので部屋には、いずらかったので、ずっと隣にいたので部屋には、寝に行くだけでした。だから、私は、その子に、何もしてやれなかったので、後悔しています。１人で、心細いはずだから一緒にいてやればよかった、と…。

４日目の日、その子と一緒に買い物やバスに乗ってなといわれたのに、私は、守らなかった。どうしょうかと思ったが交歓会の時に話をしてもおこってなかったのでよかった。でも、この交歓会で、友達が２人もできたし、これから文通もしていきたいなと思っています。

「英語が話たい」

治　村　有　理

８月１９日、「CX-5」便に乗って香港に到着したが私は全々と言っていい程に『外国に来たんだ』等と実感しなかった。リーガル・リバーサイドホテルに泊まって現地の人と交流していなかったからかもしれない。

翌日２０日は香港島一周観光の後、現地インターアクトと交流して向こうの人２人と話をしました。しかし途中でやはり言語のいきづまりを感じました。私が言っても相手側に伝わらなかったり、その逆もありました。頭で考えるようにうまくはいかないということも実感した。その後水上レストランで夕食をしましたが少し動いていたので気分が悪くなりそうだった。百万ドルの夜景は曇っていたので残念でした。

２１日、水中翼船に乗って気分が悪くなりました。マカオと中山県を見学しましたが、

香港とは違って似ていなかった。香港に戻ってから今日の夕食は"四川料理"と聞いて母に教えてもらった不気味な食物と思いました。が、違っていたので本当に良かった。でもホテルに入ってからもまだ水中翼船に乗っていた感触があり少々気分が悪かったみたいでした。

２２日現地インターアクトと交歓会がありました。他の学校の人達は話題を考えてすぐに現地のインターに話しかけたりしたけど、私は話題を考えていても全々頭に浮かばなかったので向こうの人達に英語で答えるぐらいしか出来なくて英語をもう少し勉強していたらと何度も考えていました。

最後の日「CX-564便」で帰った後日にその乗った飛行機がもう少しで事故を起こすところだと聞いてびっくりした。

今回の旅行で自分はこんなものだったのかと思いました。

「日本の豊かさ痛感」

上　田　亜以子

私は香港・マカオ・中山県とこの三つの国へ行って改めて日本の豊かさを覚えました。中山県でのあの警官の冷酷な目、子供の出産制限、スリの多発、香港の飛行場では銃を持った怖い顔した警備隊がいて日本では全く信じられないことばかりでした。その反対に日本がもっと見習わなければならないこともいくつかありました。それと食べ物に関しては、どれもこれもおいしいものばかりだったけどすごく量が多くて残してばかりでもったいなかったのと１日目の夕食の時のスプーンの食べ物の汚れがついているのをきちんと落されてないところに香港のレストランらしさを感じさせられました。楽しい思い出としてはやはりファイナルパーティーでの交歓会です。自分達の出し物は自分自身がうまくすることができなかったのでくやしかったけど、香港のインターアクトの人と私のへたな英語でも通じなかなか楽しく過ごせました。そしてこの旅行で一つ反省しなければならないことがありました。それは最後の日ホテルを出発するのに精算の話しでホテル側と口論して他校の人に大変迷惑をかけてしまいました。どうも他校の皆さんすみませんでした。それとこれは香港などとは関係のないことなのですが私達が帰り乗っていた飛行機（CX-564）が後0.5秒で落ちていたということを私は日本に帰国した２日後友達から聞きびっくりしました。これを聞き二度と飛行機に乗らないという人が出てくるかもしれないけど私はもう一度、英語もうまくなって飛行機に乗って香港へ行き今回の旅行で知った以上に香港のことを勉強しに行きたいです。

「香港、中国の旅」感想

顧問　山　川　義　昭

香港は小生にとって１２年振りであったので昔の恋人に会うような気持で空港に降り立った。ただ、機中身体の不調を訴えていた生徒が気掛りであったが一路ホテルへとバスに乗る。ホテルに着いてみて、その立地条件は今回の研修旅行には適当であると思った。都心から離れた住宅地ということで先ず治安の心配がなさそうだった。さて、不調の生徒の診察をロータリアンの川畑先生にお願いしたところ、矢張り翌日の香港見学、施設訪問は見合わさざるを得なくなった。川畑先生には夜遅くまで長時間の看病本当に有難く思いました。斯くして翌日は一日ホテル滞在となった。病状は一進一退で乗物酔いにしては回復に時間がかかりそうな感じである。退屈な１

日が過ぎた。到着３日目、同行の伊沢先生と付添交代でマカオ・中山県見学へと出発。マカオは小香港という感じで、最近治安が悪化していること、又中国へ９年後返還されるとのこと。ギャンブル収入が多いので一般の税金が安いということはこの地の特徴をよく表わしている。孫文のふるさと、中山県へ入り、先ずガイドさんの説明により、貧しい農村の実態を知り、この広大な農地を持ち乍らそんなに貧しいのが不思議に思われた。矢張り現代は農業国では豊かな文化生活は不可能であるのか又政治に関係しているのかも知れない等考えた。ところで孫文の資料館の立派さから、彼が中国人の精神的な支えとなっていることがよく分った。第４日目も残念乍らホテルに残る。１２年前垣間見た新界地区が今日どのような工業地域に変貌しているか見学したかった。午後からダウンタウンでのショッピングに合流又翌日再度免税店へ行く。さて兎に角無事大阪に帰着す。但し最終の空港バスを利用できなかった点、今後の課題となろう。翌はＴＶで私達が乗っていた飛行機のニアミスのことを知り、無事の帰国に安堵した。

「９０年度海外研修をふりかえって」

顧問　伊　沢　　豊

本校にとっては今年で２回目、昨年経験したお蔭で今年は生徒への事前指導がスムーズに行ったと思う。本校の参加生徒数は３年生が２名、２年生が９名、計１１名の大世帯になったので、顧問も２名参加することになった。では今回の研修旅行の主な点をいくつか挙げて感想を述べたい。

◎施設訪問：言葉の問題上施設にいる障害者や老人達との直接交流はなかったが、現地のインターアクター達と共に館内見学をする中で、第一段階としての交流を持てたのは良かった。

◎観光：あちこち連れて行ってくれたのは良いが、要所での見学時間が短かすぎて、ただひたすらあわただしかった。それに、中山県や新界地区見学（特に中国々境展望）など、あれだけの長距離を長時間かけて行く価値が果たしてあるのだろうか。

◎交歓会：各校のパーフォーマンスは素晴らしく、現地インターアクターを圧倒する盛り上りを見せ大成功であったと言えよう。ただ幾つかのテーブルに、現地インターアクターが一人もいないという所があり、大変淋しそうであった。

◎食事：朝はバイキング、昼夜は中国料理と、我々日本人にはなじみ深いものであり、まずまずであったと思う。

◎ショッピング：生徒達はそれなりの経験をしたわけだが、中に、１０万円以上の買い物をしている者がいるのには驚いた。

◎全体として：今回の研修旅行は「香港」という目的地からして、私がかねてより危惧していたように、一般の「観光・買い物ツアー」と大同小異であった、と申し上げれば失礼であろうか。たしかに施設訪問や交歓会はあったのだが、それが第二義的なものに感じたのは、果たして私一人であったろうか。

浪速高校

「いざ香港へ」

奥野泰臣

ＲＩ266地区１行87名が香港・マカオ・中山県へ研修旅行へ旅立つ日がやって来た。２回の事前研修をすませ希望に満ちあふれ、空港に着いた。出発するための出国手続きは意外と簡単だったけど、時間がかなりかかり、出国の気分を大いに味わった。空港のレストランで結団式が行なわれた時、もうすぐ飛行機に乗って外国へ行くんだ、と思うと胸がわくわくする反面、うまく目的が果せるのか、心配もしました。離陸の際は、ジェットコースターに乗っているように、とても気持ちがよかったが、機内食は、はっきり言ってまずかった。入国手続きを取り、トランクを受け取り、バスに乗って、リバーサイドホテルへと出発しました。香港は高いビルが多く、マンションも多かった。洗濯物を干すのに、物干し竿は長くて、道路の上にはみ出ていたので、落とした時はどうするのかなあと思いました。日本円をバスの中で香港ドルに交換しましたが１万円で493ドルでした。大体１ドル２０円ぐらいだと思います。我々の宿泊ホテルが近づいて来ました。ホテルでは、部屋の中で、トランクをボーイさんが持って来るのを待っていた。初めてチップをあげるので、どきどきしていると、ボーイさんが来たので、２人で１０ドルわたした。それから、浪高生５人でセブンイレブンに買い物に行った。ジュースは日本と一緒だったけど、お菓子は同じ袋でも、味が違っていたので、異国に来たのだなあと思いました。それから、明日の施設訪問に備え、折り紙の折り方の復習をしたり、香港のインターアクターへのプレゼントを確認して、床に就いた。

「いろいろ学んだ研修旅行」

曽々木良尚

長野先輩のすばらしいスピーチにより、ついに海外研修が始まった。

飛行機で食事をした。時差の関係で食事が１時間はやくなったせいかあまり食が進まなかった。

香港についてホテルに向かい、その後市内レストランへ行った。あまり手のつけられなかったものもあるけどけっこうよかったと思う。朝起きて枕の下にチップを置いた時、外国にいるんだなというつまらない実感を味わってしまった。朝食はパンとコーヒー、その他少し食べただけだった。香港の食事は日本人にはあまりあっていなかったと思うけど、我が浪速高校ＩＡＣ顧問の春田先生は人が変わったように食べていた。おそらくぼくの３倍は食べただろう。

市内見学に出発した。タイガーバームガーデンの見学の時間がもっとほしかったけど、たくさん写真を写したのでまあいいだろう。レパルス湾は景色がすばらしかった。ここで左足を海水でぬらしてしまった。案内をして

くれたターさんといっしょに写真が撮れたのでよかった。

昼から施設訪問をした。現地インターアクターとすこし話をしたけど、ドギマギして知っている単語まで言えないぐらいだった。施設訪問は奉仕活動のはずなのに、見学しに行ったみたいだったのでいやだった。

4日目、ついに交歓会の時がきた。現地の人はぼくのすわっている所には1人も来なかった。不安だったけどたのしみにしていたのに残念だった。

今回の海外研修ではいろんな人との出会い、そして先生や先輩のいいところや団体行動の大切さを学んだ。

今回の研修で学んだことを、今後もいかしていきたい。

「第1日目」

小林秀之

1日目の思い出といえば生まれて始めて飛行機に乗ったということです。ぼくは、はっきり言って高所恐怖症だったので出発する前は本当に恐かったです。飛行機に乗った時ぼくの席は春田先生の隣で春田先生が「窓側と変わってやろう。」と言ったのでどうしようかなと少し思ったけれど好奇心の方が強く変わってもらうことにしました。そしてそうこうしているうちに飛行機は離陸の時をむかえました。しだいにキィーンというエンジン音とともに、滑走路をかけ上がりました。上がる時体に重力を感じ重かったのを覚えています。それとびっくりしたことは飛行機があっというまに地上からはなれ高い所まできたということです。そしてしだいに恐怖が快よさに変わっていきました。そしてそのうち本当に地図と同じ形をした淡路島をぬけ四国につきました。高知県の海岸で岸によせる波がこの飛行機からも見えるくらい白く大きいのにはびっくりしました。そして飛行機は最初の目的地台北へと向かいました。だんだん台湾に近ずいてくるにつれて先生が台湾には今台風が来ていると言ったとおりに雲が多くなり、飛行機がすごくゆれ始め台風の中を飛んでいるというのがわかりました。何分間か飛んでいたのち機内放送で台北には降りないでそのまま香港に向かうと言ったときには、台湾はどんな所なのか見てみたかったと言う思いもありましたが、やっとこの台風の中からぬけることができると思うと少しほっとしました。そしてだんだん雲から遠のいていき海が見えるようになってきました。高度が下がり、香港に着くんだという心が表れてきました。岸が見えそして知らぬまに着陸したような気がしました。香港に着いた時はとてもうれしかったです。そして少し恐かったけれど飛行機にもう一度乗ってみたいなと思いました。

「強烈な印象」

芥子川晋史

この海外研修に参加させてもらったことは僕自身にとって、とても勉強になったと思います。わずか4泊5日の短い期間だったけれども、香港という土地は、僕に強烈な印象を与えてくれました。その中でも、2日目に行った施設の訪問が印象的でした。その時の交流会では、香港のインターアクターとの会話での問題など、いろいろな不安がありましたが、香港のインターアクターの人達がとても積極的に話をしてくれたので、僕もできるだけ手や身ぶりで対応しましたが、内容はあま

り理解できませんでした。

次に印象に残ったことは、香港の身体障害者の人達が、明るかったことです。障害を克服して一生懸命に働いている姿を見て、僕はとても感動しました。香港の老人の人達は、日本の老人の人達とあまり変わらない雰囲気を持っていました。それと香港の人々の生活を見ていると、とても自由で開放的な感じを受け日本よりも住みやすく見えました。

食事は、四川料理や飲茶料理などの中華料理を食べましたが、どの料理も僕の口には合いませんでした。研修期間中は、和食を食べたくてたまりませんでした。

日本へ帰って来たらもう一度香港へ行きたくなりました。今度は、7年後に行ってみたいです。なぜなら香港は、7年後にイギリスから中国へ返還されるからです。7年後、香港が政治的、経済的にどのように変化しているか、僕にはとても関心があります。そして今回知り合った香港のインターアクターの人達が、どのような社会生活を送って行くのかも知りたいと思います。

今回の旅行で英語の重要さを思い知らされたので、次に香港へ行く時はより一層英語を勉強して行きたいです。

最後に、3年生のこの時期に参加させていただけた事を感謝いたします。

「我が最高の想い出」

長 野 範 人

夏真っ盛りの8月19日、我がRI266地区の海外研修が始まりました。僕は期待に胸を躍らせるばかりでした。

まず代表者としての最初の難関は、結団式でのあいさつでした。しかし、このあいさつで予想以上に緊張してしまい、手が震えて止まりませんでした。ですが、このあいさつのお陰で、また一つ自分に自信が持てた様な気がしました。

そして第2の難関である「施設訪問」。この日は朝から不安で胸がいっぱいでした。そして、いざ施設訪問へ。この時、他校のインターアクターに、「今日、何すんの?/」と聞くと、「知らん。」と言う返事が返ってきてしまいました。そこで気を取り直して、もう一度、「ここ(訪問方)での司会は?/」と聞くと、平然とした顔で「長野君やろ?/」と言う、とてつも無く恐ろしい答えが返ってきてしまいました。この時、僕の心から不安が消え去って、やけっぱちになってしまいました。しかし、そのお陰で訪問先に着いてからは、別に緊張する事もなく楽しく筆談ができ

ました。

そして第3、また最大の難関であるフェアウェルパーティー。この日の前日の会議で、「司会をしろ!!。」と言われていたので施設訪問に続いて、大ピンチ!! この時は施設訪問の時の様に自分を捨て去る事ができずに不安が募るばかりでした。そして我がスピーチの番。舞台に上り、マイクに口を向けた瞬間、足がガクガクと震え始めて止まりませんでした。けれども「ここで決めねば、男が廃る。」と思い、思いっきり見栄を張って大声でスピーチを始めました。そして数分後、やっと魔のスピーチも終り、ホッとして全身の力が抜けてしまいました。その後、パフォーマンス等があってラストの螢の光。僕はこの時、「つらい思いもしたけれど、本当にこの研修に来て良かった。」と心の中で繰り返しました。

そして最終日、いざ帰国の途へ。この日の僕の心の中には一つの心残りがありました。それは一緒に行ったインターアクターの一部の人としか話せなかった事です。

僕は飛行機の中で今回の研修の事を想い出していました。そして想い出す事すべてが、我が16年間の中で最高の想い出でした。

最後になりましたが、このようなすばらしい、たくさんの想い出を創る機会を与えて下さった、ロータリアンの皆様、各校の顧問の先生方、そしてなによりも我がRI 266地区のインターアクターのみなさんに心より、心より感謝いたします。

今回は本当に、本当に僕をRI 266地区の代表に選んでいただき、ありがとうございました。この研修で学んだ多くの事を足掛かりとして、更に前進できるように頑張っていきます。

それでは再会を期待して……。

『香港』雑感

顧問　春田義幸

私にとって数年ぶりの海外研修である。いつもながらインターアクトクラブの趣旨に則して海外で見聞を広めることは、インターアクター諸君のみならず、私共にも誠に他に得がたい機会といえる。ましてその地域の動向が、今世紀末の世界の歴史において一つの画期をなすとなれば、なおさらのことである。こうした観点で見た香港は、表面上何の変化もないようであった。アジアにおける経済の一大中心地としての賑わいは不変であった。しかしガイドさんの話によると、中流階級の人々を中心に日一日と将来への不安が増大しているらしい。中国への返還に伴い、現在の

生活基盤は保障されるのか、何よりも社会体制がどのように変化するのか等々。交流会で香港のインターアクターの青年が私に問いかけた、「日本の人は、どう考えていますか」と。問い返した私に「わからない」と答えた彼の表情は、憂いをおびたものであった。たとえそれが、あのさわやかな若者のほんの一瞬の表情であったとしても、現在の香港の人々の率直な思いが伺えたのである。

迫り来る現実とその集積たる歴史に対する認識の度合は国民性によって異なる。わがインターアクターと交流する多くの香港の若者たちからは、それらを超克していこうとする逞しさも感じられたことは心強い限りであった。不安ながらもしたたかに生きる ── これが香港の若者気質というものなのか。それにしても言語や慣習の違いといった、あらゆる障害を越えて理解を深め合う若者たちの姿に、羨望の念にも似た感慨を禁じ得ない旅であった。

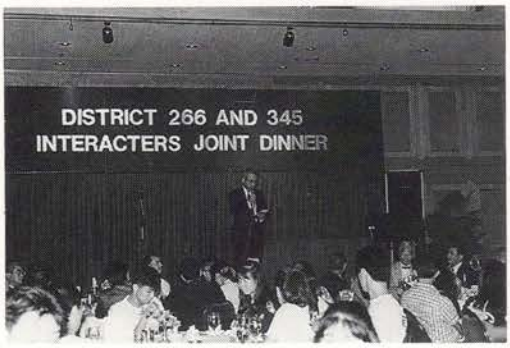
Ⅳ　ロータリアンからのコメント

皆さんに期待すること

ヴィクトリアＲＣ会長
塩　路　桂一郎

２１世紀に於て、世界経済に与える東南アジアの影響は、皆さんが思っている以上に大きいでしょう。従ってその時に日本が果たすべき役割も大きくあるべきです。今の日本がそのような立場に立っているとは思えません。確かに経済上での貢献は大きくなって来たのですが、それだけで東南アジアの人たちに親しまれ、尊敬されるかどうかは疑問です。例えばロータリークラブＤ345は６０年の歴史があり、現在３５のクラブがあります。香港の国際化を反映して、クラブの会長にはいろいろな国籍の人がいますが、日本国籍の会長は私が初めて（厳密には２人目）です。香港での日本のプレゼンスからすれば、もっと多くの人がなってもいいのでしょう。皆さんに期待することの一つがここにあります。

勿論意志を伝える手段としての言葉が通じないとコミュニケーションが出来ません。皆さんに日本語でお話する前に、中国語（北京語）で挨拶をしましたが、この中国語は１週



間に１時間半、２年間の結果です。私より若い皆さんが言葉を覚えるのに私より長い時間がかかる筈はありません。これも皆さんに期待することです。

皆さんが活躍する時は２１世紀なのですから、先程お話したように、東南アジアが世界に影響をと与える時代です。今回の会合の様に若い皆さんが国際交流、特に東南アジアの人々とより理解を深め、友情の輪を広げ、影響力発揮することは大切な事です。これも皆さんに期待していることです。

皆さんの今後の活躍を祈っています。

海外研修に同行して

第266地区インターアクト委員
大阪阪南ＲＣ　**和　田　　健**

初めての参加ですが、昨年来インターアクトの海外研修については、いろいろな意見が聞かれ考えさせられることが多かったので、研修内容に興味を持って参加しました。

ロータリーがインターアクトクラブを提唱する目的は、社会奉仕と国際交流を通じて次代を担う健全な青少年を育成することにあります。過去のことは知らないので比較できませんが、今回の研修は、現地ＲＩ345地区のインターアクターとの交流や施設訪問もセットされ、ロータリーの目的に沿ったものであったと思います。

旅行中の行動も、皆が勝手に振舞っている

ようで誰も他の人に迷惑をかけない素晴らしいもので、さすがインターアクターとうれしくなりました。旅行では香港の雑踏を散策する機会はありませんでしたが、こんな行動のとれる若者達なら自由行動をさせてあげたらもっと充実した旅行になったのではと考えました。

日頃の精進の成果を見せてもらってありがとう、これからもますます人格見識を磨いて充実した人生を送られることを期待しています。

そうそう注文が一つあります。インターアクトの歌はもっと元気よく歌って下さい。交歓パーティでの歌声は、香港のインターアクター達のそれと比べてとてもさびしく思いました。

海外研修に同行して

引率ドクター
大阪住吉ＲＣ　川　畑　徳　幸

元気一杯の高校生の海外研修旅行に医療担当者として同行するに際して、食事などによる消化器系疾患の発生を想定して薬剤などの準備をした。出発前浪速高校におけるオリエンテーションに参加して、生徒諸君に対するきめ細かい注意がなされているのを承知していたので、健康上問題のある生徒は参加しないと考えていたからである。しかし、香港に到着して夕食をすませ、宿泊室に落ちついた午後８時、嘔吐を主訴とする女子高校生がいるとの連絡をうけた。

彼女は生来乗物酔にかかりやすく、出発の前日にも自家用車で買物に出かけて１回嘔吐したり、当日も嘔吐していたとのことで、当日の朝食、機内食、夕食は殆んどとっておらず、従って嘔吐物は胃液のみとのことで症状の聴取も順調に行れなかった。原因の如何によらず既に脱水症状をあらわしており、早急に積極的改善をはかる必要があると判断した。

この時点で翌日のバス旅行は中止せざるを得ないと判断し顧問の先生１人と共にホテル待機してもらうことにした。その後の症状から急性胃腸炎が発症しているものと判断し、薬剤を追加投与し、併せて３日目も旅行の不参加を決定せざるを得なかった。

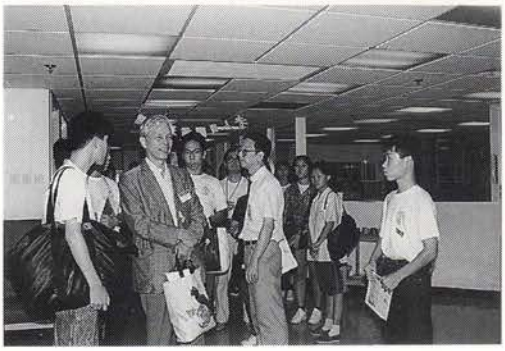
第２日目夕に同僚の生徒に参加を訴えていたようであるが、水中翼船による往復、中国内のバスによる旅行である故待機を決定したわけである。第４日目の午後100％元気になったとの報告を受け一行と合流した。同日の香港インターアクトとの交歓夕食会には赤いリボンを髪につけ、ゆかた姿で盆踊りにも加っているのが印象的であった。

以上をふりかえると、乗物酔いにかかりやすいという事で、出発前から発生していた胃腸の変調を本人も家人も重大に考えていなかったところに今回の原因があったと思われる。

顧問の先生のおはからいにより大事に至らず、最終行事に参加できたのは幸いであった。

その他５名の方から相談をうけたが軽くすみ、最も心配していた集団食中毒などの発生をみなかったことは、出発前の諸注意が参加者の皆さんによってよく守られた結果であると考えられ、よろこばしいことであった。

(注)　この文は川畑先先のお許しを得て要旨のみをまとめました。



顧問団代表として

浪速高校ＩＡＣ顧問
本　間　靖　彦

香港を中心とした266地区の海外研修が無事終った。私自身「やれやれ、やっと終った」という感が否めない。なぜなら４年間続いたハワイのホームステイを中心とした研修から、研修先を米西海岸に変更し企画をすすめていた矢先、ロータリークラブから「アジアに目を向けよ」との強い要望で香港に決定するまでに、かなりの紆余曲折があったからである。

海外研修に関し、ロータリアンと顧問団との考え方や認識の違いはかなりの差があった。

特にインターアクトとローターアクトとの指導者の立場の違いを容易に判っていただけないのには苦労した。

そんな事があって、香港と決定し具体的にスタートする時期が遅れてしまったうえ、７月２９日に年次大会が予定され、当番校としては連日の暑さに加え正に酷暑の毎日であった。

幸いにも飯原弘章委員長をはじめ、参加ロータリアン、顧問団の先生、参加生徒の協力のお陰で事故もなく研修は大成功裡に終える事ができた。

次代を担う若者が知り合い、語り合う事には大きな意義がある。世界が大きく変りつつある今日、若者が直接その国の異文化に触れ理解する事の大切さは、誰もが認めるところであろう。英語力の弱さを痛感した人、交流に興味を持った人、仲の良い友人をつくった人、今後これをどう生かしてくれるかが私達引卒者の楽しみでもある。

しかし、旅行中私自身の脳裏から消える事のない一つの問題があった。

それは、参加を希望しながら国籍の関係で加われなかった仲間がいた事である。

リーダーとして活躍しながら肝心の研修には参加できない。こんな酷な事があって良いのだろうか。あらためて国交が無いという非常さを感じたのは私だけではなかったはずである。旅行中の失敗談や帰国途中のニアミス騒ぎも終れば全て一笑に付されるが、国籍の問題については今後も有り得る話で、大阪空港に友人を迎えに来ていた彼女の淋しそうな姿は忘れられない。

この研修を通じて色々な課題や問題も生じたが、全体を通じ種々御協力、御理解頂いたロータリアン、諸先生方に心より感謝申し上げ、私の感想としたい。

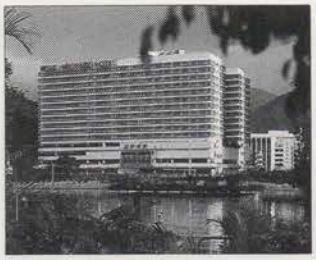
V想い出のアルバム

驚異世界 海上食府
THE WORLD RENOWNED FLOATING RESTAURANT
JUMBO
HONG KONG
香港

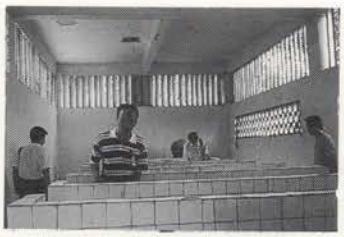
V-ERACT CLUB
INTERACT

INTERACT CLUB
INTERACT

REGAL RIVERSIDE HOTEL



The Regal Riverside Hotel stands in the foothills of Kowloon, overlooking the Shing Mun River, offering you a delightful experience in hospitality.



編　集　後　記

9月早々、各校から送られてくる原稿や写真を手に、想い出が冷めないうちに編集に取りかかろうと思いつつ、学園祭・定期テスト・リーダーシップフオーラムと次々やってくる行事に押され後々になってしまいました。

研修中から資料やスナップを出来るだけ集めたつもりですが、やり始めるとまだ原稿や写真が揃っていなかったり、レイアウトがうまくいかなかったりで、悪戦苦闘する結果になりました。

編集にあたっては各校公平に載せることを心掛けましたが、参加人数等の関係で多少の差がでました事をお許し願いたいと思います。

参加者レポートの内容の大半は、自分の英語力（会話力）の貧弱さと、交歓会での楽しさを挙げているように、国際交流については、まだまだ後進国であるといえます。

その為にもこの研修会に参加した諸君が今後オーガナイザーとなってその輪が拡がっていく事を期待すると共に、普段の活動に今迄以上の目的意識を持ってインターアクターとして成長してくれることを期待いたします。

最後に飯原委員長をはじめとして、ロータリアンの皆様方、顧問の先生方には深く感謝の意を表しますと共に、発刊が遅れました事を心よりおわび申し上げます。

浪速高校　**本　間　靖　彦**

発　　行　　RI第266地区IAC

ホスト校　　浪速高等学校

編 集 者　　飯原　弘章（地区委員長）

　　本間　靖彦（浪速高校）

　　春田　義幸（浪速高校）

発 行 日　　平成3年3月20日

印　　刷　　綜合印刷　寿々栄